

海港檢疫法

第一條 海外諸港及臺灣ヨリ來ル船舶ニ對シテハ傳染病豫防ノ爲檢疫ヲ施行ス
檢疫ヲ施行スヘキ海港及傳染病ノ種類ハ内務大臣之ヲ指定ス

第二條 海外諸港及臺灣ヨリ檢疫ヲ施行スル港ニ來ル船舶ハ其ノ入港前ニ於テ此ノ法律ニ依リ
檢疫ヲ受ケ許可證ヲ得タル後ニ非レハ其ノ港ニ入港シ陸地又ハ他船ト交通シ船客乗組員ノ上
陸、物件ノ陸揚ヲ爲スコトヲ得ス
前項ノ船舶ニシテ入港後傳染病患者ヲ發生シタルトキハ檢疫官吏ノ指定ニ從ヒ更ニ檢疫ヲ受
ケ許可證ヲ得ルニ非レハ他港ニ進航シ陸地又ハ他船ト交通シ船客乗組員ノ上陸、物件ノ陸揚
ヲ爲スコトヲ得ズ

第三條 船長其ノ他ノ乗組員及船客ハ檢疫官吏ノ尋問ニ對シテ之ニ應答シ又船長其ノ他ノ乗組
員ハ檢疫官吏ノ請求アルトキハ所定ノ式紙ニ事實ヲ記入シ其ノ氏名ヲ署シタル明告書ヲ差出
スヘシ

船長ハ檢疫官吏ノ請求ニ應シテ航海日誌ヲ示シ且船内ノ各部ヲ開キ検査ヲ受クヘシ但シ艙ハ
航海中船客又ハ乗組員ニテ占居シタルトキ又ハ他ノ事故ニ依リテ傳染病毒ニ汚染シタル疑ア
ルトキニ限リ其ノ検査ヲ受クヘシ

第四條 海外諸港及臺灣ヨリ檢疫ヲ施行スル港ニ來ル船舶ニシテ左ノ各號一ニ該當スルモノ
ハ其ノ入港前ヨリ許可證ヲ得ルマテ檢疫信號ヲ掲グヘシ
一 現ニ傳染病患者若ハ死者アルモノ
二 航海中傳染病患者若ハ死者アリタルモノ

三 傳染病流行地ヲ發シ又ハ其ノ地ヲ經テ來航シ若ハ傳染病毒ニ汚染シタル船舶ト交通シタ
ルモノ

第二條第二項ノ船舶ハ患者發見ノ時ヨリ許可證ヲ得ルマテ檢疫信號ヲ掲グヘシ

檢疫信號ハ晝間ハ船舶ノ前橋頭ニ黃旗ヲ掲ケ夜間ハ同所ニ紅白二燈ヲ連掲スルモノトス

第五條 海外諸港及臺灣ヨリ檢疫ヲ施行セサル港ニ來ル船舶ニシテ第四條第一項ノ各號ノ一ニ
該當スルモノ又ハ其ノ港内ニ碇泊中傳染病患者ヲ發生シタルモノハ前條ノ規定ニ從ヒ檢疫信
號ヲ掲ケ其ノ地ノ警察官吏ニ届出テ指揮ヲ待ツヘシ
前項ノ場合ニ於テ警察官吏ノ命アルトキハ直ニ檢疫ヲ施行スル港ニ回航シテ檢疫ヲ受クヘ
シ

第一項ノ場合ニ於テ警察官吏ノ指揮アルマテハ他港ニ進航シ陸地又ハ他船ト交通シ船客乗組
員ノ上陸、物件ノ陸揚ヲ爲スコトヲ得ス

第六條 檢疫官吏ハ第一條ノ船舶ニ對シ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

一 現ニ傳染病患者若ハ死者アルモノハ命令ノ定ムル期間停船ヲ命シ患者死者ノ處分ヲ指示
シ船舶其ノ他ノ物件ノ消毒法ヲ施行シ且必要アリト認ムルトキハ船客乗組員ヲ檢疫所ニ移
轉セシムルコト

二 航海中傳染病患者若ハ死者アリタルモノハ第一號ノ規定ニ準シテ處分スルコト

三 傳染病流行地ヲ發シ又ハ其ノ地ヲ經テ來航シ若ハ其ノ船舶ニ傳染病毒ノ汚染シタル疑ア
ルノモノハ必要アリト認ムルトキ第二號ノ規定ニ準シテ處分スルコト

四 停船中傳染病患者ヲ發生スルトキハ更ニ第一號ノ規定ニ依リ處分スルコト

五 傳染病ノ疑アル患者アルトキハ二日ヨリ多カラサル期間停船ヲ命スルコト
 第七條 停船ヲ命セラレタル船舶ハ檢疫官吏ノ指示シタル場所ニ碇泊シ其ノ許可ヲ得ルニ非レハ他ニ移轉スルコトヲ得ス

第八條 檢疫所ニ移轉セシメラレタル船客乗組員ハ檢疫官吏ノ許可ヲ得ルニ非レハ本船其ノ他ト交通シ若ハ物件ヲ搬出スルコトヲ得ス

第九條 船舶及物件ノ消毒ハ檢疫官之ヲ施行シ船長其ノ他ノ乗組員ハ其ノ施行上ニ關シ之ヲ補助スルノ義務アリ

前項ノ消毒費ハ船主船長若クハ其ノ代理人ヨリ徵收ス

第十條 檢疫所ニ移轉セシメラレタル者ノ食費及患者死者ニ關スル費用ハ其ノ乗組員ニ屬スルモノハ船長若クハ其ノ代理人ヨリ其ノ船客ニ屬スルモノハ本人ヨリ之ヲ徵收ス
 本條及第九條第二項ノ費額及其ノ徵收ニ關シ必要ノ規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十一條 第二條第五條第七條第八條ノ規定ニ違背シタルモノハ五十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十二條 此ノ法律ノ執行ヲ拒ミ若クハ之ヲ妨害シ又ハ檢疫官吏ノ尋問ニ對シテ答辯ヲ爲サス若ハ虛偽ノ事實ヲ答辯シ又ハ其ノ命令ニ從ハサルモノハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

船長若ハ船長ノ職務ヲ行フ者前項ノ罪ヲ犯シ又ハ船客乗組員ノ之ヲ犯スヲ知テ制止セザルトキハ五十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

第十三條 内外國ノ軍艦ニシテ檢疫ヲ施行セル港ニ來航スルニ當リ第四條第一項各號ニ該當スル事實ナキトキハ其ノ艦長及醫官ヨリ書面ヲ以テ檢疫官吏ニ其旨ヲ明告スヘシ

内外國ノ軍艦ニシテ第二條第二項第四條第一項各號ノ一ニ該當スル事實アルモノハ檢疫官吏ニ於テ其艦ト陸地又ハ他船トノ交通乗組員ノ上陸、物件ノ陸揚ヲ制限スルコトヲ得又同上ノ軍艦ニシテ第五條ノ規定ニ該當スル場合ハ其ノ地ノ警察官吏ニ於テ以上ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第二條第二項及第五條ニ該當スル事實アルトキハ艦長及醫官ヨリ其ノ旨ヲ檢疫官吏又ハ警察官吏ニ通知スヘシ

前三項ノ外軍艦ニ對スル檢疫ハ檢疫官吏ニ於テ艦長ト協議シ此ノ法律ノ規定ニ準シテ執行スルモノトス

第十四條 此ノ法律施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(明治三十二年七月勅令第三百二十六號ヲ以テ本條ノ施行期日ヲ明三十二年八月四日ト定ム)

第十五條 明治十二年第二十九號布告明治十五年第三十一號布告明治二十四年勅令第六十五號明治二十七年勅令第五十六號ハ此法律施行ノ日ヨリ廢止ス

〔參照〕 明治十二年第二十九號布告ハ查疫停船規則、同十五年第三十一號布告ハ虎列刺病流行地方ヨリ來ル船舶検査規則、同二十四年勅令第六十五號ハ海外諸港ヨリ來ル船舶ニ對シ檢疫ノ件、同二十七年勅令第五十六號ハ清國及香港ニ於テ施行スル傳染病ニ對シ船舶檢疫ノ件ナリ

同 施行規則

(明治三十二年七月内務省令第三十四號)

海港檢疫法施行規則左ノ通相定ム

海港檢疫法施行規則

第一條 檢疫ヲ施行スル海港ハ横濱港、神戸港、長崎港、門司港、下ノ關港及口ノ津港トス其
他ノ海港ニ於テ臨時ニ檢疫ヲ施行スルトキハ告示ヲ以テ之ヲ指定ス (明治三十三年三月内務
省令第九號ヲ以テ本條ヲ改ム)

下ノ關港ニ來ル船舶ハ門司海港檢疫所ノ檢疫ヲ受クヘシ

横濱港ニ於テ檢疫ヲ受ケタル船舶ニシテ消毒ヲ要スルトキハ長濱ニ口ノ津港ニ於テ檢疫ヲ受
ケタル船舶ニシテ消毒ヲ要スルトキハ女神ニ同航セシム

海港檢疫所ニ於テ消毒ヲ施行シ能ハサル場合ハ内務大臣ハ消毒ノ必要アル船舶ヲ他ノ海港檢
疫所ニ同航セシムルコトヲ得 (三十二年一月内務省令第一號ヲ以テ本項ヲ加フ)

第二條 檢疫ヲ施行スル傳染病ハ虎列刺、痘瘡、猩紅熱、「ペスト」、黃熱トス其他ノ傳染病ニ
對シ臨時檢疫ヲ施行スルトキハ告示ヲ以テ之ヲ指定ス

第三條 海港檢疫法第六條第一項第一號ノ停船期間ハ消毒法ノ施行ヲ了リタル時ヨリ起算シ
「ペスト」ハ十日間、虎列刺、黃熱ハ五日間トス但第三號ノ場合ニ於テハ傳染病流行地ヲ發シ
又ハ其地ヲ經過シ若ハ傳染病毒ニ汚染シタリト疑フヘキ事實アリタル時ヨリ起算ス (明治三
十二年十二月内務省令第五十六號ヲ以テ「七」ヲ「十」ニ改メ即日施行ス)
帝國ノ海港檢疫所ニ於テ消毒又ハ停船ノ處分ヲ受ケ其後異狀ナキモノハ再ヒ停船又ハ消毒セ

ラルコトナシ

傳染病流行地ハ其都度告示ヲ以テ之ヲ指定ス

第四條 海港檢疫法ニ依リ交付スル許可證ハ其處分ノ如何ニ依リ第一號乃至第三號様式ニ據
ル

明告書ハ第四號様式ニ據ル

第五條 傳染病及其疑アル患者ハ海港檢疫所ノ隔離室ニ入ラシムルコトヲ得

第六條 海港檢疫所ノ停留所ニ移轉セシメタル船客若ハ乗組員ハ第三條第一項ノ期間之ヲ停留
ス若其船客若ハ乗組員ニ傳染病ヲ發シタルトキハ其全部若ハ一部ノ人員ニ對シ又ハ第三條第
一項ノ期間停留ヲ繼續ス但其船舶ニ及ホスコトナシ

第七條 死體ハ所定ノ場所ニ於テ火葬シ其遺骨ハ引受人又ハ船長若ハ其代理人ニ引渡スヘシ若
引受人ナク船長若ハ其代理人在ラサルカ又ハ引受人拒ムトキハ行旅病人及死亡人取扱法ニ依
リ處分スヘシ

親族又ハ縁故アル者ヨリ死體引渡ヲ願出タルトキハ病毒傳播ノ虞ナシト認ムル場合ニ限り之
ヲ許可スルコトヲ得

第八條 海港檢疫法第五條ノ場合ニ於テハ警察官吏ハ最寄檢疫所ニ同航セシムヘシ但船長若ハ
其代理人ノ中出アルトキハ本條第二項第三項ニ依リ處分スルコトヲ得

警察官吏若シ其船舶ノ檢疫ヲ施行スル海港ニ同航シ雖シト認ムル場合又ハ相當ノ處置ヲ爲シ
得ヘシト認ムル場合ニ於テハ最寄檢疫所ニ同航セシメス船長及其他ノ乗組員ヲシテ相當ノ消
毒法ヲ施行セシムルコトヲ得此場合ニ於ケル費用ハ船主、船長若ハ其代理人ノ負擔トス

前項ノ場合ニ於テ患者ヲ隔離スルノ必要アリト認メタルトキハ本人又ハ船主、船長若ハ其代理人ヲシテ實費ヲ仕拂ハシメ所定ノ場所ニ收容スルコトヲ得

第九條 消毒費ハ左ノ區別ニ依リ徵收ス但内外國軍艦及帝國陸軍部隊ニ關スルモノハ此限ニアラス

船舶消毒費

登簿噸數百噸未満

拾圓

同百噸以上千噸未満

貳拾圓

同千噸以上二千噸未満

參拾圓

二千噸以上一千噸未満ヲ増ス毎ニ拾圓ヲ加フ

拾錢

積荷消毒費 一個ニ付

船客乘組員ノ衣服、手荷物、所持品ノ消毒費

一二等船客及之ニ進スヘキ乘組員

一人分ニ付 壹圓

三等船客及之ニ進スヘキ乘組員

一人分ニ付 拾錢

第十條 海港檢疫所ニ移轉セシメタル者ノ食費及患者死者ニ關スル費用ノ徵收額ハ地方長官之ヲ定ム(明治三十五年三月內務省令第八號ヲ以テ本條ヲ改ム)

附則

第十一條 大和船、漁船等ニ對シテハ此規則ヲ適用セス(書式ハ之ヲ略ス)

海港檢疫法ニ依リ施行スル船舶檢疫手續準據方

(明治三十五年四月內務省訓令第九號)

海港檢疫法ニ依リ施行スル船舶檢疫手續ハ明治三十二年(七月)內務省訓令第二十六號ニ據ルヘシ

〔參照〕 明治三十二年內務省訓令第二十六號ハ船舶檢疫手續ナリ(後ニ出ス)

船舶檢疫規則 (明治三十年七月內務省令第二十二號)

傳染病豫防法第十八條ニ依リ船舶檢疫規則左ノ通定ム

船舶檢疫規則

第一條 府縣知事(東京府ハ警視總監)船舶檢疫ヲ施行セントスルトキハ檢疫スヘキ傳染病及其ノ目的地方ヲ指定シ檢疫施行ノ場所及開始ノ期日ヲ定メテ內務大臣ノ認可ヲ受ケ併セテ關係

府縣廳(東京府ハ警視廳)ニ通知スヘシ其ノ廢止ノトキ亦之ニ進ス

關係府縣廳(東京府ハ警視廳)ニ於テ本條ノ通知ヲ受ケタルトキハ其ノ旨ヲ告示スヘシ

第二條 府縣知事(東京府ハ警視總監)ノ指定シタル地方ヲ發シ又ハ其ノ地方ヲ經テ檢疫ヲ施行スル港ニ來ル船舶ハ檢疫掛員ノ尋問又ハ檢査ヲ受ケ其許可ヲ得タル後ニアラサレハ他港ニ進

航シ陸地又ハ他船ト交通シ乗客乘組人ヲ上陸セシメ又ハ積荷手荷物ノ陸揚ヲ爲スヘカラス

航行中又ハ現ニ傳染病患者若クハ死者ナキ船舶ニハ直ニ前項ノ許可ヲ與フルコトヲ得

第三條 航行中又ハ現ニ傳染病患者又ハ死者アリタル船舶及停留中ノ船舶ハ黃旗ヲ前櫓ニ掲載

スヘシ但檢疫掛員ノ許可ヲ得ル迄ハ之ヲ下スヘカラス
 第四條 航行中又ハ現ニ傳染病患者又ハ死者アリタル船舶ニハ消毒方法ヲ施行シ港内適當ノ場所ニ停留セシムルコトヲ得

前項停留ノ日時ハ傳染病豫防法施行規則第六條交通遮斷ノ日時ニ準ス停留中新クニ患者ヲ發シタルトキハ其ノ處置ヲ了シタル日ヨリ起算シ更ニ同期間停留ヲ繼續スルコトヲ得
 檢疫掛員ニ於テ消毒方法ヲ施行スルトキハ乗組人ナシテ補助ヲ爲サシメ及器具藥品等ヲ供給セシムルコトヲ得

第五條 船舶中傳染病患者又ハ死者アリタル場合ト雖モ乗客乗組中患者死者ト飲食起居共ニシタル等ニ依リ檢疫掛員ニ依テ病毒感染ノ虞アリト認ムル者ノ外ハ消毒方法ヲ施行シタル後直チニ上陸ヲ許可スルコトヲ得

第六條 船舶中傳染病患者又ハ死者アリタル場合ト雖モ積荷手荷物ハ消毒方法ヲ施行シタル後直ニ陸揚ヲ許可スルコトヲ得但檢疫掛員ニ於テ病毒汚染ノ虞ナシト認ムル積荷手荷物ニハ消毒セサルモ妨ケナシ

第七條 船舶檢疫ノ際發見シタル傳染病患者ハ市町村立ノ傳染病院又ハ隔離病舎其他適當ノ場所收容治療シ死者ハ引受人ニ引渡シ若シ引受人ナキトキハ明治十五年(九月)布告第四十九號行旅死亡人取扱規則ニ準シ市町村長、區長(沖繩縣ノ區長)又ハ戶長(戶長ニ準スヘキ者ナシム)ナシテ其ノ處置ヲ爲サシムヘシ但該規則ト第二條末段ノ場合ニ於テハ發見地ノ府縣稅又ハ地方稅ヲ以テ其ノ費用ヲ支辨スヘシ

第八條 船舶檢疫ノ際發見シタル傳染病患者ヲ市町村立ノ傳染病院又ハ隔離病舎ニ收容中特ニ要シタル費用ニシテ該患者ヨリ徵收スヘキモノハ前條末段ニ依リ取扱ヒ其ノ本籍詳カナラサル場合又ハ身元赤貧ニシテ償却ノ途ナキ場合ニ限リ發見地府縣知事ニ請求スヘシ但本條ノ費用ニシテ患者ヨリ徵收スヘカラサルモノハ直ニ發見地府縣知事ニ請求スルコトヲ得
 發見地府縣知事ハ前項ノ請求アリタルトキハ府縣稅又ハ地方稅ヨリ之ヲ支辨スヘシ
 第九條 消毒方法ヲ施行スヘキ船舶ハ其ノ港ニ於ケル消毒設備ノ都合等ニ依リ他ノ港ニ回航セシムルコトヲ得

第十條 檢疫掛員ハ職務執行上必要アリト認ムルトキハ無償ニテ其ノ船舶ニ乗込ムコトヲ得此ノ場合ニ於テハ船長若クハ事務員ニ其ノ旨ヲ通告スヘシ
 第十一條 傳染病患者又ハ死者ナキ船舶ト雖モ檢疫掛員ニ於テ必要ト認ムルトキハ其ノ全部又ハ一部ニ清潔方法消毒方法ヲ施行セシムルコトヲ得

附則

第十二條 船舶檢疫施行中府縣知事(東京府ハ警視總監)ノ指定シタル以外ノ地方ヨリ來リタル船舶又ハ其ノ港ニ碇泊中ノ船舶ニ傳染病患者又ハ死者アリタルトキハ此ノ規則ヲ準用ス
 第十三條 府縣知事(東京府ハ警視總監)ハ大和船漁船等ノ檢疫ニ關シ別段ノ規程ヲ設クルコトヲ得
 第十四條 明治十四年内務省令乙第四十九號傳染病豫防規則第十三條船舶檢查手續ハ廢止ス

船舶檢疫手續 (明治三十二年七月内務省訓令第二十六號)

船舶檢疫手續左ノ通定

船舶檢疫手續

- 第二條 檢疫ヲ施行スル港ニ向テ來航セル船舶アルトキハ萬國船舶信號ヲ以テ番船及見張所ニ接近セシメ一時停止ヲ命ジ船長又ハ乘組員ニ就キ各號ヲ尋問スヘシ
 - 一 發航地名
 - 二 寄港地名
 - 三 現ニ傳染病患者死者ノ有無
 - 四 航海中及寄港中傳染病患者死者ノ有無
 - 五 傳染病アリタル船舶又ハ傳染病流行地ヨリ來リタル船舶ト交通ノ有無
- 第二條 內國沿海航行ノ船舶ナルコト明瞭ナルモノハ前項停止尋問ノ限ニアラス
- 第二條 海上不穩ニシテ來港ノ船舶ニ至ル能ハサルトキハ萬國船舶信號ヲ以テ前條ノ尋問ヲ爲シ其船舶若検査ヲ要スルモノアルトキハ港外碇泊ヲ命シ風浪鎮靜ノ後検査ヲ行フヘシ
- 港外停船ノ命令ニ從ハス又ハ信號ニ應セスシテ進航スル船舶アルトキハ回航セシメ尋問若ハ検査ヲ行フヘシ(明治三十五年四月內務省令第八號ヲ以テ本項ヲ改ム)
- 日没後來港ノ船舶ハ郵便船又ハ火急ノ場合ヲ除クノ外港外碇泊ヲ命シ翌朝日出後尋問検査ヲ行フヘシ
- 第三條 第一條ノ船舶ニシテ海外諸港及臺灣ヨリ來レルモノハ船長若ハ乘組員ニ所定ノ明告書用紙ヲ交付シ各項ニ記入セシメ之ト同時ニ船客乘組員ノ全部若ハ一部ヲ甲板ニ集合セシム可キコトヲ命スヘシ

明告書ヲ領收シタル後總員及船室ノ検査ヲ行ヒ異狀ナシト認ムルトキハ許可證ヲ船長若ハ其代理人ニ付與スヘシ

第四條 前條ノ船舶ニ對シテハ左ノ各號ノ處置ヲ爲スヘシ

- 一 現ニ傳染病患者死者アリタルモノ及航海中又ハ寄港中傳染病患者死者アリタルモノハ消毒法ヲ行ヒ痘瘡、猩紅熱ノ外ハ停船ヲ命スヘシ
 - 二 傳染病流行地ヲ發シ又ハ其地ヲ經過シ若ハ傳染病ニ汚染シタル船舶ト交通シ又ハ其疑アル船舶ニシテ必要ト認ムルトキハ消毒法ヲ行ヒ尙痘瘡、猩紅熱ノ外ハ停船ヲ命スヘシ
 - 三 海港檢疫法第六條第五號ニ該當スル船舶ハ消毒ヲ要セス
- 前項ノ場合ニ於テハ税關及郵便局ニ通知スヘシ(同上法令ヲ以テ本項ヲ改ム)
- 第五條 「バスト」、虎列刺、黃熱若ハ其疑アル患者死者ニ觸接シタルカ又ハ其疑アル船客及乘組員ハ檢疫所ニ移轉セシムヘシ(同上法令ニテ第五條ヲ削リ第六條ヲ第五條トシ以下順次ニ繰上ク)
- 第六條 内外國軍艦ナルトキハ第一條ノ各號ヲ艦長若ハ醫官ニ就キ尋問シ書面ヲ徴スヘシ但此場合ニ於テハ明告書用紙及許可證ヲ交付スルヲ要セス
- 第七條 内外國軍艦ニシテ第四條第一項ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其艦長ト協議シ消毒法ヲ施行スヘシ
- 第八條 船舶及物件ヲ消毒スル場合ニハ左ノ各號ニ據ルヘシ
- 一 船室、甲板及周圍ハ石炭酸水若ハ石灰乳ヲ以テ處置シ後海水ヲ以テ充分洗滌スヘシ
 - 二 船底汚水ハ港外ニ於テ排除シタル後海水ヲ以テ船底ヲ洗滌シ若シ必要ノ場合ニハ海水ヲ

汲出シタル後稀薄ナル石灰乳(生石灰一分、水九十九分ノ割合ノモノ)ヲ以テ船底ヲ消毒スヘシ

三 船室内ノ器具、敷物等ハ其物質ニ應シ石炭酸水ヲ以テ處置スルカ又ハ蒸汽消毒ヲ應用スヘシ

四 寢具、衣服類及携帶品ハ其品質ニ應シ蒸汽消毒ヲ應用シ高熱ニ堪ヘサルモノハ石炭酸水ヲ以テ處置スルカ又ハ充分日光ニ曝スヘシ
甚シク病毒ニ汚染シタルモノハ所有主ノ承諾ヲ經テ成ルヘク燒却スヘシ

五 食器ハ煮沸スルカ又ハ木灰汁ヲ以テ處置スヘシ

六 食料水ハ石灰乳ヲ以テ處置スルカ又ハ其水槽ニ熱蒸汽ヲ通シ沸騰セシメテ投棄スヘシ

七 「バラスト」ハ消毒ノ必要アルトキハ船底汚水及ヒ艙内荷物ニ準シテ處置スヘシ
前項ノ外消毒藥ノ溶解分量及用法消毒時間ハ明治三十年内務省令第十三號清潔方法消毒方法各條ノ規程ニ據ルヘシ

第九條 船客及乗組員ノ停留中ハ時々巡回シ其ノ健否ヲ觀察シ必要ト認ムルトキハ健康診斷ヲ施行スヘシ

健全證書交附手續

(明治三十二年七月内務省令第四十號)

健全證書交附手續左ノ通定ム

健全證書交附手續

第一條 外國通ヒノ船舶出港セントスルトキハ其地ノ地方長官ニ健全證書ノ交附ヲ申請スルコトヲ得

トヲ得

第二條 海港檢疫所、同支所又ハ臨時海港檢疫所ノ設ケアル港ニ於テハ前條ノ申請ハ海港檢疫所長、同支所長又ハ臨時海港檢疫所長ニ差出スヘシ

第三條 健全證書ノ交附ヲ申請スルモノハ手数料トシテ金五圓ヲ納ムヘシ

健全證書

第四條 健全證書ハ左ノ書式ニ依ル
現時當港ニハ傳染病(虎列刺、赤痢、腸窒扶私、痘瘡、發疹窒扶私、猩紅熱、實布埤利亞)格魯布ヲ含ム「バラスト」ノ流行之レナク且本日出港(船名)ノ健全ナルコトヲ證明スル爲メ此證書ヲ船長某ニ附與ス

某(廳長官府縣知事)印

附 則

第五條 本令ハ明治三十五年四月一日ヨリ施行ス

明治二十七年内務省令第三號健全證書交附ノ件及明治三十二年内務省令第四十號健康證書交附手續ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

汽車檢疫規則

(明治三十年七月内務省令第十九號)

傳染病豫防法第十八條ニ依リ汽車檢疫規則左ノ通定ム

汽車檢疫規則

第一條 府縣知事(東京府ハ警視總監)汽車檢疫ヲ施行セントスルトキハ檢疫スヘキ傳染病及其

ノ目的地方ヲ指定シ檢疫施行ノ停車場及開始ノ期日ヲ定メテ内務大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ告示シ合セテ關係府縣廳(東京府ハ警視廳)ニ通知スヘシ其ノ廢止ノトキ亦之ニ準ス但官設鐵道ノ停車場ニ於テ檢疫ヲ施行スルトキハ遞信省ニモ申報スヘシ

關係府縣廳(東京府ハ警視廳)ニ於テ本條ノ通知ヲ受ケタルトキハ其ノ旨ヲ告示スヘシ

第二條 汽車中ニ傳染病患者又ハ死者アリタルトキハ患者ハ之ヲ市町村立ノ傳染病院又ハ隔離病舎其ノ他適當ノ場所ニ收容治療シ死者ハ引受人ニ引渡シ若シ引受ナキトキハ明治十五年(九月)布告第四十九號行旅死亡ノ取扱規則ニ準シ市町村長、區長(沖繩縣ノ區長)又ハ戶長(戶長ニ準スヘキモノヲ含ム)ヲシテ其ノ處置ヲ爲サシムヘシ但該規則第二條末段ノ場合ニ於テハ發見地ノ府縣稅又ハ地方稅ヲ以テ其ノ費用ヲ支辨スヘシ

第三條 汽車檢疫ノ際發見シタル傳染病患者ヲ市町村立ノ傳染病院又ハ隔離病舎ニ收容中特ニ要シタル費用ニシテ該患者ヨリ徵收スヘキモノハ前條末段ニ依リ取扱ヒ其ノ本籍詳カナラサル場合又ハ身元赤貧ニシテ償却ノ途ナキ場合ニ限リ發見地府縣知事ニ請求スヘシ但本條ノ費用ニシテ患者ヨリ徵收スヘカラサルモノハ直ニ發見地府縣知事ニ請求スルコトヲ得

發見地府縣知事ハ前項ノ請求アリタルトキハ府縣稅又ハ地方稅ヨリ之ヲ支辨スヘシ

第四條 汽車中ニ傳染病患者又ハ死者アリタルトキハ患者死者ト同車室ニ在ルカ否ラサルモ病毒汚染ノ虞アル乗客手荷物ハ一時之ヲ留メテ消毒方法ヲ施行スヘシ

第五條 傳染病患者又ハ死者アリタル車室ハ之ヲ取離シテ消毒方法ヲ施行スヘシ此ノ場合ニ於テハ鐵道掛員ヲシテ補助ヲ爲サシメ及器具藥品等ヲ供給セシムルコトヲ得

傳染病患者又ハ死者ナキ車室ト雖モ檢疫掛員ニ於テ必要ト認ムルトキハ清潔方法消毒方法ヲ

施行セシムルコトヲ得

第六條 汽車中ニ傳染病患者又ハ死者アリタルトキ其ノ停車場ニ於ケル設備ノ都合等ニ依リ前數條ニ規定シタル事項ヲ施行スルコト能ハサルトキハ假ニ病毒ノ散逸ヲ防クヘキ相當ノ手當ヲ爲シ汽車室ノ出入口ヲ閉鎖シテ乗客ノ出入ヲ止メ他ノ停車場ニ至リ其ノ處置ヲ爲スヘシ

第七條 檢疫掛員ニ於テ職務執行上必要アルトキハ無償ニテ其ノ列車ニ乗込ミ又ハ必要ナル通信ヲ驛長若クハ掛員ニ求ムルコトヲ得無償乗車ノ場合ニ於テハ官職氏名ヲ記シタル證票ヲ驛長若クハ掛員ニ示スヘシ

附則

第八條 汽車檢疫施行中府縣知事(東京府ハ警視廳總監)ノ指定シタル以外ノ地方ヨリ來リタル汽車ニ傳染病患者又ハ死者アリタルトキハ此ノ規則ヲ準用ス

第九條 明治二十三年內務省訓第四五二號汽車檢疫心得ハ廢止ス

第三篇 賣藥

賣藥規則 (明治十年一月第七號布告)

賣藥規則別冊ノ通相定候條此旨布告候事

(別冊)

賣藥規則

第一章

第一條 本法ニ於テ賣藥營業者ト稱スル賣藥ヲ調製シ又ハ外國ヨリ輸入シテ販賣スル者ヲ云フ
(明治十年第八十九號及同三十三年二月法律第十四號ヲ以テ本條ヲ改ム)

第二條 此賣藥營業者ハ藥味分量用法服量效能ヲ詳記シタル書ニ族籍地名ヲ記シ其管轄廳ニ願
出免許鑑札ヲ受クヘシ(明治十一年第二十七號布告ヲ以テ本條改正)但免許ヲ受ケタル者ニ簡
所以上ニ於テ之ヲ調製シ又ハ二個所以上ニ於テ外國賣藥ヲ輸入スル時ハ其簡所毎ニ免許鑑札
ヲ受クヘシ(明治二十五年第五十二號布告ヲ以テ但書ヲ追加シ尙三十三年法律第十四號ヲ以
テ本條ヲ改ム)

第三條 管轄廳ニ於テハ願書ヲ検査シ其製藥配伍ノ藥品劇毒微毒ニ拘ハラズ取扱上失誤ヲ生シ
易キモノ及ヒ毒藥劇藥取締ニ關係スルモノハ之ヲ許ササルヘシ(明治十一年第二十七號布告
ヲ以テ本條改正)

第四條 「第八條ニ記シタル期限中」藥味分量用法服量能書ヲ改正セント欲スルモノハ其由ヲ届
出テ舊鑑札ヲ返納シテ更ニ新鑑札願ヲ受クヘシ

輸入販賣ノ免許ヲ受ケタル外國賣藥ノ藥味分量用法服量能書ヲ外國ニ於テ改正シタルトキ其
賣藥ヲ輸入販賣セント欲スルモノ亦前項ニ同シ(明治三十三年法律第十四號ヲ以テ本項ヲ追
加ス)

第五條 賣藥ヲ請賣セント欲シ其營業者ノ許諾ヲ得タルモノハ族籍氏名ヲ記シタル願書ニ營業
者所持ノ免許鑑札寫及ヒ營業者ト取結ヒタル約定書トヲ添ヘ其管轄廳ヘ願出免許鑑札ヲ受ク
ヘシ(明治十一年第二十七號ヲ以テ本條改正)

第六條 賣藥營業者及請賣者共必ス免許ノ看板ヲ掲クヘシ

第七條 賣藥營業者及ヒ請賣者ニ於テ自ラ行商シ又ハ賣子ヲ派出シテ行商ヲ爲サシメント欲ス
ルトキハ其由ヲ管轄廳ヘ届出行商鑑札ヲ願受ケ行商スル時ハ必ス之ヲ所持スヘシ

第八條 「營業鑑札請賣鑑札行商鑑札」ハ其鑑札記載ノ月ヨリ滿五年ヲ以テ免許ノ期限トス此期
限ヲ過キ尙免許ヲ得ント欲スルモノハ舊鑑札ヲ返納シ更ニ新鑑札ヲ願受クヘシ(明治十九年
勅令七十二號ニ因リ本條自然ニ消滅ニ歸シタリ)

第九條 「第八條ニ記シタル期限中」改正發賣ヲ願出之ヲ免許スル時ハ新鑑札記載ノ月
ヲ以テ一期ノ初月トナスヘシ(同上)

第十條 「免許期間内」雖トモ「其製藥第三條ニ掲グル處」有害品ナルヲ更ニ發見スル時或ハ營
業者製藥ヲ粗惡ニシ又ハ粗惡ニシタル外國賣藥ヲ輸入販賣スル等ノコトアル時ハ直ニ鑑札ヲ
取上ク發賣ヲ禁止スルコトアルヘシ(明治十一年第二十七號布告ヲ以テ本條改正)

第十一條 營業者廢業スルカ又ハ禁止セラレル時ハ其請賣者及ヒ賣子共其販賣ヲ許サス

第十二條 舊鑑札ヲ遺失シ又ハ水火盜難ニ因テ毀失シタル時ハ其仔細ヲ詳記シテ管轄廳ヘ届出
再ヒ之ヲ願受クヘシ

第十三條 免許鑑札ヲ他人ニ讓渡サント欲スル者ハ雙方連印ノ願書ヲ管轄廳ニ差出シ名前書換
ヲ請フヘシ

第十四條 賣藥營業者及ヒ請賣者「免許期限中」其相繼人ニ於テ之ヲ相繼スル時ハ其由ヲ記シ管
轄廳ヘ鑑札名前書換ヲ請フヘシ(明治十年第八十九號布告ヲ以テ本條改正)

第十五條 賣藥營業者廢業シ若クハ禁止セラレタルトキハ營業者ハ勿論其請賣者ニ於テモ總テ
諸鑑札ヲ返納スヘシ

第三章

第十六條 賣藥營業者ハ左ノ通税金並鑑札料ヲ上納スヘシ(明治十四年第二十六號布告ヲ以テ本條改正)

賣藥營業稅 藥劑一方ニ付一箇年 金二圓
右 鑑札料 賣藥一方ニ付一枚 金二十錢

但第二條但書ニ依リ免許鑑札ヲ受クル者ハ其箇所毎ニ本文ノ税金並鑑札料ヲ納ムヘシ(明治十五年第五十二號布告ヲ以テ但書追加)

第十七條 水火盜難ニ因リ鑑札ヲ毀失シ更ニ新鑑札ヲ願受ル時ハ其鑑札料ノ半高ヲ納ムヘシ

第十八條 税金ハ毎年兩度ニ區分シ前半年分ハ一月三十一日限リ後半年分ハ七月三十一日限リ鑑札料ハ其部度並ニ管轄廳ニ上納スヘシ(明治十一年第四號布告ヲ以テ税金納期ヲ改正ス)

第十九條 税金ハ六月以前免許ノ者ハ全年分七月以後ハ半年分廢業ノ者ハ七月以後ハ全年分六月以前ハ半年分ヲ納ムヘシ但第十條ノ有害品タルヲ更ニ發見セシ時ニ限リ月割ヲ以テ税金ヲ納メシムヘシ(明治十一年第二十七號布告ヲ以テ本條改正)

第三章

第二十條 無鑑札又ハ鑑札ヲ借受ケ又ハ自ラ行商シ又ハ行商セシムル者及ヒ之ヲ貸ス者『又ハ期限前タル鑑札ヲ以テ自ラ行商シ又ハ行商セシムル者』ハ其鑑札ヲ取上ケ藥劑一方ニ付五圓ノ罰金ヲ科スヘシ

第二十一條 無鑑札又ハ鑑札ヲ借受ケ『又ハ期限過タル鑑札ヲ以テ請賣スル者』及ヒ無鑑札ノ者ヲシテ請賣セシメ又ハ鑑札ヲ貸ス者ハ其鑑札ヲ取上ケ製藥ヲ沒收シ藥劑一方ニ付十圓ノ罰金ヲ科スヘシ

ナ科スヘシ

第二十二條 第四條ノ免許ヲ受ケシテ私ニ藥名分量用法服量能書等ヲ改更シ又ハ外國賣藥ヲ輸入販賣シ又ハ許可ヲ經スシテ無積ノ妄說ヲ記載シ世人ヲ術惑スル者ハ其鑑札ヲ取上ケ製藥ヲ沒入シ藥劑一方ニ付十圓以上二十五圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ

第二十三條 無鑑札ニテ營業スル者又ハ營業者ニシテ私ニ請賣者ニ藥劑ヲ調製セシムル者又ハ請賣者自ラ之ヲ調製スル者ハ其製藥及ヒ賣得金ヲ沒入シ藥劑一方ニ付二十五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ(明治十四年第二十六號布告ヲ以テ本條改正)

第二十四條 諸鑑札ヲ偽造シ又ハ他人ノ賣藥ヲ贋造シテ發賣スル者ハ其製藥及ヒ其賣得金ヲ沒入シ藥劑一方ニ付五十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ

第二十五條 私ニ有毒藥ヲ配伍スル者又ハ有毒藥ヲ配伍シタル外國賣藥ヲ私ニ輸入販賣スル者ハ其鑑札ヲ取上ケ製藥及ヒ其賣得金ヲ沒入シ藥劑一方ニ付百圓以上五百圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ

第二十六條 以上ノ犯則者ヲ見届ケ訴出タル者アル時ハ事實取糺上相違ナキニ於テハ其ノ賞トシテ其罰金ノ半高ヲ與フヘシ

賣藥規則罰則施行日限 (明治十年二月第十六號布告)

本年(一月)第七號ヲ以テ賣藥規則布告候處該規則第三章罰則ノ儀ハ來ル六月一日ヨリ施行候條此旨更ニ布告候事但諸鑑札授受稅納其他手續ノ儀ハ追テ内務省ヨリ可相違事

賣藥取扱手續

(明治十一年十一月內務省乙第七十號達)

本年九月太政官第二十七號ヲ以テ賣藥規則改正公布相成候ニ付テハ左ノ手續並雜形ニ照準シ取扱可申此旨相違候事

賣藥取扱手續

- 一 鑑札料紙ハ別紙雜形ノ通相製シ當省ヨリ相渡スヘシ
- 一 右料紙ハ凡積ヲ以テ毎等半期分宛一月七月兩度ニ受取方當省ヘ中立ツヘシ
- 一 管廳ニ於テ鑑札ニ記スヘキ方名姓名番號等雜形ノ通記入押印之上下渡スヘシ
- 一 家畜牛馬等ニ用フル賣藥鑑札ハ赤輪廓之分ヲ用フヘシ
- 一 免許期間内ニ於テ鑑札書換ヲ要スル分ハ其事由並ニ書換タル年月日ヲ鑑札裏面ニ記入下附スヘシ
- 一 賣藥廢業鑑札是迄當省ヘ返納致來候處自今其儀ニ及ハス管廳ニ於テ消却スヘシ
- 一 (明治十四年內務省乙第四十三號達ヲ以テ本項削除)
(雜形ハ之ヲ略ス)

賣藥取扱手續書及書式

(明治十年三月內務省達第三十二號)

本年一月太政官第七號賣藥規則公布相成候ニ付テハ左ノ手續書及書式雜形ニ照準取扱可申此旨相違候事

- 一 一昨明治八年七月以降當省ニ於テ下附候賣藥鑑札ハ追テ相違候迄免許發賣共當分書替爲願

出ニ不及規則公布後相渡候鑑札同様相心得ヘシ

- 一 前條ノ鑑札所持ノモノ營業免許年季ハ其鑑札ニ記載ノ月ヨリ起算スヘシ尤税金ノ儀ハ本年分ヨリ徵收スヘキニ付昨年マテノ分ハ納メシムルニ及ハス但鑑札料ハ總テ上納爲致定期納附ノ節勘定帳ニ其區分ヲナスヘシ

一 營業鑑札請賣鑑札ハ所持人ノ居家ニ限り營業ノ權アルモノニ付別戶支店等ニ於テハ別ニ其居住人ニ於テ鑑札ヲ所持スルニ非ザルハ營業スルヲ得ヘカラス

一 前條營業鑑札所持ノ賣藥ヲ請賣又ハ行商致シ居候分來ル四月三十日マテニ悉皆爲願出鑑札交付取計フヘシ

一 明治八年七月以降本年一月規則發行前ノ鑑札所持ノ者來本年一月マテニ廢業届出候分ハ特別ノ證議ヲ以テ本年ニ限り前半期ノ税金ハ免除スヘシ

一 賣藥營業者並ニ請賣者免許看板ハ左式ノ通製セシムヘシ
豎三尺

許	免	賣	藥	營	業
寸	法	同	上		

許	免	賣	藥	請	賣	業
---	---	---	---	---	---	---

一 税金並ニ諸鑑札料納附ノ節ハ上納證ヲ添フルノヨニシテ勘定書ハ一ケ年取束手每年八月三

十一日限リ該地差立大藏省主税局へ進達スヘシ但シ會計年度ノ都合モ有之本年二月ヨリ六月マテノ分ハ別牒ニ製リ八月三十一日限リ該地差立同局へ進達スヘシ

一 行商鑑札ハ各管廳ニ於テ雛形ノ通之ヲ製リ願人ニ下附スヘシ尤行商スル藥劑ハ其方名ヲ一ニ鑑札ニ記載スヘシ但一人ニシテ數人ノ藥劑ヲ行商スル時ハ方數ニ拘ハラズ營業者異ナル毎ニ鑑札ヲ別製シテ之ヲ渡スヘシ

一 行商鑑札ヲ下附シタル分ハ其都道府細簿ニ登記シ置キ每半年度分別ニ一本ヲ調製シ一月七月ノ兩度内務省ニ開申スヘシ

一 賣藥營業稅並諸鑑札料上納勘定帳雛形

明治何年七月ヨリ同何年六月マテ賣藥營業稅並諸鑑札料仕上勘定帳賣藥營業類書式

明治八年當省乙第九十八號達雛形ニ照準スヘシ
(書式ハ之ヲ略ス)

賣藥取扱手續書削除改正ニ付取扱方

(明治十四年四月内務省乙第二十五號達)

本年(四月)太政官第三十二號公達相成候ニ付テハ明治十年(三月)當省乙第三十二號達賣藥取扱手續中請賣鑑札料及行商鑑札料ノ廉並行商鑑札製作費云云ノ一項削除候條更ニ左ノ條項ニ照準シ取扱可申此旨相達候事

一 賣藥請賣及行商ニ地方稅ヲ賦課スルトキハ本年府縣會ニ於テ其稅額ヲ議定シ十四年度ヨ

リ徵收スヘシ

一 請賣鑑札料紙ハ自今大藏省賦配不致候條各管轄廳ニ於テ從前雛形ノ通製造スヘシ但大藏省ヨリ下附セシ鑑札所持ノ者ハ別段引替ニ不及且ツ本年分豫算ヲ以テ受取候料紙未用ノ分ハ同省へ返納スヘシ

一 請賣者ニテ其賣藥ヲ調製候儀ハ無之管ニ候共或ハ營業者ノ藥方分量ヲ偽ハリ調製候向モ有之候ハハ改正規則第二十三條ノ罰則ニ相當ルモノニ付速ニ調製相止メ更ニ賣藥營業爲願出候様取計フヘシ

第四篇 飲食物其他ノ物品取締

飲食物其他ノ物品取締ニ關スル件

(明治三十三年二月法律第十五號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル飲食物其他ノ物品ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 販賣ノ用ニ供スル飲食物又ハ販賣ノ用ニ供シ若ハ營業用ニ使用スル飲食物、割烹具及其ノ他ノ物品ニシテ衛生上危害ヲ生スルノ虞アルモノハ法令ノ定ムル所ニ依リ行政廳ニ於テ其ノ製造、採取、販賣、授與若ハ使用ヲ禁止シ又ハ其ノ營業ヲ禁止シ若ハ停止スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ行政廳ハ物品ノ所有者若ハ所持者ヲシテ其ノ物品ヲ廢棄セシメ又ハ行政廳ニ於テ直接ニ之ヲ廢棄シ其ノ他必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得但シ所有者若ハ所持者ニ於テ衛生

上危害ヲ生スルノ虞ナキ方法ニ依リ之ヲ處置セムコトヲ請フトキハ之ヲ許可スルコトヲ得
 第二條 行政廳ハ吏員ヲシテ前條ノ物品ヲ検査セシメ試験ノ爲必要ナル分量ニ限り無償ニテ收去セシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ行政廳ハ吏員ヲシテ普通營業時間又ハ營業ノ爲開カルル間ニ限り物品ヲ製造シ採取シ陳列シ貯藏シ若ハ携帶スル場所ニ立入ラシムルコトヲ得

第三條 本法ノ執行ニ關シ官吏又ハ公吏ノ命ヲ受ケテ指定ノ期間内ニ之ヲ履行セサル者ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス

本法ノ執行ニ關シ官吏又ハ公吏行政廳ノ命ヲ受ケテ公務ヲ行フ者ニ抗拒シタル者ハ一ヶ月以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第四條 官吏公吏又ハ行政廳ノ命ヲ受ケテ公務ヲ行フ者本法ノ執行ニ關シ不正ノ所爲ヲ爲シタル者ハ一年以下ノ重禁錮ニ處シ四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

行政廳ノ命ヲ受ケテ公務ヲ行フ者本法ノ執行ニ關シ人ノ囑託ヲ受ケ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ聽許シタル者ハ刑法第二百八十四條ノ例ニ照シテ處斷ス

附則

本法ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

飲食物其他ノ物品取締ニ關スル法律ノ施行ニ關スル件
 (明治三十三年三月内務省令第十號)

飲食物其他ノ物品取締ニ關スル法律施行ニ關スル件左ノ通定ム

第一條 警視總監北海道廳長官府縣知事(東京府知事ヲ除ク)以下之ニ倣フハ法令ニ明文アル場合ニ於テ營業者ニ對シ明治三十三年(二月)法律第十五號ニ依リ行政廳ニ屬スル職權ヲ行フ前項ノ職權ハ其ノ輕易ナルモノニ限り廳府縣令ヲ以テ警察官署ニ委任スルコトヲ得

第二條 警視總監北海道廳長官知事ハ官吏又ハ衛生技術員ヲシテ明治三十三年(二月)法律第十五號ノ職權ヲ行ハシムルトキハ制服ヲ著スル者ノ外證票ヲ携帶セシムヘシ
 證票ハ左ノ雛形ニ依ルヘシ

二寸二分

表	
飲食物監視員之證	
分七寸一	
廳府	廳
縣名	印

第三條 官吏又ハ衛生技術員ハ明治三十三年(二月)法律第十五號第二條ニ依リ物品ヲ收去スルトキハ營業者ニ證書ヲ交付スヘシ若シ營業者ノ求メアルトキハ事實ノ許ササル場合ヲ除ク外其ノ物品ノ一部ニ封緘ヲ施シ之ヲ交付スヘシ

飲食物用器具取締規則
 (明治三十三年十二月内務省令第五十號)

飲食物用器具取締規則左ノ通定ム

飲食物用器具取締規則

第一條 本則ニ於テ飲食物用器具ト稱スルハ飲食器、割烹具其ノ他飲食物ノ調理器、容器、貯藏器又ハ量器ヲ謂フ

第二條 營業者ハ飲食物用器具ヲ鉛又ハ百分中鉛十分以上ヲ含ム合金ヲ以テ製造シ又ハ修繕スルコトヲ得ス

第三條 營業者ハ飲食物器具ノ飲食物ニ接觸スル部分ヲ百分中鉛二十分以上ヲ含ム合金ヲ以テ鐵著シ又ハ百分中鉛五分以上ヲ含ム錫合金ヲ以テ鍍布スルコトヲ得ス
罐詰用ノ罐ニ在テハ營業者ハ外部ノ鐵著及鐵受ノ鐵著ニ百分中鉛五十分以上ヲ含ム合金ヲ使
用スルコトヲ得ス

第四條 營業者ハ珐瑯又ハ釉藥ヲ施シタル飲食物用器具ニシテ之ニ百分中醋酸四分ヲ含ム水ヲ容レ三十分時間煮沸スルニ其ノ液中ニ砒素又ハ鉛ヲ溶出スルモノヲ製造スルコトヲ得ス修繕ニ關シテ亦同シ

第五條 營業者ハ哺乳器具ヲ鉛又ハ亞鉛ヲ含ム護膜ヲ以テ製造スルコトヲ得ス

第六條 第二條乃至第五條ニ違背シテ製造若ハ修繕シタル飲食物用器具ハ之ヲ販賣シ販賣ノ目的ヲ以テ貯藏若ハ陳列シ又ハ營業上ニ使用スルコトヲ得ス

第七條 銅又ハ其ノ合金ヲ以テ製造シ又ハ修繕シタル飲食物用器具ノ飲食物ニ接觸スル部分ニシテ鍍金層ノ剝脫シタルモノ又ハ固有ノ光澤ヲ有セザルモノハ營業上ニ使用スルコトヲ得ス

第八條 地方長官ハ第二條乃至第五條ニ違背シテ製造又ハ修繕シタル飲食物用器具若ハ之ヲ用ヒタル飲食物又ハ第七條ノ飲食物用器具若ハ之ヲ用ヒタル飲食物ニ關シテハ明治三十三年(二月)法律第十五號第一條ニ依リ處分スルコトヲ得本則ニ違背シタル營業者ニ關シテ亦同

第九條 地方長官ハ本則ノ執行ニ關シ明治三十三年(二月)法律第十五號第二條ノ職權ヲ行フコトヲ得

第十條 第二條乃至第七條ニ違背シタル者ハ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス
附則

第十一條 本則ハ明治三十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十二條 東京府ニ在リテハ地方長官ノ職務ハ警視總監之ヲ行フ

牛乳營業取締規則
牛乳營業取締規則左ノ通定ム

第一條 本則ニ於テ牛乳ト稱スルハ販賣ノ用ニ供スル全乳及脫脂乳ヲ謂ヒ乳製品ト稱スルハ販賣ノ用ニ供スル煉乳及粉乳ヲ謂フ

牛乳營業者ト稱スルハ牛乳又ハ乳製品ノ搾取、製造、販賣又ハ請賣ヲ營業ト爲ス者ヲ謂フ

第二條 牛乳ノ比重ハ攝氏十五度ニ於テ全乳ニ在リテハ一・〇二八乃至一・〇三四トシ脫脂乳ニ在リテハ一・〇三二乃至一・〇三八トス

牛乳ノ脂肪量ハ全乳ニ在リテハ百分中二・七分以上脫脂乳ニ在リテハ百分中〇・五分以上ノ範圍ニ於テ地方長官其ノ程度ヲ定ムヘシ

第三條 煉乳ハ水分ヲ除ク外全乳ノ諸成分ノ三倍以上ヲ含有スルモノトス

煉乳中ニ混和スル蔗糖精量ハ乳糖ヲ合算シテ百分中五五・〇分以下トス

第四條 牛乳ノ搾取又ハ乳製品製造ノ營業ヲ爲サムトスル者ハ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ
地方長官本條ノ認可ヲ爲ストキハ衛生技術員ヲシテ牛乳又ハ乳製品ヲ取扱フ場所ノ構造設備
ヲ検査セシムヘシ

第五條 牛乳營業者ハ左ノ牛ヨリ牛乳ヲ搾取スルコトヲ得ス

- 一 牛疫、炭疽、傳染性胸膜肺炎、流行性鴨口瘡、狂犬病、結核、痘瘡、黃胆、アケチノミ
コーゼ、氣腫疽、赤痢、乳腺病、膿毒症、尿毒症、敗血症、中毒、亞布答、腐敗性子宮炎
其ノ他熱性諸病ニ罹レル牛

- 二 牛乳中ニ移行スヘキ毒藥劇藥服用中ノ牛
- 三 分娩後七日以内ノ牛

第六條 牛乳營業者ハ亞鉛、銅、黃銅、燒附不頁ニシテ且有害ノ釉藥ヲ施シタル陶器又ハ含鉛
珪瑯ヲ塗布シタル鐵材料ニテ製シタルモノヲ牛乳又ハ乳製品ノ容器又ハ量器トシテ使用スル
コトヲ得ス

第七條 牛乳營業者ハ左ノ牛乳ヲ販賣シ又ハ販賣ノ目的ヲ以テ運搬シ若ハ貯藏スルコトヲ得ス

- 一 腐敗シタルモノ
- 二 粘稠若ハ若味ナルモノ又ハ藍色赤色其ノ他異常ノ色ヲ呈スルモノ
- 三 他物ヲ混合シタルモノ
- 四 第五條ノ牛ヨリ搾取シタルモノ
- 五 第二條ノ規定ニ適合セサルモノ

第八條 牛乳營業者ハ前條第二號乃至第四號ノ牛乳ヲ乳製品ノ原料ト爲スコトヲ得ス

第九條 牛乳營業者ハ左ノ乳製品ヲ販賣シ又ハ販賣ノ目的ヲ以テ陳列シ若ハ貯藏スルコトヲ得
ス

- 一 腐敗シタルモノ
 - 二 他物ノ混合シタルモノ
 - 三 第六條ノ容器ヲ用ヒタルモノ
 - 四 第七條第一號乃至第四號ノ牛乳ヲ原料ト爲シタルモノ
 - 五 第三條ノ規定ニ適合セサル煉乳
- 第十條 牛乳營業者ハ牛乳ヲ配布スル容器ニ全乳又ハ脱脂乳タルコトヲ明記スヘシ
牛乳營業者ハ全乳ト明記シタル容器ニ脱脂乳ヲ容ルルコトヲ得ス
- 第十一條 牛乳營業者ハ牛乳又ハ乳製品ノ容器、量器及牛乳又ハ乳製品ヲ取扱フ場所ヲ常ニ清
潔ニ爲スヘシ
- 第十二條 牛乳營業者ハ結核病、癩病、梅毒、及傳染病ニ罹レル者ヲシテ牛乳、乳製品若ハ其
ノ容器、量器ノ取扱ヲ爲サシメ又ハ其ノ取扱ヲ爲ス場所ニ立入ラシムルコトヲ得ス牛乳營業
者ニシテ其疾病ニ罹レルトキ亦之ニ準ス
- 第十三條 牛乳營業者ハ傳染性ノ疾病ニ罹レル牛ノ隔離ヲ行フヘシ
- 第十四條 地方長官ハ當該官吏又ハ衛生技術員ヲシテ牛乳營業者ノ牛ヲ検査セシメ一定ノ疾病
ニ罹レル牛ニハ其ノ角ニ番號若ハ符號ヲ烙記セシメ又ハ其ノ耳朶ニ番號若ハ符號ヲ記セル耳
環ヲ付セシムルコトヲ得

前項ノ番號符號又ハ耳環ハ官吏ノ許可ヲ受ケルニ非サレハ之ヲ消除シ又ハ除去スルコトヲ得

第十五條 地方長官ハ第五條ノ牛第六條ノ容器ヲ用ヒタル牛乳乳製品第七條各號ノ牛乳第九條各號ノ乳製品ニ關シテハ明治三十三年(二月)法律第十五號第一條ニ依リ處分スルコトヲ得本則ニ違背シタル營業者ニ關シテ亦同シ

第十六條 地方長官ハ本則ノ執行ニ關シテ明治三十三年(二月)法律第十五條第二條ノ職權ヲ行フコトヲ得

第十七條 第十四條第二項ニ違背シタル者ハ二十五日以下ノ重禁錮ニ處ス

第十八條 左ニ掲ケル者ハ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

一 認可ヲ受ケスシテ第四條ノ營業ヲ爲シタル者

二 第五條乃至第九條ニ違背シタル者

第十九條 第十條乃至第十三條ニ違背シタル者ハ十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十條 本則ハ明治三十三年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二十一條 乳牛ノ牛舎及牛乳搾取若ハ乳製品製造ニ用ユル場所ノ構造設備及管理方法ハ地方長官之ヲ定ム

第二十二條 東京府ニ在リテハ地方長官ノ職務ハ警視總監之ヲ行フ

牛乳營業取締規則第二條牛乳ノ比重及脂肪量ノ檢定方法 (明治三十三年五月内務省令第二十號)

牛乳營業取締規則第二條牛乳ノ比重及脂肪量ノ檢定方法左ノ通定ム

一 比重

攝氏十五度ニ於テクウエヌ、ミユルレル氏ノ乳稠計ヲ用ヒ計測ス若シ他ノ溫度ニ於ケルトキハ矯正表ニ依リ攝氏十五度ニ於ケル比重ニ換算ス

一 脂肪

牛乳十立方「センチメートル」ヲマルシヤン氏乳脂計ニ取り加里滴液(比重一・二六乃至一・二七)三滴ヲ混和シ次ニ依的兒(比重〇・七・二五乃至〇・七・三〇)十立方「センチメートル」ヲ加ヘテ密栓シ強ク振盪シ更ニ酒精(九十乃至九十二容量「プロセント」)十立方「センチメートル」ヲ加ヘ強ク振盪シタル後攝氏四十度ノ溫湯中ニ十分間挿入シ次ニ攝氏二十度ノ溫ヲ有スル水中ニ三十分乃至一時間靜置シ竝ニ析出セル依的兒層ヲシユミット、トルレンス氏ノ脂肪計測表ニ照ラシ牛乳百分中ノ脂肪量ヲ定ムヘシ

牛乳營業取締規則第五條第二號牛乳中ニ移行スヘキ毒藥劇藥處方ニ關スル件 (明治三十三年十月内務省令第四十六號)

明治三十三年(四月)内務省令第十五號牛乳營業取締規則第五條第二號牛乳中ノ移行スヘキ毒藥劇藥處方ニ關スル件左ノ通定ム

第一條 牛乳中ニ移行スヘキ毒藥劇藥品目左ノ如シ

石炭酸

安知母組鹽類

砒素及其ノ化合物

銅鹽類

越礪利涅、斯篤利幾尼涅其他

「アルカイド」及其ノ鹽類

菲沃斯草

別刺敦那草

以上ノ藥品ヲ含有スル諸製劑

第二條 獸醫前條ノ毒藥劇藥ヲ處方シタルトキハ其ノ旨ヲ牛乳營業者ニ告知スヘシ

第三條 獸醫前條ニ違背シタルモノハ一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

清涼飲料水營業取締規則

(明治三十三年六月內務省令第三十號)

清涼飲料水營業取締規則左ノ通り相定ム

清涼飲料水營業取締規則

第一條 本則ニ於テ清涼飲料水ト稱スルハ販賣ノ用ニ供スル「ラム子」「リモナーテ」(果實水、薄荷水及桂皮水ノ類ヲ含ム)曹達水及其ノ他炭酸含有ノ飲料水ヲ謂フ
清涼飲料水營業者ト稱スルハ清涼飲料水ノ製造(清涼飲料水ニ供スル鑛泉ノ採取ヲ含ム以下
做之)、販賣又ハ請賣ヲ營業ト爲ス者ヲ謂フ

水銀鹽類

沃度加留膜

阿片

鉛鹽類

藜蘆根

審木髓子

亞鉛鹽類

第二條 清涼飲料水製造ノ營業ヲ爲サムトスル者ハ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

地方長官本條ノ認可ヲ爲ストキハ衛生技術員ヲシテ製造場ノ構造、設備及用水ヲ検査セシム
ヘシ

第三條 清涼飲料水營業者ハ飲料水ニ接觸スル部分ヲ銅、鉛又ハ其ノ合金ニテ製シタル調製器、
容器又ハ量器ヲ使用スルコトヲ得ズ但シ鍍錫其ノ他衛生上有害ノ虞ナキ方法ヲ施シタルモノ
ハ此ノ限ニ在ラス

第四條 清涼飲料水營業者ハ清涼飲料水ノ製造又ハ貯造ニ參見色素、薩葛林、有害性芳香質又
ハ防腐劑ヲ使用スルコトヲ得ス

第五條 清涼飲料水營業者ハ左ノ清涼飲料水ヲ販賣シ又ハ販賣ノ目的ヲ以テ陳列シ若ハ貯藏ス
ルコトヲ得ス

- 一 滷濁又ハ變敗シタルモノ
- 二 沈澱物アルモノ
- 三 鹽酸、硝酸其ノ他遊離鑛酸ヲ含有スルモノ
- 四 砒素、安知母組膜、鉛、亞鉛、銅、錫ヲ含有スルモノ
- 五 參見色素ヲ含有スルモノ
- 六 薩葛林ヲ含有スルモノ
- 七 有害性芳香質ヲ含有スルモノ
- 八 防腐劑ヲ含有スルモノ

第六條 清涼飲料水製造者ハ其ノ氏名、社名、營業所ノ所在並製造年月日ヲ記載シタル票紙ヲ

以テ清涼飲料水ヲ販賣スル容器ヲ封緘スヘシ但シ地方長官ハ容器ノ種類又ハ製造販賣ノ方法ニ依リ封緘ヲ要セスト認ムルモノニ關シ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第七條 清涼飲料水營業者ハ清涼飲料水ノ調製器、容器、量器及製造場其ノ他清涼飲料水ヲ取扱フ場所ヲ常ニ清潔ニ爲スヘシ

第八條 清涼飲料水營業者ハ結核、癩病、微毒及傳染病ニ罹レル者ヲシテ清涼飲料水ノ調製若ハ小分ヲ爲サシメ又ハ其ノ場所ニ立入ラシムルコトヲ得ス清涼飲料水營業者ニシテ其ノ疾病ニ罹レルトキ亦之ニ準ス

第九條 地方長官ハ第三條ノ器具第五條ノ清涼飲料水ニ關シテハ明治三十三年(二月)法律第十

五號第一條ニ依リ處分スルコトヲ得本則ニ違背シタル營業者ニ關シテ亦同シ

第十條 地方長官ハ本則ノ執行ニ關シテハ明治三十三年(二月)法律第十五號第二條ノ職權ヲ行フコトヲ得

第十一條 清涼飲料水營業者虛偽ノ記載ヲ爲シタル封緘票紙ヲ貼用シ若ハ貼用セシメタル者又ハ封緘票紙ニ虛偽ノ改竄ヲ爲シ若ハ爲サシメタル者ハ二十五日以上ノ重禁錮ニ處ス

第十二條 左ニ掲クル者ハ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

一 認可ヲ受ケスシテ第二條ノ營業ヲ爲シタル者

二 第三條乃至第五條ニ違背シタル者

第十三條 第六條乃至第八條ニ違背シタル者ハ十圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

第十四條 本則ハ明治三十三年九月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ『ラムネ』ニ關シテハ明治三十三年

七月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十五條 地方長官ハ清涼飲料水ノ製造場ノ構造、設備及管理方法ニ關シ必要ナル規定ヲ設クルコトヲ得

第十六條 東京府ニ在リテハ地方長官ノ職務ハ警視總監之ヲ行フ

冰雪營業取締規則 (明治三十三年七月內務省令第三十七號)

冰雪營業取締規則左ノ通相定ム

冰雪營業取締規則

第一條 本則ニ於テ冰雪ト稱スルハ販賣ノ用ニ供スル氷及雪ヲ謂フ

冰雪營業者ト稱スルハ冰雪ヲ採收製造シテ販賣シ又ハ其ノ卸賣若ハ請賣ヲ爲ス者ヲ謂フ

第二條 冰雪營業ヲ爲サムトスル者ハ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ但シ請賣營業ヲ爲サムトスル者ハ此ノ限ニ在ラス

地方長官本條ノ認可ヲ爲ストキハ衛生技術員ヲシテ採收、製造又ハ貯藏ノ場所ノ構造、設備竝ニ材料ノ検査ヲ爲サシムヘシ

第三條 氷雪ノ融解水ハ無色透明ニシテ臭味ナク又夾雜物アルモ僅微ヲ過クヘカラス

冰雪融解水ノ百万分中格魯兒量ハ二分硝酸量ハ一分安母尼亞量ハ〇・〇五分過滿侖酸加留誤消費量ハ三分亞硝酸ハ痕跡ヲ過クヘカラス

第四條 冰雪營業者ハ第三條ノ規定ニ適合スル冰雪ニ非サレハ飲食用ノ目的ヲ以テ販賣シ又ハ貯藏スルコトヲ得ス

第五條 飲食用ノ氷雪ヲ請賣スル營業者ハ飲食用ノ目的ヲ以テスルト否トニ拘ハラヌ第三條ノ規定ニ適合セサル氷雪ヲ販賣シ又ハ貯藏スルコトヲ得ス

第六條 地方長官ハ左ノ場合ニ於テハ第三條ノ規定ニ適合セサル氷雪ニ關シテ明治三十三年

(二月)法律第十五號第一條ニ依リ處分スルコトヲ得本則ニ違背シタル營業者ニ關シテ亦同シ

一 氷雪營業者飲食用ノ目的ヲ以テ販賣ニ供シ又ハ貯藏スルトキ

二 第五條ノ營業者ニ供シ又ハ貯藏スルトキ

第七條 地方長官ハ本則ノ執行ニ關シテハ明治三十三年(二月)法律第十五號第三條ノ職權ヲ行フコトヲ得

第八條 第二條第一項及第四條ニ違背シタル者ハ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

第九條 第五條ニ違背シタル者ハ十圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

第十條 本則ハ明治三十三年八月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ雪ニ關シテハ明治三十五年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十一條 地方長官ハ氷雪ノ採收、製造又ハ貯藏ノ場合ノ構造、設備及管理方法ニ關シ必要ナル規定ヲ設クルコトヲ得

第十二條 東京府ニ在リテハ地方長官ノ職務ハ警視總監之ヲ行フ

有害著色料取締規則

(明治三十三年四月内務省令第十七號)

有害著色料取締規則左ノ通定ム

有害性著色料取締規則

第一條 有害性著色料ヲ分テ左ノ二種トス

第一種 左ニ掲クル物質又ハ之ヲ含有スルモノ

砒素、拔留膜、嘉度密烏膜、格羅膜、銅、水銀、鉛、錫、安知母組膜、烏拉組膜、亞鉛、藤黃、必備林酸、「サニトロクレゾール」、「コラルリン」

第二種

硫酸拔留膜、硫化嘉度密烏膜、酸化格羅膜、朱、酸化錫、「ムツシーフ」金、酸化亞鉛、硫化亞鉛、銅、錫、亞鉛及其ノ金屬ニシテ固有ノ光澤ヲ有スルモノ

第二條 有害性著色料ハ販賣ノ用ニ供スル飲食物ノ著色ニ使用スルコトヲ得ス

第三條 有害性著色料ヲ以テ著色シタルモノハ販賣ノ用ニ供スル飲食物ノ容器又ハ被包トシテ使用スルコトヲ得ス但シ左ニ掲クルモノハ此ノ限ニ在ラス

一 漆、硝子、釉藥又ハ珫瑯質ニ有害性著色料ヲ融和シタルモノ

二 第一條第二種ノ著色料ヲ以テ著色シタル容器又ハ被包ニシテ飲食物ニ其ノ著色料混入ノ虞ナキモノ

第四條 第一條第一種ノ著色料ハ販賣ノ用ニ供スル化粧品、齒磨、小兒玩弄品(繪雙紙、錦繪、色紙ヲ含ム)ノ製造又ハ著色ニ使用スルコトヲ得ス但シ左ニ掲クルモノハ此ノ限ニ在ラス

一 漆、硝子、釉藥又ハ珫瑯質ニ有害著色料ヲ融和シタルモノ

二 護膜質ニ融和シタル金硫黃

第五條 砒素ヲ含有スル著色料ハ販賣ノ用ニ供スル衣服其ノ他身ノ圍リニ用ユル物品又ハ其ノ

材料ノ著色ニ使用スルコトヲ得ス但シ布片百平方センチメートル中ニ「ヨリグラム」以下ノ砒素ヲ含有スルモノハ此ノ限ニ在ラス

第六條 第二條ニ違背シテ著色シタル飲食物第三條ノ容器被包及ヒ之ヲ使用シタル飲食物又ハ第四條若ハ第五條ニ違背シテ製造シ著色シタル物品若ハ材料ハ之ヲ販賣シ又ハ販賣ノ目的ヲ以テ陳列シ若ハ貯藏スルコトヲ得ス

第七條 前條ノ物品ニ關シテハ地方長官ハ明治三十三年(二月)法律第十五號第一條ニ依リ處分スルコトヲ得本則ニ違背シタル營業者ニ關シテ亦同シ

第八條 地方長官ハ本則ノ執行ニ關シ明治三十三年(二月)法律第十五號第二條ノ職權ヲ行フコトヲ得

第九條 第二條乃至第六條ニ違背シタル者ハ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス
附則

第十條 本則ハ明治三十三年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十一條 鉛白ハ當分ノ内第四條ノ規定ニ拘ハラズ化粧品トシテ之ヲ使用スルコトヲ得

第十二條 東京府ニ在リテハ地方長官ノ職務ハ警視總監之ヲ行フ

第五篇 汚物掃除

汚物掃除法 (明治三十三年三月法律第三十一號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル汚物掃除法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

汚物掃除法

第一條 市内ノ土地ノ所有者使用者又ハ占有者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ地域内ノ汚物ヲ掃除シ清潔ヲ保持スルノ義務ヲ負フ

第二條 市ハ本法其ノ他ノ法令ニ依リ別段ノ義務者アル場合ヲ除クノ外其ノ區域内ノ汚物ヲ掃除シ清潔ヲ保持スルノ義務ヲ負フ

第三條 市ハ義務者ニ於テ蒐集シタル汚物ヲ處分スルノ義務ヲ負フ但シ命令ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第四條 市ニ於テ前條ノ處分ヲ爲シタル爲主トスル收入ハ市ノ所得ト

第五條 地方長官ハ掃除ノ施行及實況ヲ監視セシムル爲必要ナル吏員ヲ市ニ置カシムルコトヲ得

第六條 當該吏員ハ掃除ノ實況ヲ監視シ必要ナル事項ヲ施行スル爲其ノ事由ヲ告知シテ私人ノ土地ニ立入ルコトヲ得

第七條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ私人ニ於テ履行スヘキ事項ヲ履行セス又ハ之ヲ履行スルモ充分ナラスト認ムルトキハ當該吏員ニ於テ之ヲ施行シ其ノ費用ハ市ニ於テ之ヲ支辨スヘシ

前項ノ處分ハ豫メ履行期間ヲ指定シテ戒告スルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得但シ必要ノ時限内ニ履行シ得スト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス

第八條 前條ノ處分ヲ爲シタルトキハ市ハ市税ノ例ニ依リ其ノ費用ヲ義務者ヨリ徵收スルコトヲ得

第九條 汚物ノ種類汚物掃除並清潔保持ノ方法及施設ニ關スル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
附則

第十條 本法ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十一條 地方長官ハ區町村、町村制ヲ施行セサル地方ニ在テハ町村ニ準スヘキ地又ハ其ノ一部ヲ指定シ本法ノ全部又ハ一部ヲ準用スルコトヲ得

同 施行規則 (明治三十三年三月内務省令第五號)

汚物掃除法施行規則左ノ通相定ム

汚物掃除法施行規則

第一條 汚物掃除法ニ依リ掃除スヘキ汚物ハ塵芥汚泥汚水及屎尿トス

第二條 市内ノ土地ノ占有者ハ其ノ地域内ノ汚物ヲ掃除シ清潔ヲ保持スヘシ

建物ノ所有者ハ其ノ建物アル土地ノ清潔保持ノ爲必要ナル溝渠ヲ築造修繕スヘシ

建物ナキ土地ノ所有者ハ其ノ土地ノ清潔保持ノ爲必要ナル渠溝ヲ築造修繕スヘシ

第三條 掃除義務者ハ覆蓋アル容器ヲ備ヘ掃除シタル塵芥ヲ其ノ容器ニ蒐集スヘシ

汚泥ハ之ヲ適當ノ容器ニ蒐集スヘシ

土地ニ定著シタル塵芥溜ハ之ヲ設置スルコトヲ得ス

第四條 溝渠ノ汚水ハ之ヲ公共溝渠又ハ適當ノ場所ニ排泄スヘシ

地方長官ハ土地ノ狀況ニ依リ前項ニ拘ハラズ別段ノ施設ヲ許可スルコトヲ得

地方長官ハ汚水ノ性質ニ依リ公共溝渠ニ排泄セシムヘカラスト認ムルトキハ適當ノ施設ヲ爲

サシムヘシ

第五條 市ハ掃除義務者ノ蒐集シタル汚物ヲ一定ノ場所ニ運搬シ塵芥ハ可成之ヲ焼却スヘシ

戸口稠密ナル地區ニ關シテハ市ハ毎日一回各戸ヨリ汚物ヲ搬出スヘシ

第六條 市ハ第四條ノ溝渠ノ汚水ヲ排泄スル爲必要ナル公共溝渠ヲ築造修繕スヘシ

公共溝渠ノ汚水ハ之ヲ適當ノ場所ニ排泄スヘシ

第七條 公共溝渠ニ沿フタル土地ニ於テ公共溝渠ニ害ヲ及ホスヘキ虞アル行爲ヲ爲ス者ハ其ノ

害ヲ豫防スル爲必要ナル施設ヲ爲スヘシ

第八條 市ハ公共便所ヲ築造修繕スヘシ

第九條 市ハ其ノ義務ニ屬スル場所ノ掃除、掃除義務者ノ蒐集シタル汚物ノ運搬及其ノ汚物ノ

處分ニ關シ方法順序ヲ定メ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

第十條 汚物掃除法第五條ニ依リ市ニ設置スル掃除監視吏員ノ職務ハ左ノ如シ

一 汚物掃除法第二條及第三條ノ事項ニ關シ掃除人ヲ指揮監督ス

二 公共溝渠公共便所塵芥焼却場其ノ他掃除ニ關スル施設ヲ監視ス

三 汚物掃除法第一條ニ依リ私人ノ履行スル掃除ノ實況及溝渠便所其ノ他掃除ニ關スル私人

ノ施設ヲ監視ス

四 汚物掃除法第七條ニ依リ履行期間ヲ指定シテ私人ニ戒告シ及私人ノ履行スヘキ事項ヲ施

行ス

第十一條 市ハ掃除監視吏員ノ職務章程ヲ定メ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

第十二條 掃除監視吏員汚物掃除法ニ依リ私人ノ土地ニ立入ルハ日出後日没前ニ於テシ制服ヲ

著スル者ノ外證票ヲ携帯スヘシ

第十三條 掃除監視吏員汚物掃除法第七條ニ依リ戒告スルトキハ職務章程ニ別段ノ規定アル場合ノ外市長ノ指揮ヲ受クヘシ

戒告ハ附録書式ニ依リ書面ヲ以テ義務者ノ家ニ送達スヘシ

第十四條 汚物掃除法第八條ニ依リ市ニ於テ同法第七條ノ費用ヲ義務者ヨリ徴收スルトキハ實費ノ内譯ヲ附シタル令狀ヲ發スヘシ

令狀ノ書式及交付ハ市税ノ令狀ニ準スヘシ

第十五條 汚物ノ爲又ハ溝渠便所其ノ他掃除ニ關スル施設ノ爲衛生上危害ヲ受クル者ハ掃除監視吏員ニ申告スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ掃除監視吏員ハ職務章程ニ定ムル期間ニ之ヲ臨檢スヘシ

第十六條 本則ニ依リ私人ニ於テ履行スヘキ事項ヲ掃除監視吏員ノ指定シタル期間ニ履行セサル者ハ壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第十七條 公共溝渠ニ塵芥土石ヲ投棄シタル者又ハ尿尿ヲ注流シタル者ハ十日以下ノ拘留又ハ壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

附則

第十八條 下水道ヲ布設シタル地ニハ溝渠ニ關スル本則ノ規定ヲ施行セス

第十九條 公共道路ノ掃除ハ當分ノ内從前ノ成規ニ依ル但シ公共道路ヲ掃除シタル塵芥ニ關シテハ第三條第五條及第九條ヲ適用ス

第二十條 地方長官ハ内務大臣ノ認可ヲ得テ第二條ノ義務ノ負擔區分ニ關シ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得

ルコトヲ得

第二十一條 地方長官ハ郡村ニ接近シタル地區ノ義務者又ハ廣大ナル土地ヲ占有スル義務者ノ掃除シタル汚物ノ處分ニ關シ第三條及第五條ニ拘ハラズ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得

汚物掃除法施行前廳府縣令ノ規定ニ依リ一定ノ構造設備ヲ爲シタル塵芥溜ニシテ汚物掃除法施行ノ際現ニ存スルモノハ地方長官ニ於テ當分ノ内其ノ使用ヲ許可スルコトヲ得

第二十二條 尿尿ニハ當分ノ内第五條ノ規定ヲ適用セス掃除義務者ニ於テ之ヲ處分スヘシ

第二十三條 地方長官ハ汚物掃除法施行後一箇年以内ヲ限リ公共便所ニ關スル市ノ義務ヲ延期スルコトヲ得

第二十四條 地方長官ハ本則ニ定ムルモノノ外汚物ノ掃除溝渠便所ノ構造其ノ他清潔保持ノ方法及施設ニ關シ必要ナル規定ヲ設クルコトヲ得

第二十五條 東京市ニ在リテハ地方長官ノ職務ハ警視總監及東京府知事之ヲ行フ

第六篇 獸畜衛生

人家稠密ノ場所ニ於テ豢養ヲ禁ス

(明治六年五月布告第六十三號)

方今牛豚類ノ牧畜盛ニ行ハレ候處溫暑ノ時ニ方テハ其臭氣人身ノ健康ニ害スルノミナラス近來獸類ノ傳染病流行往々人生ノ傷害ヲ醸シ候ニ付自今三府市街ノ區内ハ勿論各地一般人家稠密ノ場所ニテ豢養ノ儀堅ク禁止候條右區内ニ於テ從前營業ノ者ハ布令到達ノ日ヨリ二十五日以内ヲ

以テ郊外便宜ノ地ニ立退養可致事

但東京府下米引内ハ假令草野空間ノ地ト雖モ養不相成候尤乳汁搾取ノタメ養候ハ被許候得共不潔臭穢ノ儀モ有之候ヘハ證議ノ上可令取拂事

養制限斟酌方

(明治七年一月大藏省達第三號)

昨明治六年第六十三號ヲ以テ公布相成候趣者專人命保護ノタメ市街等人家稠密ノ地ニテ養候ヲ制限候旨ニ候條山村僻邑等ハ實地適宜ニ斟酌可致此旨相違候事

牛馬羊豕ノ埋没後發掘ニ關スル罰則

(明治二十六年八月農商務省令第十四號)

左ノ諸病ニ罹リタル牛馬羊豕ノ死體埋没後十二箇年ヲ經過セサレハ發掘スルコトヲ得ス違背シタル者ハ一回以上二十五圓以下ノ罰金ニ處ス但獸類傳染病豫防規則ニ正條アルモノハ此限ニ在ラス

- 一 牛疫
- 二 炭疽熱
- 三 鼻疽及皮疽
- 四 傳染性胸膜肺炎
- 五 傳染性鴨口瘡
- 六 羊痘

屠牛場並牛肉賣買取締方

(明治四年八月大藏省達)

一 近來肉食相開候ニ付テハ屠牛渡世ノ者屠場ノ儀ハ人家懸隔ノ地ニ取設ケ病牛死牛トモ不資變樣嚴重取締可申就テハ左ノ二條相守各地方官ニ於テ雛形ノ鑑札製造致シ屠場取開ノ場所巨

細取調ノ上相渡シ當省ヘ追テ可届出事

一 牝牛ハ蕃息ノ基本ニ付總テ屠殺不致穢取締可致事
但十二三歳以上孕牛ニ雖相成分不苦候事

一 諸開港場ニ於テ輸出ノ節取締ノ儀ハ其地方官ニ於テ見込相立取締可致事
但見込ノ趣追テ可申出事
(鑑札雛形略之)

斃禽獸ニ係ル取締方

(明治六年三月第七十六條布告)

病死禽獸ヲ食料ノタメ致賣買候ハ兼テ嚴禁ニ候處天然老死或ハ尋常ノ病ニ斃候モノハ皮剥取骨肉等田圃ノ培養ニ相用候儀不苦候條於各地方右辨別厚ク可致注意事但流行病死ノモノハ燒棄勿論ニ候事

第十一類 訴願及行政訴訟

第一篇 訴願

訴願法

(明治二十三年十月法律第百五號)

朕訴願法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

訴願法

第一條 訴願ハ法律勅令ニ別段ノ規程アルモノヲ除ク外左ニ掲クル事件ニ付之ヲ提起スルコトヲ得

- 一 租税及手数料ノ賦課ニ關スル件
- 二 租税滯納處分ニ關スル件
- 三 營業免許ノ拒否又ハ取消ニ關スル事件
- 四 水利及土木ニ關スル事件
- 五 土地ノ官民有區分ニ關スル事件
- 六 地方警察ニ關スル事件

其他法律勅令ニ於テ特ニ訴願ヲ許シタル事件

第二條 訴願セントスル者ハ處分ヲ爲シタル行政廳ヲ經由シ直接上級行政廳ニ之ヲ提出スヘシ 訴願ノ裁決ヲ受ケタル後更ニ上級行政廳ニ訴願スルトキハ其裁決ヲ爲シタル行政廳ヲ經由スヘシ

國ノ行政ニ付法律ニ依リ郡參事會又ハ市參事會ノ處分若クハ裁決ニ對シテ訴願セムトスル者ハ其處分若クハ裁決ヲ爲シタル郡參事會又ハ市參事會ヲ經由シテ府縣參事會ニ之ヲ提起スヘシ

第三條 各省大臣ノ處分ニ對シ訴願セントスル者ハ其省ニ之ヲ提起スヘシ

第四條 裁判所ノ裁判各省ノ裁決及第二條第三項府縣參事會ノ裁決ヲ經タルモノハ其事件ニ付更ニ訴願スルコトヲ得ス

第五條 訴願ハ文書ヲ以テ之ヲ提起スヘシ

訴願書ノ侮辱非毀ニ涉ルモノハ之ヲ受理セス

第六條 訴願書ハ其不服ノ要點理由要求及訴願人ノ身分職業住所年齡ヲ記載シ之ニ署名捺印スヘシ

訴願書ニハ證據書類ヲ添ヘ竝下級行政廳ノ裁決ヲ經タルモノハ其裁決書ヲ添フヘシ

第七條 多數ノ人員共同シテ訴願セントスルトキハ其訴願人ノ身分職業住所年齡ヲ記載シ署名捺印シ其中ヨリ三名以下ノ總代人ヲ選ビ之ニ委任シ總代委任ノ正當ナルコトヲ證明スヘシ 法律ニ依リ法人ト認メラレタル者ハ其名ヲ以テ訴願ヲ提起スルコトヲ得

第八條 行政處分ヲ受ケタル後六十日ヲ經過シタルトキハ其處分ニ對シ訴願スルコトヲ得ス

行政廳ノ裁決ヲ經タル訴願ニシテ其裁決ヲ受ケタル後三十日ヲ經過シタルモノハ更ニ上級行政廳ニ訴願スルコトヲ得ス

行政廳ニ於テ宥恕スヘキ事由アリト認ムルトキハ期限經過後ニ於テモ仍之ヲ受理スルコトヲ得

第九條 法律勅令ニ依リ訴願ヲ提起スヘカヲサルモノナルカ又ハ適法ノ手續ニ違背スルモノナルトキハ之ヲ却下ス

其訴願書ノ方式ヲ缺クニ止マルモノハ期限ヲ指定シテ還付スヘシ
第十條 訴願書ハ郵便ヲ以テ之ヲ差出スコトヲ得

郵便遞送ノ日數ハ第八條ノ訴願期限内ニ之ヲ算入セス
第十一條 第二條第一項ノ場合ニ於テ訴願書ノ經由ニ當レル行政廳ハ訴願書ヲ受取リタル日ヨ

リ十日以内ニ辯明書及必要文書ヲ添ヘ上級行政廳ニ之ヲ發送スヘシ
第二條第二項ノ場合ニ於テ訴願書ノ經由ニ當レル行政廳ハ訴願書ヲ受取リタル日ヨリ三日以

内ニ上級行政廳ニ之ヲ發送スヘシ
第二條第三項ノ場合ニ於テ訴願書ヲ發送スルトキ亦前二項ノ例ニ依ルヘシ

第十二條 訴願ハ法律勅令ニ別段ノ規程アルモノヲ除ク外行政處分ノ執行ヲ停止セス但行政廳

ハ其職權ニ依リ又ハ訴願人ノ願ニ依リ必要ナリト認ムルトキハ其執行ヲ停止スルコトヲ得
第十三條 訴願ハ口頭審問ヲ爲サス其文書ニ就キ之ヲ裁決ス但行政廳ニ於テ必要ナリト認ムル

トキハ口頭審問ヲ爲スコトヲ得
第十四條 訴願ノ裁決ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ其理由ヲ付スヘシ訴願書ヲ却下スルトキ亦同シ

第十五條 訴願ノ裁決書ハ其處分ヲ爲シタル行政廳ヲ經由シテ之ヲ訴願人ニ交付スヘシ訴願書

ヲ却下スルトキ亦同シ
第十六條 上級行政廳ニ於テ爲シタル裁決ハ下級行政廳ヲ羈束ス

第十七條 訴願ノ手續ニ關シ他ノ法律勅令ニ別段ノ規程アルモノハ各其規程ニ依ル

附則

第十八條 明治十五年(十二月)第五十八號布告請願規則ハ此法律施行ノ日ヨリ廢止ス

第十九條 此法律施行ノ前請願規則ニ依リ受理シタル請願ハ仍其規則ニ依リ處分ス

請願規則ニ依リ下級行政廳ノ指令ヲ受ケタル者訴願スルヲ得ヘキ場合ニ方テ更ニ訴願セント

スルトキハ此法律ニ從ヒ其上級行政廳ニ之ヲ提起スヘシ
第二十條 第八條ノ訴願期限ハ此法律施行ノ前行政處分ヲ受ケ又ハ請願規則ニ依リ指令ヲ受ケ

タル事件ニシテ其處分又ハ指令ヲ受ケタル日ヨリ滿五年ヲ經過セサルモノニ對シテハ此法律

施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス
第二十一條 行政廳ニ呈出スル請願ハ此法律ニ依ルノ限ニ在ラス

第二篇 行政訴訟

行政廳ノ違法處分ニ關スル行政裁判ノ件

(明治二十三年十月法律第六號)

行政廳ノ違法處分ニ關スル行政裁判ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

法律勅令ニ別段ノ規程アルモノヲ除ク外左ニ掲クル事件ニ付行政廳ノ違法處分ニ由リ權利ヲ毀

損セラレタル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得
一 海關稅ヲ除ク外租稅及手數料ノ賦課ニ關スル事件

- 二 租稅滯納處分ニ關スル事件
- 三 營業免許ノ拒否又ハ取消ニ關スル事件
- 四 水利及土木ニ關スル事件
- 五 土地ノ官民有區分ノ査定ニ關スル事件

行政裁判法

(明治二十三年六月法律第四十八號)

朕行政裁判法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
行政裁判法

第一章 行政裁判所組織

- 第一條 行政裁判所ハ之ヲ東京ニ置ク
- 第二條 行政裁判所ニ長官一人及評定官ヲ置ク評定官ノ員數ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
- 第三條 行政裁判所ニ書記ヲ置ク其員數及事務ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
- 第三條 長官ハ勅任トス評定官ハ勅任又ハ奏任トス
- 長官及評定官ハ三十歳以上ニシテ五年以上高等行政官ノ職ヲ奉シタル者若クハ裁判官ノ職ヲ奉シタル者ヨリ内閣總理大臣ノ上奏ニ依リ任命セララルルモノトス
- 書記ハ長官之ヲ聘任ス
- 第四條 長官及評定官ハ在職中左ノ諸件ヲ爲スコトヲ得ス
 - 一 公然政事ニ關係スルコト
 - 二 政黨ノ黨員又ハ政社ノ社員トナリ又ハ衆議院議員府縣郡市町村會ノ議員若クハ參事會員

- 三 兼職官ノ場合ヲ除ク外俸給アル又ハ金錢ノ利益ヲ目的トスル公務ニ就クコト
- 四 商業ヲ營シ其他行政上ノ命令ヲ以テ禁シタル業務ヲ營ムコト
- 第五條 第六條ノ場合ヲ除ク外長官及評定官ハ刑法ノ宣告又ハ懲戒ノ處分ニ由ルニ非サレハ其意ニ反シテ退官轉官又ハ非職ヲ命セラルルコトナシ
- 行政裁判所ノ長官又ハ評定官ヲ兼任スル者ハ此本官在職中前項ヲ適用ス
- 懲戒處分ノ法ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
- 第六條 長官及評定官身體若クハ精神ノ衰弱ニ因リ職務ヲ執ルコト能ハサルトキハ内閣總理大臣ハ行政裁判所ノ總會ノ決議ニ依リ其退職ヲ上奏スルコトヲ得
- 第七條 長官ハ行政裁判所ノ事務ヲ總理ス
- 長官故障アルトキハ評定官中官等最モ高キ者之ヲ代理ス官等同シキトキハ任官ノ順序ニ依リ其先ナル者之ヲ代理ス
- 第八條 長官ハ自ラ裁判長トナリ若クハ評定官ニ裁判長ヲ命スルコトヲ得
- 部ヲ分ツノ必要アルトキハ其組織及事務分配ハ勅令ノ定ムル所ニ依ル
- 第九條 行政裁判所ノ裁判ハ裁判長及評定官ヲ併セ五人以上ノ列席合議ヲ要ス但列席ノ人員ハ奇數ニ限ル若シ缺席ノ爲偶數トナリタルトキハ官等最モ低キ評定官ヲ議決ヨリ除ク官等同シキトキハ任官ノ順序ニ依リ其後ナル者ヲ除ク
- 議決ハ過半數ニ依ル
- 第十條 長官又ハ評定官ハ左ノ場合ニ於テ評議及議決ニ加ハルコトヲ得ス

一 裁判スヘキ事件自己又ハ父母兄弟姉妹若クハ妻子ノ身上ニ關スルトキ
 二 裁判スヘキ事件一人ノ資格ヲ以テ意見ヲ述ヘタルモノ又ハ理事者代理者若クハ職務外
 ノ地位ニ於テ取扱ヒタルモノニ關スルトキ
 三 裁判スヘキ事件行政官タルノ資格ヲ以テ其事件ノ處分又ハ裁決ニ參與シタルモノニ關ス
 ルトキ

第十一條 前條ノ場合ニ於テ原告又ハ被告ハ原因ヲ疏明シテ文書又ハ口頭ヲ以テ長官又ハ評定
 官ヲ忌避スルコトヲ得
 前項ノ場合ニ於テ行政裁判所ハ本人ヲ回避セシメ之ヲ議決ス

第十二條 忌避若クハ除斥ノ原因タル事情ニ付長官又ハ評定官ヨリ申出アルトキ又ハ他ノ事
 由ヨリシテ長官又ハ評定官法律ニ依リ評議及決議ニ加ハルヲ得サルノ疑アルトキハ行政裁
 判所ハ本人ヲ回避セシメ之ヲ議決ス

第十三條 行政裁判所ノ處務規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
 第十四條 行政裁判所ノ辯護人タルコトヲ得ルハ行政裁判所ノ認許シタル辯護士ニ限ル
 第二章 行政裁判所ノ權限

第十五條 行政裁判所ハ法律勅令ニ依リ行政裁判所ニ出訴ヲ許シタル事件ヲ審判ス
 第十六條 行政裁判所ハ損害賠償ノ訴訟ヲ受理セス
 第十七條 行政訴訟ハ法律勅令ニ特別ノ規程アルモノヲ除ク外地方上級行政廳ニ訴願シ其裁決
 ヲ經タル後ニ非ラサルハ之ヲ提起スルコトヲ得ス

各省大臣ノ處分又ハ内閣直轄官廳又ハ地方上級行政廳ノ處分ニ對シテハ直ニ行政訴訟ヲ提起
 スルコトヲ得

各省又ハ内閣ニ訴願ヲ爲シタルトキハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス
 第十八條 行政裁判所ノ判決ハ其事件ニ付關係ノ行政廳羈束ス
 第十九條 行政裁判所ノ判決ニ對シテハ再審ヲ求ムルコトヲ得ス

第二十條 行政裁判所ハ其權限ニ關シテハ自ラ之ヲ決定ス
 行政裁判所ト通常裁判所又ハ特別裁判所トノ間ニ起ル權限ノ爭議ハ權限裁判所ニ於テ之ヲ裁
 判ス

第二十一條 行政裁判所ノ判決ノ執行ハ通常裁判所ニ囑託スルコトヲ得
 第三章 行政訴訟手續

第二十二條 行政訴訟ハ行政廳ニ於テ處分書若クハ裁決書ヲ交付シ又ハ告知シタル日ヨリ六十
 日以内ニ提起スヘシ六十日ヲ經過シタルトキハ行政訴訟ヲ爲スコトヲ得ス但法律勅令ニ特別
 ノ規程アルモノハ此限ニ在ラス

訴訟提起ノ日限其他法律ニ依リ行政裁判ノ指定スル日限ノ計算並ニ災害事變ノ爲メ遷延シタ
 ル期限ニ關シテハ民事訴訟ノ規程ヲ適用ス

第二十三條 行政訴訟ハ法律勅令ニ特別ノ規程アルモノヲ除ク外行政廳ノ處分又ハ裁決ノ執行
 ヲ停止セス但行政廳及行政裁判所ハ其職權ニ依リ又ハ原告ノ願ニ依リ必要ト認ムルトキハ其
 處分又ハ裁決ノ執行ヲ停止スルコトヲ得

第二十四條 行政訴訟ハ文書ヲ以テ行政裁判所ニ提起スヘシ法律ニ依リ法人ト認メラレタル者
 ハ其名ヲ以テ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第二十五條 訴狀ハ左ノ事項ヲ記載シ原告署名捺印スヘシ

一 原告ノ身分、職業、住所、年齢

二 被告ノ行政廳又ハ其他ノ被告

三 要求ノ事件及其理由

四 立證

五 年月日

訴狀ニハ原告ノ經歷シタル訴願書裁決書並ニ證據書類ヲ添フヘシ

第二十六條 訴狀ニハ被告ニ送付スル爲メニ必要文書ノ副本ヲ添フヘシ

第二十七條 行政裁判所ハ原告ノ訴狀ニ就テ審査シ若シ法律勅令ニ依リ行政訴訟ヲ提起スヘカ
ラサルモノナルカ又ハ適法ノ手續ニ違背スルモノナルトキハ其理由ヲ付シタル裁決書ヲ以テ
之ヲ却可スヘシ

其訴狀ノ方式ヲ缺クニ止マルモノハ之ヲ改正セシムル爲メ期限ヲ指定シテ還付スヘシ

第二十八條 行政裁判所ニ於テ訴狀ヲ受理シタルトキハ其副本ヲ被告ニ送付シ相當ノ期限ヲ指
定シテ答辯書ヲ差出サシムヘシ

答辯書ニハ原告ニ送付スル爲メ必要文書ノ副本ヲ添フヘシ

第二十九條 行政裁判所ハ必要ナリト認ムルトキハ其期限ヲ指定シテ原告被告交互ニ辯駁書及
再度ノ答辯書ヲ差出サシムヘシ

第三十條 行政裁判所ハ訴狀及答辯書ノ附屬文書ノ副本ヲ原告被告交互ニ送付スル代リニ所
内ニ於テ之ヲ閱覽セシムルコトヲ得

第三十一條 行政裁判所ハ訴訟審問中其事件ノ利害ニ關係アル第三者ヲ訴訟ニ加ハラシメ又ハ

第三者ノ願ニ依リ訴訟ニ加ハルコトヲ許可スルヲ得

前項ノ場合ニ於テハ行政裁判所ノ判決ハ第三者ニ對シテモ亦其効力ヲ有ス

第三十二條 行政官廳ハ其官吏又ハ其申立ニ依リ主務大臣ヨリ命シタル委員ヲシテ訴訟代理ヲ
爲サシムルコトヲ得

代理人ハ委任狀ヲ以テ代人タルコトヲ證明スヘシ

第三十三條 行政裁判所ハ豫メ指定シタル期日ニ於テ原告被告及第三者ヲ召喚シテ審延ヲ開キ
口頭審問ヲ爲スヘシ

原告被告及第三者ニ於テ口頭審問ヲ爲スコトヲ望マサル旨ヲ申立タル場合ニ於テハ行政裁判
所ハ文書ニ就キ直ニ判決ヲ爲スコトヲ得

第三十四條 審延ニ於テハ原告被告及第三者ノ辯明ヲ聽クヘシ

審延ニ於テハ裁判長ノ許可ヲ得タル者ヨリ順次發言スヘシ

原告被告及第三者ハ事實上及法律上ノ點ニ就キ文書ニ盡ササル所ヲ補足シ及ハ誤謬ヲ更正シ
若クハ新ニ證據ヲ提出シ及證書ヲ提示スルコトヲ得

第三十五條 主務大臣ハ必要ト認ムル場合ニ於テハ公益ヲ辯護スル爲メ委員ヲ命シ審延ニ差出
スコトヲ得

行政裁判所ハ判決ヲ爲ス前ニ委員ヲシテ意見ヲ陳述セシムヘシ

第三十六條 行政裁判所ノ對審判決ハ之ヲ公開ス
安寧秩序又ハ風俗ヲ害スルノ虞アリ又ハ行政廳ノ要求アルトキハ行政裁判所ノ決議ヲ以テ

審ノ公開ヲ停ムルコトヲ得

第三十七條 公開ヲ停ムルノ決議ヲ爲シタルトキハ公衆ヲ退カシムルノ前之ヲ言渡ス

第三十八條 行政裁判所ハ原告被告及第三者ニ出廷ヲ命ジ或ニ必要ト認ムル證憑ヲ徵シ證人及鑑定人ヲ召喚シ審問ニ應シ證明及鑑定ヲ爲サシムルコトヲ得

證人又ハ鑑定人トシテ審問ニ應シ證明及鑑定ヲ爲スヘキ義務ニ關シテハ民事訴訟ノ規程ヲ適用ス其義務ヲ盡ササル場合ニ於テ處分スヘキ科罰ハ行政裁判所自ラ之ヲ判決ス

行政裁判所ハ口頭審問ニ於テ舉證ノ手續ヲ爲シ又ハ評定官ニ委任シ若クハ通常裁判所又ハ行政廳ニ囑託シテ之カ調査ヲ爲サシムルコトヲ得

第三十九條 行政裁判所ニ於テ審問中ノ事件ニ關シ民事上ノ訴訟起ルコトアリテ通常裁判ノ確定ヲ待ツノ必要アリト認ムルトキハ其審判ヲ中止スルコトヲ得

第四十條 審問手續ニ關スル故障ノ申立ハ行政裁判所自ラ之ヲ判決ス

第四十一條 召喚ノ期日ニ於テ原告若クハ被告若クハ第三者出廷セサルコトアルモ行政裁判所ハ其審判ヲ中止セス

原告被告及第三者共ニ出廷セサルトキハ行政裁判所ハ審問ヲ行ハス直ニ判決ヲ爲スコトヲ得

第四十二條 裁判宣告書ハ理由ヲ付シ裁判長評定官及書記之ニ署名捺印シ其謄本ニ行政裁判所ノ印章ヲ捺シ之ヲ原告被告及第三者ニ交付スヘシ

行政訴訟ノ文書ニハ訴訟用印紙ヲ貼用スルヲ要セス

第四十三條 行政訴訟手續ニ關シ此法律ニ規程ナキモノハ行政裁判所ノ定ムル所ニ依リ民事訴訟ニ關スル規程ヲ適用スルコトヲ得

第四章 附則

第四十四條 此法律ハ明治二十三年十月一日ヨリ施行ス

第四十五條 第二十條第二項ノ權限爭議ハ權限裁判所ヲ設クル迄ノ間樞密院ニ於テ之ヲ裁定ス

裁定ノ手續ハ勅令ノ定ムル所ニ依ル

第四十六條 従前ノ法令ニシテ此法律ト抵觸スルモノハ此法律施行ノ日ヨリ廢止ス

第五十七條 此法律施行ノ前既ニ行政訴訟トシテ受理シ審理中ニ係ルモノハ仍従前ノ成規ニ依リ處分スヘシ

行政裁判法第八條ニ依ル組織及事務分配ノ件

(明治三十四年四月勅令第七十二號)

行政裁判法第八條第二項ニ依ル組織及事務分配ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 行政裁判所ニ第一第二ノ二部ヲ置ク

第二條 行政裁判所ニ部長二人ヲ置ク

部長一人ハ勅任評定官中ヨリ之ヲ命ス

第三條 長官ハ一ノ部ニ長タルヘシ

長官ハ毎年度部長並評定官ノ部屬ヲ定ム

第四條 長官ハ各部ニ屬スヘキ事務ノ分配ヲ定ム

部長ハ部内ノ事務ヲ監督シ其ノ分配ヲ定ム

附則

本令ハ明治三十四年五月十五日ヨリ之ヲ施行ス

行政訴訟豫納金手續

(明治二十三年十一月行政裁判所告示第二號)

行政訴訟豫納金手續左ノ通相定ム

豫納金手續

第一條 行政訴訟ヲ爲ス者ハ臨時特別費ヲ除クノ外訴訟提出ノ際ニ於テ書類送達等ノ費用ニ充ツル爲メ金二圓ヲ豫納スヘシ

第二條 證人鑑定人ノ喚問其他證據調ニ關シ費用ヲ要スルトキハ其中請者ヨリ之ヲ豫納スヘシ但行政裁判所ノ職權ヲ以テ之ヲ命シタル場合ニ於テハ行政裁判所其豫納者ヲ指定ス(明治三十一年十一月行政裁判所告示第二號ヲ以テ本條ヲ改ム)

第三條 第一條ノ豫納金ニ於テ仍ホ不足ナルトキハ追納セシムルコトアルヘシ

追納手續モ亦前條ニ依ルヘシ

行政訴訟答要式

(明治二十四年七月行政裁判所告示第一號)

行政訴訟答書式左ノ通相定ム

何々訴狀

住所身分職業若クハ何府(縣)何市(郡)何町(村)何職

原告

氏

名

年 齡

住居ノ地行政裁判所ヨリ八里以上ニ在ルトキハ其里程

(訴訟代理人アルトキハ此處ヘ其住所身分職業ヲ肩書ニシ氏名ヲ記シ頭ニ訴訟代理人ト記スヘシ辯護人アルトキモ亦之ニ準ス)

被告

官

氏

名

(被告官廳ニアラサルトキハ何(府縣)何(市郡)何(町村)何職氏名若クハ住所身分職業氏名)

一定ノ中立

事實

理由

立證

行政廳ヨリ處分書若クハ裁決書ヲ交付シタル年月日

年 月 日

原告

氏

名 印

(訴訟代理人ナルトキハ代理人署名捺印スヘシ)

行政裁判所長官宛

(訴狀ハ正副兩通ヲ出スヘシ若シ被告數名ニシテ其住居
各八里以上ヲ離隔スルトキハ其數ニ應シテ差出スヘシ)

何々答書

被告 何官氏名

(被告官廳ニアラサルトキハ何(府縣)何(市郡)何(町
村)何職氏名若クハ住所身分職業氏名ヲ記シ又訴訟
代理人又ハ辯護人アルトキハ訴狀署名ノ例ニ倣フ
住所身分職業若クハ何府(縣)何市(郡)何町(村)

原告 氏名

(訴訟代理又ハ辯護人アルトキハ訴狀署名ノ例ニ倣フ)

一定ノ申立

何、事、實、

何、理、由、

何、立、證、

何、年、月、日、

被告 氏名

原告 氏名

年 月 日

被告 氏名

右相違無之候也

原告(被告) 氏名 印

行政裁判所長官宛

(證據物寫ハ正副兩通ヲ出スヘシ若シ被告數名ニシテ其住
居各八里以上ヲ離隔スルトキハ其數ニ應シテ差出スヘシ)

行政裁判所長官宛

(答書ハ正副兩通ヲ出スヘシ)

證據物寫

何、年、月、日、

何、事、實、

何、理、由、

何、立、證、

何、年、月、日、

被告 氏名

原告 氏名

年 月 日

第十二類 警察

第一篇 行政警察

第一章 行政警察規則

行政警察規則 (明治八年三月太政官第二十九號)

第一章 警察職務之事

- 第一條 行政警察ノ趣意タル人民ノ兇害ヲ豫防シ安寧ヲ保存スルニ在リ
- 第二條 各府縣(東京府ヲ除ク)長官其事務ヲ提掌シ警部ヲシテ之ヲ分掌セシメ便宜各所ニ出張シ巡查ヲシテ各部ニ分派シ巡邏巡察セシム(明治八年第百八十三號公達ヲ以テ逕卒トアルハ總テ巡查ト改ム)(明治八年第二百六號達ヲ以テ全條改正)
- 第三條 其職務ヲ大別シテ四件トス
 - 第一 人民ノ妨害ヲ防護スル事
 - 第二 健康ヲ看護スル事
 - 第三 放蕩淫逸ヲ制止スル事
 - 第四 國法ヲ犯サントスル者ヲ隱密中ニ探索警防スル事
- 第四條 行政警察豫防ノ力及ハスシテ法律ニ背ク者アルトキ其犯人ヲ探索逮捕スルハ司法警察ノ職務トス之ヲ行政警察ノ官ニ於テ行フトキハ檢事章程並司法警察規則ニ照スヘシ

第五條 警察官吏ハ公同一般ノ裨益ヲ計リ一家隱微ノ小惡ヲ發ク可ラス且一己ノ功ヲ貪リ警察

一般ノ目的ヲ愆ル可ラス(同上達ヲ以テ第五條第六條第七條ヲ刪除シ第八條ヲ第五條トス)

第二章 警部勤務ノ事(同上達ヲ以テ本章ヲ増シ補フ)

- 第一條 各出張所ニ派出セル警部ハ時時本廳ニ參會シ事務ヲ商議シ處分異同ナキヲ要スヘシ
- 第二條 凡ソ布告布達ハ其旨趣ヲ巡查ニ教示シ誤解スル者ナキヲ要スヘシ
- 第三條 時時區内ヲ巡視シ其景況並巡查ノ勤怠正否ヲ察スヘシ區内ノ人員戶數職業等ハ成丈ケ詳知スルヲ要スヘシ
- 第四條 區内ノ事故ハ月報ヲ以テ長官ニ報知ス可シ若シ非常緊急ノ事件アレハ速ニ報知スヘシ時機ニ因リ直ニ警保頭ニ報スルヲ得ヘシ
- 第五條 凡ソ警察ノ事ニ付テハ直ニ他府縣ノ警察官ニ報告若クハ照會スルコトヲ得可シ
- 第六條 違又ハ訊問等ノ事アルニ付テハ勅奏官及華族並有位ノ者ハ家令家扶執事ヲ呼出ス可シ判任官以下士族平民ハ直ニ本人ヲ呼出ス事ヲ得ヘシ
- 第七條 違警犯人ハ其ノ犯罪ヲ按シ違警條目ニ依リ處斷シテ後長官ニ具申シ其擬按アルモノハ長官ノ指揮ヲ受ケ處分スヘシ
- 第三章 巡查勤方之事(同上ヲ以テ第二章第三章トス)
- 第一條 第一章第三條ヲ以テ職務ノ大目的トナス可キ事
- 第二條 持區内ノ居民並道路行人ヨリ困難出來シテ救護ヲ乞フ時ハ何時ニテモ乞ヒニ應シ或ハ救護ヲ乞ハサルモ見聞次第力ヲ盡シテ防護スヘシ但街路其外ニテ人命ニ係ル危難有之節ハ瞬速救護シ最寄ノ醫ヲ頼ミ治療ノ手續懇切ニ取扱フヘシ

- 第三條 老幼癡疾婦人等ハ就中注意シテ保護スヘシ
- 第四條 持区内ノ大小往來筋及市街村落ノ位置區長戸長ノ宅等悉ク詳知スヘシ
- 第五條 持区内ノ戸口男女老幼及ヒ其職業平生ノ人トナリニ至ル迄ヲ注意シ若シ無産體ノ集合スルカ又ハ怪物ト認ル時ハ常ニ注目シテ其舉動ヲ察スヘシ
- 第六條 持区内ノ他ヨリ移リ來ル者アルハ前條ニ隨テ速ニ之ヲ探知スヘシ但右等ノ事ニ付權威ヲ以テ其人ヲ呼出ス等ノ儀ハ決シテ有之間敷務メテ當人ノ覺知セサル様際密ニ探偵スルヲ以テ警察ノ本意トス若シ已ムヲ得サル事アル時ハ自ラ行テ尋問スヘシ
- 第七條 違告布達等總テ新令ノ出ルニ付人心ノ信否ヲ考察シテ警部ニ報知スヘシ(同上達ヲ以テ掛官員トアルハ警部ト改ム以下皆ナ同シ)
- 第八條 巡邏中職務ニ關スル大小ノ事故ハ逐一手帳ニ記シ警部ヘ報知スヘシ
- 第九條 非番タリトモ合圖アルカ又ハ臨時呼出ヲ受レハ早速其場ニ馳付クヘク平常其心掛アルヲ要ス
- 第十條 往來筋ノ妨害トナルヘキ物ヲ見ル時ハ速ニ之ニ取除カシムヘシ
- 第十一條 道路ノ荒蕪溝渠ノ淤塞及不潔物アレハ之ヲ戸長ニ告ケ除掃ノ手續ヲナスヘシ
- 第十二條 官舎橋梁道路其他公有ノ建造物破損スル時ハ警部ニ報知スヘシ
- 第十三條 行人ニ道路或ハ其他ノ事ヲ尋問セラルル時ハ丁寧ニ教示スヘシ
- 第十四條 稚兒道ニ迷フアラハ之ヲ保護其居所不分明ナル者ハ之ヲ其地ノ戸長ヘ預ケ警部ヘ報知スヘシ若シ其居所不分明ニシテ其持区内ナラハ直ニ之ヲ送致シ他ノ區ナラハ其地ノ區戸長ニ掛合送致ノ手續ヲナス可シ

- 第十五條 芝居其他群集ノ所ニハ出張シテ亂雜ヲ防制スヘシ
- 第十六條 放レ牛馬アレハ之ヲ便宜ノ所ニ留メ其置主分明ナル者ハ之ヲ附與シ然ラサルハ警部ノ指圖ヲ受ケヘシ
- 第十七條 路上酒ニ酔ヒ失心スル者ハ之ヲ注意シ又ハ最寄人民ニ介抱セシメ其暴動スル者ハ取押ヘ其地ノ戸長ニ引渡ス可シ
- 第十八條 路上狂癡人アレハ穩ニ之ヲ介抱シ其暴動スル者ハ取押ヘ其地ノ戸長ニ引渡ス可シ
- 第十九條 路上ニ狂犬アレハ之ヲ打殺シ戸長ニ告ケ之ヲ取葬ル手續ヲナス可シ
- 第二十條 道路河渠ニ死屍アル時ハ其模樣ヲ檢シ警部ニ報知シ指揮ヲ受ケヘシ
- 第二十一條 獸畜ノ死骸アル時ハ速ニ戸長ニ告ケ之ヲ取除ケ手續ヲナスヘシ
- 第二十二條 鳥獸魚類其他飲食物ヲ販賣スル店ニ贗造腐敗ノ品アルヤヲ檢査スヘシ
- 第二十三條 人家夜間戸締油斷ノ者アレハ速ニ之レヲ其主ニ知ラスヘシ
- 第二十四條 怪物ヲ見認ル時ハ取糺シテ様子ニ依リ持区内出張所ニ連行或ハ警察ニ密報シ差圖ヲ受ケ可シ倉卒ノ取計アル可カラス
- 第二十五條 失火ノ節ハ巡查失火ノ合圖ヲナシ一般ニ知ラシム其燒火ニ罹ル家ハ其家人ヲ助ケ消防ノ事モ勤ムヘシ消防人己ニ集ルニ至レハ勉テ亂雜及ヒ竊盜ヲ防グ事ニ注意スヘシ
- 第二十六條 同斷ノ節第一ニ其人ヲ救ヒ出シ次ニ書籍金貨等ヲ出スヘシ又官廳其他區戸長ノ宅ハ文書ヲ第一ニ取出ス可シ

第四章 巡查心意ノ事(同上達ヲ以テ第三章ヲ第四條トス)

第一條 專ラ行儀作法ヲ正シクシ威權ケ間敷儀之レナクシテ區民ノ侮慢ヲ受ケサル様可心掛事

第二條 法度規則ヲ確守シ上官ノ命令ヲ遵守ス可シ決シテ職外ノ事ヲ議ス可ラサル事

第三條 同勤中ハ一心全體ト心意常ニ謙遜溫順ヲ旨トシ忠實ヲ以テ交誼ヲ盡シ職務ヲ怠ラサル様互ニ獎勵ス可キ事

第四條 節儉ヲ守リ分限不相應ノ儀致間敷事

第五條 職務上ニ付上官ノ申立ノ事ハ總テ實直ヲ旨トシ愛憎偏倚ノ儀決シテ有之間敷尤モ後日ニ至リ前言ヲ翻改スル儀無之様可心意事

第六條 巡邏中道路行人竝ニ營業ノ者ノ妨ニ不相成様心意事

第七條 往來ノ者ヲ取扱フニハ柔和ヲ旨トシ辨ヘナキ者ハ殊更穩ニ取扱ヒ決シテ凌辱ヲ加ヘ手荒キ處置致間敷事(明治八年四月第四十七號達ヲ以テ往來ノ上ナル市中ノ二字ヲ删除ス)

第八條 取調ノ爲メ人家ニ至ル節ハ接對筋總テ懇篤ニ可致但シ公私ノ分ヲ守リ狎狎敷儀有之間敷事

第九條 巡邏中私ニ人家ニ立寄候儀ハ勿論徒ラニ市店ヲ詠メ職務ヲ怡ル間敷事

第十條 持區内ニテ金談等頼ミ入レ或ハ物ヲ買ヒ其價ヲ借ル等ノ儀決シテ有之間敷事

第十一條 出勤中醉態ヲ露ハシ又ハ婦女ヘ對シ戲ケ間敷儀決シテ有之間敷事

第十二條 機密ノ筋ハ勿論職務ニ係リタル事ハ總テ他言致間敷事

第十三條 公事出入等ニハ一切關係致間敷若シ強テ相頼候者アラハ警部ヘ具申スヘキ事

第十四條 官ヨリ渡サレタル得者ノ外兵器ヲ携ル儀ハ不相成且ツ相渡サレタル品ハ大切ニ取扱

フヘキ事

第十五條 得物ハ自身ヲ擁護スル具ト心意猥リニ人ヲ打擲致間敷ハ勿論凶暴人アリテ手ニ餘リ不得止節ハ格別ノ事

第十六條 巡邏中ハ傍人ノ嘲弄スルコトアリト雖モ必シモ耻ト意フ可ラス能ク忍耐シテ相當ノ處置ヲ爲シ決シテ憤怒ノ色ヲ顯ハシ爭鬪ケ間敷儀致間敷事

第十七條 何様ノ事アリトモ職務上ニ付人民ヨリ謝物トシテ金銀物品ヲ受ルコト有ル可カラサルコト

第十八條 巡邏中ハ必ス役服ヲ着用シ能ク容姿ヲ正フシ他人ト同行シテ雜譚ス可ラサルコト

第十九條 毎朝衣服冠冠物其他器械ヲ檢査シ常ニ見苦シカラサル檢注意スヘキコト

第二十條 屯所ハ毎朝清潔ニ掃除スヘキコト

行政執行法 (明治三十三年六月法律第八十四號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル行政執行法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

行政執行法

第一條 當該行政官廳ハ泥醉者、瘋癲者自殺ヲ企ツル者其ノ他救護ヲ要スト認ムル者ニ對シ必要ナル檢束ヲ加ヘ戒器、兇器其ノ他危險ノ虞アル物件ノ假領置ヲ爲スコトヲ得暴行、鬪爭其ノ他公安ヲ害スルノ虞アル者ニ對シ之ヲ豫防スル爲必要ナルトキ亦同シ
前項ノ檢束ハ翌日ノ日没後ニ至ルコトヲ得ス又假領置ハ三十日以内ニ於テ其ノ期間ヲ定ムヘシ

第二條 當該行政廳ハ日出前、日没後ニ於テハ生命身體又ハ財産ニ對シ危害切迫セリト認ムルトキ又ハ博奕、密賣淫ノ現行アリト認ムルトキニ非サレハ現居住者ノ意ニ反シテ邸宅ニ入ルコトヲ得ス但シ旅店、制茶店其ノ他夜間ト雖衆人ノ出入スル場所ニ於テ其ノ公開時間内ハ此ノ限ニ在ラス

第三條 當該行政官廳ハ密賣淫ノ罪ヲ犯シタル者ニ對シ其ノ健康ヲ診斷シ必要ト認ムルトキハ本人若ハ媒合者ノ費用ヲ以テ病院ニ入ラシムルコトヲ得但シ媒合者ニ於テ費用ヲ負擔スルノ資力ナシト認ムルトキハ廳府縣警察費ヲ以テ之ヲ支辨スルコトヲ妨ケス

第四條 當該行政官廳ハ天災、事變ニ際シ又ハ勅令ノ規定アル場合ニ於テ危害豫防若ハ衛生ノ風俗上ノ取締ヲ要スル業ヲ爲ス者ノ居住其ノ他ノ制限ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第五條 當該行政官廳ハ法令又ハ法令ニ基キテ爲ス處分ニ依リ命シタル行爲又ハ不行爲ヲ強制スルノ爲左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

一 自ラ義務者ノ爲スヘキ行爲ヲ爲シ又ハ第三者ヲシテ之ヲ爲サシメ其ノ費用ヲ義務者ヨリ徴收スルコト

二 強制スヘキ行爲ニシテ他人ノ爲スコト能ハサルモノナルトキ又ハ不行爲ヲ強制スヘキトキハ命令ノ規定ニ依リ二十五圓以下ノ過料ニ處スルコト

前項ノ處分ハ豫メ戒告スルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス但シ急迫ノ事情アル場合ニ於テ第一號ノ處分ヲ爲スハ此ノ限ニ在ラス

行政官廳ハ第一項ノ處分ニ依リ行爲又ハ不行爲ヲ強制スルコト能ハスト認ムルトキ又ハ急迫

ノ事情アル場合ニ非サレハ直接強制ヲ爲スコトヲ得ス

第六條 第三條及第五條ノ費用及第五條ノ過料ハ國稅徵收法ノ規定ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得

行政官廳ハ前項ノ徵收金ニ付國稅ニ次キ先取特權ヲ有ス

第一項ノ費用及過料ニ關スル繰替支辨、收入ノ所屬其ノ他必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第七條 認可又ハ許可ヲ受クルニ非サレハ所有スルコトヲ得サル物件行政廳ノ保管ニ歸シタル場合ニ於テ其所置ヲ認許スヘカラサルトキハ其ノ所有權國庫ニ歸屬ス假領置ヲ爲シタル物件ニシテ一箇年以内ニ交付ヲ請求スル者ヲキトキ亦同シ

同 施行令 (明治三十三年六月勅令第二百五十三號)

朕行政執行法施行令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

行政執行法施行令

第一條 廳府縣長官ハ行政執行法第三條ノ健康診斷ヲ行フカ爲必要ナル設備ヲ爲スヘシ

前項設備ニ要スル費用ハ廳府縣警察費ヲ以テ之ヲ支辨スヘシ

第二條 生命、身體若ハ財産ニ對シ危害切迫セリト認メ又ハ水陸ノ交通ニ危害ヲ及ホスノ虞アリト認メタルトキハ當該行政官廳ハ行政執行法第四條ニ依リ必要ナル措置ヲ爲スコトヲ得左ノ各號ニ掲クル土地、物件ニ關シテハ法令ノ規定ニ違背シ因テ危害ヲ生シ又ハ健康ヲ害スルノ虞アリト認メタル時亦同シ

- 一 崩壞又ハ人ヲ陥落セシムルノ虞アル場所
 - 二 家屋其ノ他ノ工作爲
 - 三 船車其ノ他交通ノ用ニ供スル器具又ハ裝置
 - 四 汽機、汽機及其附屬裝置
 - 五 前各號ニ掲ケタルモノノ外主務大臣ノ定メタル土地物件
- 第三條 危害豫防ノ爲又ハ衛生上必要ト認ムル物品ハ主務大臣ノ定ムル所ニ依リ必要ナル分量ヲ試験ノ用ニ供スルコトヲ得
- 第四條 行政執行法第五條ノ過料ハ處分ヲ爲ス行政官廳ノ區別ニ從ヒ左ノ金額ヲ超ユルコトヲ得ス
- 一 各省大臣 二十五圓
 - 二 廳府縣長官 十圓
 - 三 其ノ他ノ行政官廳 二圓
- 第五條 行政執行法第五條ノ戒告ハ履行期間ヲ定メ且書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ
- 第六條 行政執行法第五條ノ費用ノ徵收ハ現ニ要シタル費用及其ノ納期日ヲ決定シ決定書ノ正本ヲ義務者ニ交付シテ之ヲ爲スヘシ
- 第七條 行政執行法第五條ノ費用ハ事務費ノ所屬ニ從ヒ國庫又ハ府縣經濟ヨリ之ヲ支出シ其ノ前項ノ規定ハ行政執行法第三條ノ費用ニ付之ヲ準用ス但シ本人ハ媒介者ヲシテ病院ニ辨償セ

シムルトキハ此ノ限ニアラス

附則

第八條 他ノ法令ノ規定ニ依リ行政官廳ニ於テ行政處分ヲ強制スル爲豫メ戒告ヲ爲ストキ、自ラ義務者ノ爲スヘキ行爲ヲ爲シ若ハ第三者ヲシテ之ヲ爲サシメ其ノ費用ヲ義務者ヨリ徵收スルトキ又ハ行政處分ヲ強制スル爲過料ニ處スルトキハ第五條第六條及第七條第一項ノ規程ヲ準用ス

第二章 危害ニ對スル取締

消防組規則 (明治二十七年二月勅令第十五號)

朕消防組規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

消防組規則

- 第一條 府縣知事ハ職權又ハ市町村ノ申請ニ依リ火災ノ警戒防禦ノ爲メ消防組ヲ設置スルコトヲ得(明治三十年一月勅令第八號ニテ全條改正)
- 第二條 消防組ノ設置區域ハ市町村ノ區域ニ依ルヘシ但土地ノ狀況ニ依リ市町村内ニ於テ適宜區域ヲ定ムルコトヲ得(同上)
- 第三條 消防組ハ組頭一人小頭若干人及消防手若干人ヲ以テ之ヲ組織ス
- 組頭及小頭ハ警部長若クハ其ノ委任ヲ受ケタル警察署長之ヲ命免ス
- 消防手ハ警察署長之ヲ命免ス

第四條 組頭ハ警察官ノ命ヲ承ケ部下ノ指揮取締ニ任シ庶務ニ従事ス

小頭ハ組頭ヲ助ケ組頭差支アルトキハ之ニ代ルモノトス

第五條 府縣知事ハ市町村會ニ諮問シ消防組ヲ數部ニ分ツコトヲ得(同上)

第六條 消防組ハ府縣知事ニ於テ指定シタル警察署長之ヲ指揮監督ス

消防組ハ警察官ノ指揮ニ從ヒ進退スヘシ但火災ニ際シ警察官ノ臨場スル迄町村長又ハ組頭小頭之ヲ指揮ヲ爲スコトヲ得(同上法令ニヨリ但書改正)

第七條 消防組ハ其ノ區域外ノ火災ト雖警察署長ノ指揮ニ從ヒ其ノ警防ニ應援スヘシ(同上法令ニテ本項改正)

危急ノ場合ニ於テ警察署長前項ノ指揮ヲ爲スノ暇ナキトキハ他ノ警察官警察署長ニ代テ其ノ指揮ヲ爲スコトヲ得

第八條 警部長ハ府縣知事ノ命ヲ承ケテ其ノ地方全體ノ消防組ヲ指揮監督ス

消防組ハ火災警防ノ爲ニアラサレハ集合若クハ運動スルコトヲ得ス但警部長若クハ其ノ委任ヲ受ケタル警察署長ニ於テ儀式訓練及他ノ災害ノ爲メニ集合運動ヲ命シタル場合ハ此ノ限ニ

アラス(同上)

第九條 消防組ノ服務規律及懲戒ニ關スル規程ハ府縣知事之ヲ定ムヘシ

第十條 消防組ノ舉動治安ニ妨害アルト認ムルトキハ府縣知事ハ之ヲ解クコトヲ得

第十一條 消防組員ノ手當並ニ被服等ハ市町村會ニ諮問シ府縣知事ハ之ヲ定ム(同上法令ヲ以テ全條改正)

第十二條 消防組ニ必要ナル器具及建物ハ府縣知事市町村會ニ諮問シ之ヲ定ム(同上)

前項ノ器具及建物ハ市町村ニ於テ之ヲ設備スヘシ

第十三條 消防組ニ關スル費用ハ其ノ市町村ノ負擔トス(同上)

第十四條 (同上法令ニ依リ本條刪除)

第十五條 (同上)

第十六條 此ノ規則ヲ施行スル爲メニ必要ナル細則ハ府縣知事之ヲ定ム(同上法令ヲ以テ本條改正)

第十七條 府縣知事ハ地方ノ狀況ニ依リ此ノ規則ノ全部若ハ一部ヲ準用シ水災ノ警戒防禦

ノ爲メ水防組ヲ設ケ又ハ消防組ヲシテ水災警防ノ事務ヲ兼テシムルコトヲ得(同上法令ニ依

リ本條追加)

第十八條 此ノ規則ハ沖繩縣及東京市ニ適用セス但第八條ハ東京市ニモ之ヲ適用ス

第十九條 北海道ニ於テハ府縣知事ノ職務ハ北海道廳長官之ヲ行フ

東京府郡部ニ於テハ府縣知事ノ職務ハ警視總監之ヲ行ヒ警部長ノ職務ハ警察署長之ヲ行フ

第二十條 此ノ規則中市町村ニ係ル規定ハ北海道ノ區及町村制百十六條ニ依レル町村組合ニ準

用ス(同上法令ヲ以テ本條改正)

消防組點檢規則 (明治三十三年五月內務省訓令第十六號)

消防組點檢規則左ノ通之ヲ定ム

消防組點檢規則

第一條 消防組ノ點檢ハ人員、服裝、姿勢及機械、器具其ノ他携帶品ノ保存使用ノ適否ヲ検査

- スルモノトス
- 第二條 點檢ヲ行フトキハ所屬警察署長警察分署長又ハ其ノ代理者ヲ點檢官トシ組頭又ハ小頭ヲ指揮者トス但シ所屬警察署長警察分署長又ハ其ノ代理者在ラサルトキハ組頭ヲ點檢者トシ小頭ヲ指揮者トス
- 第三條 消防組員ノ集合整頓ノ方法ハ巡查點檢規則ヲ準用ス
- 第四條 指揮者ヲラサル小頭ハ前列右翼ニ若シ餘員アルトキハ同左翼ニ列シ尙ホ餘員アルトキハ後列ノ中央ニ若シ距離ニ於テ押伍ト爲ルヘシ
- 第五條 點檢ノ際列員ハ一定ノ服裝ヲ爲シ手袋アルトキハ之ヲ著用スヘシ但シ頭巾ヲ携フルトキハ其ノ紐ヲ頭ニ掛ケ之ヲ背部ニ負フヘシ
- 第六條 點檢ハ消防組當番員出務ノ際、現場引上ケノ際及演習ノ際之ヲ行フモノトス現場引上ケノ際、機械、器具、被服其ノ携帶品破損ノ有無ヲ検査スルハ特ニ嚴重ノ注意ヲ要ス
- 第七條 機械、器具ニシテ使用シタルモノハ洗滌ノ後修繕シタルモノハ竣工ノ後警察官ニ於テ點檢スヘシ其ノ在ラサルトキハ組頭又ハ小頭ニ於テ點檢スヘシ
- 第八條 唧筒其ノ他機械ニシテ組立テアルモノハ毎年二回以上之ヲ分解シ内部ノ検査ヲ爲スヘシ

前項ノ検査ハ可成丈演習ニ於テ之ヲ行フ

石油取締規則

(明治十六年二月布告第六號)

- 明治十四年(八月)第四十號及同年(九月)第五十號布告石油取締規則左ノ通改定ス但施行日限ノ儀ハ明治十五年(八月)第四十四號布告ノ通りタルヘシ(明治十六年二月第十號ヲ以テ施行期限ハ追テ布告スルマテ延ハス)
- 第一條 石油ヲ分テ二種トシ閉塞發焰試驗法ヲ用ヒ攝氏檢溫器三十度(華氏八十六度)以上ノ溫度ニ達セザレハ發焰セサルモノヲ第一種トシ三十度ニ達セスシテ發焰ルモノヲ第二種トス
 - 第二條 點燈用ニ供スルハ第一種ノ石油ニ限リ第二種ノ石油ハ醫療製藥調劑及ヒ物理學化學工業上ニ於テ業用ニ供スルノ外之ヲ用フルヲ許サス
 - 第三條 石油營業者ヲ分テ礦業者精製者問屋及ヒ小賣商ノ四類トス其營業者ハ總テ管轄廳(東京府下ハ警視廳)ノ認可ヲ受クヘシ但二類以上兼業スルトキハ別ニ許可ヲ受クヘシ
 - 第四條 石油ノ種類ハ内務卿ノ必要トスル地方ニ於テ検査員ヲシテ之ヲ検査セシムヘシ石油ハ検査済ノ證アルモノニアラサレハ之ヲ販賣スルヲ許サス但礦業者ヨリ精製者ニ販賣スルハ此限リニ在ラス
 - 第五條 検査済ノ石油ヲ家屋内ニ貯藏スルヲ得ルハ第一種ノ石油五石以内第二種ノ石油五斗以内トシ容器ハ漏出ノ虞ナキ不燃質物ニ限ルヘシ
 - 第六條 石油營業者前條制限外ノ石油竝ニ検査未済ノ石油ヲ貯藏スル場所建物及ヒ精製所ノ構造方ハ總テ管轄廳(東京府下ハ警視廳)ノ認可ヲ受クヘシ
 - 第七條 第二種ノ石油ハ精製者問屋ヨリ直ニ需用者ニ販賣シ小賣商ハ第一種ノ石油ニ限リ販賣スルヲ得ルモノトス

第八條 第二種ノ石油ヲ販賣スル者ハ購買者ヨリ其數量及ヒ需用ノ趣意年月日住所氏名ヲ詳記シタル書付ヲ取り置キ一年間保存スヘシ但シ販賣時限ハ日出ヨリ日没マテトス

第九條 石油ヲ運搬スルトキハ其石油タルロトヲ表記スヘシ但其積卸ニ必要ナル時間ノ外物揚場又ハ路傍ニ置クヘカラス

第十條 此規則ヲ犯シタル者ハ二圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

工場ノ災害事故ニ關スル届出其他ノ件

(明治三十二年六月内務省訓令第十九號)

工場ニ於テ入院治療ヲ要スル程ノ負傷者アルトキハ警察官署ニ届出テシメ警察官吏ハ現場ニ臨ミ負傷者救護ニ關スル顛末ヲ見届クヘシ

寄宿舎又ハ社宅アル工場ニハ毎月一回其舎宅内ニ在ル職工數及其患者數ヲ届出テシメ且疾病負傷ノ爲メ休業三十日以上ニ渉ル者ハ其職名姓名年齢病症等ヲ附記セシムヘシ

前項末段ノ病傷者アルトキハ警察官吏ハ其工場ニ臨ミ救護ニ關スル顛末ヲ見届クヘシ

第一項負傷者ノ數第二項職工數及其患者數ハ紡績業ノ如キハ工場別ニ依リ其ノ他ハ帝國統計年鑑ノ例ニ準シ業類別ニ依リ毎年一月七月兩度ニ前半年表ヲ製シテ本省ニ報告スヘシ

工場ノ災害事故ニ關スル報告方ノ件

(明治三十三年九月農商務省訓令第三十一號)

工場ノ災害事故ニ關スル報告方左ノ通相定メ明治三十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

職工徒弟十人以上ヲ雇使スル工場及ヒ其寄宿舎其他ノ附屬建設物ニ於テ災害其他ノ事故ニ因リ死亡者又ハ負傷者ヲ生シタルトキハ別記ノ事項ヲ調査シ遅クモ翌月中ニ農商務大臣ニ報告スヘシ但負傷者ヲ生シタルモ其負傷ノ程度業務ヲ繼續シ得ヘキ場合又ハ災害其他ノ事故ノ生シタル日ノ翌日ヨリ起算シ三日内ニ復業シ得キ場合ハ此限ニ在ラス

職工徒弟十人以上ヲ雇使スル工場及ヒ寄宿舎其他ノ附屬建設物ニ於テ火災アリタルトキ又ハ建物燬突、高架槽、傳動裝置、汽罐、汽機、機械類ニ大ナル毀損ヲ生シタルトキハ死傷者ヲ生セサルモ其都度別記ノ事項ヲ調査シ災害其他ノ事故ノ生シタル日ヨリ二十日內ニ農商務大臣ニ報告スヘシ

汽罐類ノ破裂アリタルトキハ職工徒弟十人以上ヲ雇使スル工場ニ於ケルト其他工場ニ於ケルトニ拘ラス前項ニ依リ報告スヘシ

前各項ノ場合ニ於テ事體重大ナルトキハ其概況ヲ報告スヘシ

(別記事項)

- 一 工場ノ名稱、所在及ヒ工業主ノ氏名
- 二 工場ノ種類
- 三 災害其他ノ事故ノ生シタル日時、場所、其原因及ヒ狀況
- 四 死傷者アルトキハ其數、男女別、年齢及ヒ職名
- 五 死亡者アルトキハ其致死ノ原因、負傷者アルトキハ其負傷ノ部位、症狀、經過等及ヒ救護ノ顛末
- 六 死傷者被害ノ原因、場所、其當時從事シタル仕事ノ種類及ヒ取扱ヒタル機械器具ノ種類

又ハ其部分

第三章 風俗ニ對スル取締

自葬禁止

(明治五年六月第九十二號布告)

近來自葬取行候者モ有之哉ニ相聞候處向後不相成候條葬儀ハ神宮僧侶ノ内へ可相頼候事

賣買其他ノ取引ニ附隨シテ富籤類似其他射倅ノ方法ヲ用キシコトヲ提供スル行爲ノ取締ニ關スル件

(明治三十三年五月内務省令第二十六號)

賣買其ノ他ノ取引ニ附隨シテ富籤類似其ノ他射倅ノ方法ヲ用井シコトヲ提供スルノ行爲ニシテ公安又ハ風俗ヲ害スルノ虞アリト認ムルモノハ廳府縣長官(東京府ニ於テハ警視總監)ニ於テ之ヲ禁止シ又ハ制限スルコトヲ得

前項禁止又ハ制限ヲ命セラレタル場合ニ於テ其ノ命令ニ違背シタル者及ヒ情ヲ知リテ之ト取引シタル者ハ二十五日以下ノ重禁錮又ハ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス
本令ハ明治三十三年七月一日ヨリ施行ス

娼妓取締規則

(明治三十三年七月一日ヨリ施行ス)

娼妓取締規則左ノ通之ヲ定ム

娼妓取締規則

第一條 十八歳未満ノ者ハ娼妓タルコトヲ得ス

第二條 娼妓名簿ニ登錄セラレサル者ハ娼妓稼ヲ爲スコトヲ得ス

娼妓名簿ハ娼妓所在地所轄警察官署ニ備フルモノトス

娼妓名簿ニ登錄セラレタル者ハ取締上警察官署ノ監督ヲ受クルモノトス

第三條 娼妓名簿ノ登錄ハ娼妓タラントスル者自ラ警察官署ニ出頭シ左ノ事項ヲ具シタル書面

ヲ以テ之ヲ申請スヘシ

一 娼妓ト爲ルノ事由

二 生年月

三 同一戸籍ニ在ル最近尊族親、尊族親ナキトキハ戸主ノ承諾ヲ得タルコト若シ承諾ヲ與フ

ヘキ者ナキトキハ其ノ事實

四 未成年者ニ在テハ前號ノ外實父、實父ナキトキハ實母、實父母ナキトキハ實祖父、實父

母實父ナキトキハ實祖母ノ承諾ヲ得タルコト

五 娼妓稼ヲ爲スヘキ場所

六 娼妓名簿登錄後ニ於ケル住居

七 現在ノ生業但シ他人ニ依リテ生計ヲ營ム者ハ其ノ事實

八 娼妓タリシ事實ノ有無並ニ管テ娼妓タリシ者ハ其ノ稼業ノ開始廢止ノ年月日、場所、娼

妓タリシトキノ住居及稼業廢止ノ事由

九 前各縣ノ外廳府縣令ヲ以テ定メタル事項

前項ノ申請ニハ戶籍吏ノ作リタル戶籍謄本、前項第三號第四號ノ承諾書及市區町村長ノ作リタル承諾者印鑑證明書ヲ添付スヘシ

娼妓名簿登録申請者ハ登録前廳府縣令ノ規定ニ從ヒ健康診斷ヲ受クヘキモノトス

前項ノ外娼妓名簿ノ削除ハ娼妓ヨリ之ヲ申請スルモノトス但シ未成年者ニ在テハ前條第一項

第三號及第四號ニ掲クル者ヨリ之ヲ申請スルコトヲ得

第五條 娼妓名簿削除ノ申請ハ書面又ハ口頭ヲ以テスヘシ

前項ノ申請ハ自ラ警察官署ニ出頭シテ之ヲ爲スニ非サルハ受理セサルモノトス但シ申請書ヲ郵送シ又ハ他人ニ托シテ之ヲ差出ス場合ニ於テ警察官署カ申請者自ラ出頭スルコト能ハサル事山アリト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス

警察官署ニ於テ娼妓名簿削除申請ヲ受理シタルトキハ直ニ名簿ヲ削除スルモノトス

第六條 娼妓名簿削除申請ニ關シテハ何人ト雖妨害ヲ爲スコトヲ得ス

第七條 娼妓ハ廳府縣令ヲ以テ指定シタル地域外ニ住居スルコトヲ得ス

娼妓ハ法令ノ規定若ハ官廳ノ命令ニ依リ又ハ警察官署ニ出頭スルカ爲メ外出スル場合ノ外警察

官署ノ許可ヲ受クルニ非サレハ外出スルコトヲ得ス但シ廳府縣令ノ規定ニ例リ一定ノ地域内ニ於テ外出ヲ許ス場合ハ此限ニ在ラス

第八條 娼妓稼ハ官廳ノ許可シタル貸座敷内ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第九條 娼妓ハ廳府縣令ノ規定ニ從ヒ健康診斷ヲ受クヘシ

第十條 警察官署ノ指定シタル醫師又ハ病院ニ於テ疾病ニ罹リ稼業ニ堪ヘサル者又ハ傳染性疾

患アル者ト診斷シタル娼妓ハ治療ノ上健康診斷ヲ受クルニ非サレハ稼業ニ就クコトヲ得ス

第十一條 警察官署ハ娼妓名簿ノ登録ヲ拒ムコトヲ得

廳府縣長官ハ娼妓稼業ヲ停止シ又ハ禁止スルコトヲ得

第十二條 何人ト雖娼妓ノ通信、面接、文書ノ閱讀、物件ノ所持、購置其ノ他ノ自由ヲ妨害スルコトヲ得ス

第十三條 左ノ事項ニ該當スル者ハ二十五圓以下ノ罰金又ハ二十五日以下ノ重禁錮ニ處ス

一 虚偽ノ事項ヲ具シ娼妓名簿登録ヲ申請シタル者

二 第六條第七條第九條第十二條ニ違背シタル者

三 第八條ニ違背シタル者及官廳ノ許可シタル貸座敷外ニ於テ娼妓稼業ヲ爲サシメタル者

四 第十條ニ違背シタル者及第十條ニ依リ稼業ニ就クコトヲ得サル者ヲシテ強テ稼業ニ就カシメタル者

五 第十一條ノ停止命令ニ違背シタル者及稼業停止中ノ娼妓ヲシテ強テ稼業ニ就カシメタル者

六 本人ノ意ニ反シテ強テ娼妓名簿ノ登録申請又ハ登録削除申請ヲ爲サシメタル者

第十四條 本令ノ外必要ナル事項ハ廳府縣令ヲ以テ之ヲ定ム

第十五條 本令施行ノ際現ニ娼妓タル者ハ申請ヲ待タスシテ娼妓名簿ニ登録セラルルモノトス

娼妓毒検査ノ件

(明治九年四月内務省乙第四十五號達)

傳染病毒ノ最酷勳ナルモノハ微毒ヨリ甚シキモノ無之其禍源ハ専ラ娼妓賣淫ニ起因スレハ豫防ノ法ハ娼妓微毒検査ノ外無之娼妓貸座敷差許候場所ハ必ス検査方法施設可致處其方法モ無之取締不十分ノ向モ不尠哉之趣右ハ衛生上最モ緊要ノ事ニ付篤ク注意致シ速ニ方法施設取締行届候様可致此旨相違候事但從來施行至居未々不届出切竝ニ自今施設候分共方法取調當省へ可申出

貸座敷娼妓増殖禁止ノ件

(明治四年五月民部省達)

近來各地方賣女渡世ノ者漸次繁殖致シ其弊害不尠壯年ノ者ハ之レカ爲メ遊惰奢侈ニ流レ終ニ産業ヲ破リ一家退轉シ加之微毒ノ症ヲ受ケ身體支離相成候輩モ不少剩ヘ其毒ヲ子孫ニ傳フニ至ハ實ニ惘然ニモ有之第一淫風盛ニ相成候テハ土地ノ風俗ヲモ紊シ不容易事ニ付爾來遊女賣婦ノ類新店開業ノ儀ハ堅ク不相成從來開店ノ向モ人員増殖ヲ可禁止旨公然布告ニハ不及候得共各地方官ニ於テ屹度除害ノ施設相立可申事但御達相成候爲別紙爲心得相廻候也

(別紙ハ之ヲ畧ス)

娼妓微毒検査方施設ノ件

(明治十四年四月民部省沙汰)

近來各地方賣女渡世ノ者漸次繁殖致シ其弊害不尠殊ニ微毒傳染人身ノ健康ヲ害シ候ニ付小管縣建言ノ次第ヨ有之風俗人體ニ關係シ尤モ注意可致事ニ候條各地方官ニ於テ屹度除害之施設相立候様其省ヨリ可相達候事

第四章 營業ニ對スル取締

質屋取締法

(明治二十八年三月法律第十四號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル質屋取締法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

質屋取締法

第一條 質屋營業ヲ爲サムトスル者ハ行政廳ノ免許ヲ受クヘシ支店ヲ設クルトキ亦同シ廢業シタルトキハ行政廳ニ届出ツヘシ

第二條 質屋ハ店舗ノ外ニ於テ營業ヲ爲スコトヲ得ス

第三條 質屋物品ヲ質ニ取ラムトスルトキハ質置主ニ於テ其ノ物品ヲ質入シ得ヘキ權利ヲ有スルコトヲ確認シタル後之ヲ爲スヘシ若不正品ノ疑アルトキハ直ニ警察官ニ申告スヘシ

第四條 住所、氏名ノ詳カナラサル者ヨリ物品ヲ質ニ取ルコトヲ得ス但シ住所、氏名ノ詳カナル者其ノ證人タルトキ又ハ警察官ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第五條 質屋ハ質契約及質物處分ニ關スル事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ

質屋ノ質契約ノ證トシテ質札又ハ通帳ヲ質置主ニ交付スヘシ

帳簿、質札及通帳ノ製方及様式ハ命令ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得

第六條 質屋ハ左ノ事項ヲ見易キ場所ニ揭示スヘシ

- 一 利子割合
- 一 流質期限

一 質物ノ災難ニ罹リタルトキノ處辨力
一 質物出入時間

第七條 傳染病毒ニ汚染シタル物品ナリト認ムルモノハ消毒シタル後ニ非サレハ之ヲ質ニ取ルコトヲ得ス

前項ノ物品ニシテ警察官ニ於テ未タ消毒セサルモノト認ムルトキハ直ニ消毒法ヲ施サシメ命ニ從ハサレハ之ヲ官沒ス

第八條 質屋ハ質物ヲ使用シ若ハ貸付スルコトヲ得ス

轉賣ハ必要ノ場合ニ限り命令ヲ以テ制限シ若ハ禁止スルコトヲ得

第九條 質屋ハ左ニ掲グル制限内ノ利子ノ外何等ノ名義ヲ以テスルモ金錢ヲ領收スルコトヲ得ス

貸金二十五錢以下ハ一箇月一錢、一圓以下ハ一箇月百分ノ四、五圓以下ハ一箇月百分ノ三、十圓以下ハ一箇月百分ノ二半

本條ニ違反シタル質契約ハ其ノ違反セル部分ニ限り無効トス

第十條 質置主ハ流質期限前ハ何時タリトモ元利金ヲ辨濟シテ其ノ質物ヲ受戻スコトヲ得

第十一條 質屋ハ流質期限經過ノ後何時タリトモ其ノ質物ヲ處分スルコトヲ得

第十二條 質屋ハ何人ニ拘ハラズ質札又ハ通帳ヲ所持スル者ニ其ノ質物ヲ返還スルコトヲ得

第十三條 贖物ニシテ特ニ識別シ得ヘキ物品ニ限り警察官ニ於テ必要アリト認ムルモノハ品觸ヲ發スルコトヲ得

第十四條 贖物ノ品觸アルトキハ到達シタル年月日ヲ其ノ品觸寫書ニ附記スヘシ品觸到達以後

六箇月内ニ品觸ニ相當スル物品ヲ質ニ取り若ハ質物トシテ占有セサルコトヲ覺知スルトキハ直ニ警察官ニ届出ツヘシ

第十五條 警察官ハ犯罪ノ嫌疑アル物品若ハ遺失物又ハ傳染病毒汚染ノ物品アリト認ムルトキ何時タリトモ質物及帳簿ノ検査ヲ爲シ時宜ニ依リ十日以内ヲ限り其ノ物品ヲ差押ヘ又ハ帳簿ヲ差出サシムルコトヲ得

警察官ニ於テ物品ヲ押收シタルトキハ領置證書ヲ交付スヘシ

第十六條 質物ニシテ遺失物若ハ贖物ニ係ルトキハ警察官之ヲ徵收シ被害者ニ還付スルコトヲ得若被害者知レサルトキハ徵收シタル日ヨリ二箇年ノ後被徵收者ニ還付スヘシ(明治三十三年三月法律第六十一號ヲ以テ「官沒スルコトヲ得」トアリシヲ「被徵收者ニ還付スヘシ」ニ改ム)

第十七條 營業ニ關スル帳簿ヲ廢棄セントスルトキハ警察官ノ許可ヲ受クヘシ

第十八條 質屋法律命令ニ違反シ行政廳ニ於テ必要ト認ムルトキハ其ノ營業ヲ禁止又ハ停止スルコトヲ得禁止及停止ノ效力ハ全國ニ及ブ

第十九條 禁止ノ處分ヲ受ケタル者ハ他人ノ名義ヲ以テ質屋營業ヲ爲シ又ハ質屋營業者ノ代理人タルコトヲ得ス停止ノ處分ヲ受ケタル者其ノ期間亦同シ

第二十條 質屋廢業シ若ハ營業ヲ停止セラレタルトキト雖其ノ以前ニ成立シタル質契約及其ノ質物ニ付テハ尙ホ此ノ法律ヲ適用ス停止ノ處分ヲ受ケタル者其ノ期間亦同シ

第二十一條 行政廳ハ何時タリトモ營業ノ禁止ヲ解クコトヲ得

第二十二條 左ノ掲グル諸項ノ一ニ該當スル者ハ二圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第十五條ノ場合ニ於テ虚偽ノ陳述ヲ爲シ又ハ故意ニ物品帳簿ヲ毀損亡失シタル者
 二 第一條ノ免許ヲ受ケスシテ營業ヲ爲シタル者
 三 禁止又ハ停止中營業ヲ爲シタル者
 四 第八條第一項及第十九條ニ違反シタル者

第二十三條 第一條第二項、第二條、第三條、第四條、第五條第一項及第二項、第六條、第七條第一項、第十四條及第十七條ニ違反シタル者ハ二圓以上五十圓以下ノ罰金ニ爲ス
 第二十四條 此ノ法律ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ數罪俱發ノ例ヲ用非ス
 第二十五條 質屋營業上ニ就テハ家屬又ハ雇人ノ所爲ト雖營業者其ノ責ニ任ス
 第二十六條 此ノ法律ヲ施行スル爲ニ必要ナル細則ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

附則

第二十七條 此ノ法律ハ明治二十八年九月一日ヨリ施行ス但シ沖繩縣ニ施行セズ
 第二十八條 此ノ法律施行以前ニ係ル質屋契約ニ付テハ契約當時ノ法令ヲ適用ス
 第二十九條 明治十七年第九號布告質屋取締條例ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ廢止ス

同 細則

(明治二十八年七月内務省令第九號)

明治二十八年法律第十四號質屋取締法細則左ノ通り之ヲ定ム

質屋取締法細則
 第一條 質屋取締法及此ノ細則ニ規定シタル行政廳ノ職權ハ東京府ニ於テハ警視總監、北海道ニ於テハ北海道廳長官其ノ他ノ府縣ニ於テハ知事之ヲ行フ

警視總監、北海道廳長官、府縣(東京府ヲ除ク以下之ニ倣フ)知事ハ前項ノ職權ヲ警察署長、警察分署長、島司、地役人若クハ名主ニ委任スルコトヲ得但營業ヲ禁止若ハ停止シ又ハ營業ノ禁止若クハ停止ヲ解クノ處分ハ此ノ限ニ在ラス
 第二條 支店ヲ設クルトキハ管理人ヲ定メ行政廳ニ届出ツヘシ
 第三條 店舗ノ移轉營業者及後見人ノ族籍、住所、氏名ノ異動管理人ノ變更及後見ノ終了ハ行政廳ニ届出ツヘシ支店ヲ閉鎖スルトキ亦同シ
 後見人ノ變更ハ新後見人ヨリ營業者ノ死亡ハ相續人ヨリ行政廳ニ届出ツヘシ但死亡者非戸主ナルトキハ其死亡ハ戸主ヨリ届出ツヘシ
 後見人ニ因リテ營業ノ免許ヲ願出又ハ後見人ノ變更ヲ届出ルニハ其ノ後見ニ關シ市町村長又ハ區戸長ノ證明書ヲ添付スヘシ

第四條 前二條ノ届出ハ事實ノ生シタル日ヨリ十日以内ニ之ヲ爲スヘシ但相續人ヨリ營業者ノ死亡ヲ届出ルハ相續ノ日ヨリ十日以内ニ於テスヘシ
 第五條 帳簿ノ種類及其記載方ハ廳府縣令ヲ以テ之ヲ規定スヘシ
 第六條 帳簿ヲ毀損シ又ハ亡失シタルトキハ五日以内ニ其ノ事由ヲ説明シ行政廳ニ届出ツヘシ

第七條 質札及通帳ニハ適當ノ箇所ニ質置主ノ氏名ヲ記載シ營業者又ハ支店管理人記名捺印シ質契約ヲ爲ス毎ニ貸金額、質物ノ種類、員數、番號、年月日ヲ記載スヘシ其ノ製方及様式ハ廳府縣令ヲ以テ定ムルコトヲ得

古物商取締法

(明治二十八年三月法律第十三號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル古物商取締法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
古物商取締法

- 第一條 古物商トハ主トシテ一度使用シタル物品若ハ其ノ物品ニ幾部ノ手入ヲ爲シタルモノヲ
賣買交換スルヲ以テ營業ヲ爲ス者ヲ云フ
- 第二條 古物商ノ營業ヲ爲サムトスル者ハ其物品ノ種類ヲ定メ行政廳ノ免許ヲ受クヘシ
- 第三條 古物商ハ免許ヲ受ケタル行政廳ノ管轄内ニ店舗ヲ設ケタルトキハ其ノ旨行政廳ニ届出
ツヘシ
- 第四條 免許ヲ受ケタル行政廳ノ管轄以外ノ地ニ於テ營業所又ハ店舗ヲ設ケムトスルトキハ更
ニ其地行政廳ノ免許ヲ受クヘシ
- 管轄以外ノ地ニ於テ營業所又ハ店舗ヲ設ケルニ非スシテ賣買若ハ交換シタルトキハ古物商ニ
非サル者ヨリ買受ケ若ハ讓受ケタル場合ニ限り其ノ品目ヲ其ノ地ノ行政廳ニ届出ツヘシ但シ
官衙公署ノ公賣品及賣業者ヨリ買受ケタルモノハ此ノ限ニ在ラス
- 第五條 左ニ記載シタルモノニ關スル規定ハ別ニ命令ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得
 - 一 古物ノ市場、行商、露店及驛賣
 - 二 刀劍又ハ之ヲ仕込ミタル器具其ノ他危險ノ虞アル物品ノ賣買交換
- 第六條 古物商物品ヲ買受ケ若ハ交換セムトスルトキハ賣主、讓渡主ニ於テ其ノ物品ヲ處分ス
ルノ權利ヲ有スルコトヲ確認シタル後之ヲ爲スヘシ若不正品ノ疑アルトキハ直ニ警察官ニ申

告スヘシ

- 第七條 住所、氏名ノ詳ナラサル者ヨリ物品ヲ買受ケ又ハ交換スルコトヲ得ス但シ住所、氏名
ノ詳ナル者ノ證人タルトキ又ハ警察官ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス
- 第八條 傳染病毒ニ汚染シタル物品ナリト認ムルモノハ消毒シタル後ニ非ラサレハ之ヲ買受ケ
又ハ讓受クルコトヲ得ス
- 前項ノ物品ニシテ警察官ニ於テ未タ消毒セサルモノト認ムトキハ直ニ消毒法ヲ施サシム其ノ
命ニ從ハサルトキハ之ヲ官沒ス
- 第九條 贓物ニシテ特ニ識別シ得ヘキ物品ニ限リ警察官ハ品觸ヲ發スルコトヲ得
- 第十條 贓物ノ品觸アルトキハ到達シタル年月日ヲ其ノ品觸寫書ニ附記スヘシ品觸到達以後六
箇月内ニ品觸ニ相當スル物品ヲ買受ケ又ハ交換シ若ハ寄藏ヲ受ケ若ハ其ノ以前ニ之ヲ得タル
儘所持シタルトキハ直ニ警察官ニ届出ツヘシ
- 第十一條 古物商物品ヲ賣買シ若ハ交換シタルトキハ其物品及賣主、讓渡主ヲ帳簿ニ記載シ又
買主、讓受主ヲ詳ニスルコトヲ得タルトキハ之ヲ記載スヘシ
- 其ノ他帳簿ニ關スル規定ハ別ニ命令ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得
- 第十二條 物品ノ賣買交換ヲ記載シタル帳簿ヲ廢棄セムトスルトキハ警察官ノ許可ヲ受クヘ
シ
- 第十三條 警察官ハ犯罪ノ嫌疑アル物品若ハ遺失物又ハ傳染病毒汚染ノ物品アリト認ムルトキ
ハ何時タリトモ物品及帳簿ノ検査ヲ爲シ時宜ニ依リ其ノ物品ヲ差押ヘ又ハ帳簿ヲ差出サシム
ルコトヲ得

警察ニ於テ物品ヲ押收シタルトキハ領置證書ヲ交付スヘシ
第十四條 古物商法律命令ニ違犯シ行政廳ニ於テ必要ト認ムルトキハ其營業ヲ禁止若ハ停止
ルコトヲ得
禁止及停止ノ效力ハ全國ニ及フ

第十五條 禁止ノ處分ヲ受ケタル者ハ他人ノ名義ヲ以テ古物商營業ヲ爲シ又ハ古物商ノ代理人
タルコトヲ得ス停止ノ處分ヲ受ケタル者其ノ期限内亦同シ

第十六條 行政廳ハ何時タリトモ營業禁止ヲ解クコトヲ得
第十七條 古物商ノ買受ケ又ハ交換シタル物品ニシテ遺失物若ハ贓物ニ係ルトキハ營業者ヨリ
シタルト否トチ問ハス警察官ニ於テ之ヲ徵收シ被害者ニ還付スルコトヲ得若被害者知レサル
トキハ徵收シタル日ヨリ二箇年ノ後被徵收者ニ還付スヘシ(明治三十三年法律第六十號ヲ以
テ「官設スルコトヲ得」トアリシヲ「被徵收者ニ還付スヘシ」ト改ム)

第十八條 他ノ營業者ニシテ隨時其營業ニ屬スル古物ヲ賣買交換シ特ニ此ノ法律ヲ適用スルノ
必要アルモノハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十九條 左ニ掲グル諸項ノ一ニ該當スル者ハ二圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第十三條ノ場合ニ於テ虛偽ノ陳述ヲ爲シ又ハ故意ニ物品、帳簿ヲ毀損亡失シタルモノ

二 第二條ノ免許ヲ受ケスシテ營業ヲ爲シタル者

三 禁止又ハ停止中營業ヲ爲シタル者

四 第十五條ニ違犯シタル者

第二十條 第三條、第四條、第六條、第七條、第八條、第十條、第十一條及第十二條ニ違犯シ

タル者ハ二圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十一條 此ノ法律ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ數罪俱發ノ例ヲ用井ス

第二十二條 營業上ニ付テハ家屬又雇人ノ所爲ト雖營業者其ノ責ニ任ス

第二十三條 此ノ法律ヲ施行スル爲ニ必要ナル細則ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

附則

第二十四條 此ノ法律ハ明治二十八年九月一日ヨリ施行ス但シ沖繩縣ニ施行セズ

第二十五條 明治十六年第五十號布告古物商取締條例ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ廢止ス

同 細則 (明治二十八年七月內務省令第八號)

明治二十八年法律第十三號古物商取締法細則左ノ通之ヲ定ム

古物商取締法細則

第一條 古物商取締法及此ノ細則ニ規定シタル行政廳ノ權限ハ東京府ニ於テハ議視總監北海道

ニ於テハ北海道廳長官其ノ他ノ府縣ニ於テハ知事之ヲ行フ

警視總監、北海道廳長官、府縣(東京府ヲ除ク以下之ニ做フ)知事ハ前項ノ職權ヲ警察署長、

警察分署長、島司、地役人若クハ名主ニ委任スルコトヲ得但營業ヲ禁止若ハ停止シ營業ノ禁

止若クハ停止ヲ解クノ處分ハ此ノ限ニ在ラス

第二條 左ノ營業者ニシテ臨時其ノ營業ニ屬スル古物ヲ賣買、交換スルトキハ古物商取締法及

此ノ細則ヲ遵守スヘシ

衣服商 金物商 袋物商 小間物商 藍甲商 時計商 飾商 書籍商

其ノ他廳府縣令ヲ以テ定メタル商業

第三條 二箇以上ノ營業所又ハ店舗ヲ設ケルトキハ營業主自ラ之ヲ管理スルモノ外ハ管理人ヲ定メ其ノ地行政廳ニ届出ツヘシ

第四條 營業ノ廢止營業所又ハ店舗ノ閉鎖、移店營業者及後見人ノ族籍、住所、氏名ノ異動管

理人ノ變更及後見ノ終了ハ行政廳ニ届出ツヘシ
後見人ノ變更ハ新後見人ヨリ營業者ノ死亡ハ相繼人ヨリ行政廳ニ届出ツヘシ但死亡者非戸主ナルトキハ其死亡ハ戸主ヨリ届出ツヘシ

後見人ニ依リテ營業ノ免許ヲ願出又ハ後見人ノ變更ヲ届出ルニハ其ノ後見ニ關シ市町村長又ハ區戸長ノ證明ヲ添付スヘシ

第五條 古物商取締法第三條第四條第二項及前二條ノ届出ハ事實ノ生シタル日ヨリ十日以内ニ之ヲ爲スヘシ但古物商取締法第四條第二項ニ依リ品目ノ届出ヲ要スル物品ヲ其買受ケ若クハ讓受ケタル日ヨリ十日以内ニ他所ニ運搬シ又ハ他人ニ交付セントスル場合ニ於テハ其品目届出ハ運搬又ハ交付ノ行爲ニ先ツヘシ又相繼人ヨリ營業者ノ死亡ヲ届出ツルハ相繼ノ日ヨリ十日以内ニ於テスヘシ

第六條 帳簿ノ種類及其記載方ハ廳府縣令ヲ以テ之ヲ規定スヘシ

第七條 帳簿ヲ毀損シ又ハ亡失シタルトキハ五日以内ニ其ノ理由ヲ疏明シ行政廳ニ届出ツヘシ
第八條 古物商ニシテ行商ヲ爲シ又ハ露店ヲ出サントスル者ハ行政廳ニ願出鑑札ヲ受ケ之ヲ携帶スヘシ

家屬又ハ同居ノ雇人ニ限リ行商ヲ爲サシメ又ハ露店ヲ出サシムルヲ得此場合ニ於テハ前項ノ手續ニ依リ鑑札ヲ受ケ之ヲ携帶セシムヘシ
鑑札ハ他人ニ貸與スルコトヲ得ス

第九條 古物ノ市場ヲ開設セントスル者ハ規約書ヲ添ヘ行政廳ノ認可ヲ受ケヘシ
規約書ニハ開閉ノ時間、場所及參集スヘキ營業ノ住所、氏名ヲ記載スヘシ

規約書ノ變更ハ其ノ都度行政廳ノ認可ヲ受ケヘシ
第十條 行商、露店及市場ノ取引ニ付テ別ニ帳簿ノ規程ヲ要スルトキハ廳府縣令ヲ以テ之ヲ規定スヘシ

第十一條 古物ノ糶賣ヲ爲サントスル者ハ豫メ其日時並場所ヲ行政廳ニ届出ツヘシ

第十二條 古物商ハ露店途上其ノ他公ノ場所ニ於テ古物商ニ非サル者ヨリ古物品ヲ買取リ讓受ケ又ハ交換スルコトヲ得ス

第十三條 古物商ハ行商ニ依リ又ハ露店市場ニ於テ刀劍又ハ之ヲ仕込ミタル器具ヲ賣買交換スルコトヲ得ス

第十四條 第三條第四條第一項第二項第七條第八條第九條第十一條第十二條及第十三條ニ違背シタル者ハ二圓以上十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十五條 此細則ニ規定シタルモノノ外警視總監、北海道廳長官及府縣知事ハ必要ナル命令ヲ發スルコトヲ得

營業浴場ニ於テ男女ノ混浴ヲ禁スル件

(明治三十二年五月内務省令第二十五號)

客ノ來集ヲ目的トスル浴場ニ於テハ十二歳以上ノ男女ヲシテ混浴セシムルコトヲ得ス
前項ニ違背シタル營業者ハ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

本令ハ明治三十三年七月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ廳府縣長官(東京府ニ於テハ警視總監)ハ營業者ノ出願ニ對シ本令施行ノ日ヨリ起算シ一年以内ノ範圍ニ於テ浴場ノ設備ヲ爲スニ必要ナル期間本令ノ適用ヲ猶豫スルコトヲ得

宿泊届其他ノ件

(明治三十二年七月内務省令第三十二號)

宿泊届其ノ他ノ件左ノ通相定ム

第一條 旅店主其他營業ニ依リ他人ヲ宿泊セシムル者ハ廳府縣令ニ依リ其ノ所定ノ事項ヲ所轄警察官署ニ届出ヘシ

前項ノ届出ハ廳府縣令ニ規定アル場合ヲ除クノ外派出所或ハ駐在ノ巡查又ハ巡回ノ警察官吏ニ之ヲ爲スコトヲ得

第二條 宿泊者ハ其ノ家ノ主人若ハ管理人ノ請求アルトキハ第一條ニ依リ届出ヲ要スル事項ヲ告ク又ハ主人若ハ管理人ノ交代セル用紙ニ之ヲ記載スヘシ

第三條 一戸ヲ構ヘテ居住シ又ハ一戸ヲ構ヘサルモ九十日以上同一市町村ニ居住スヘキ目的ヲ以テ居住スル外國人ハ自己及其ノ携帶セル家族ニ關シ氏名國籍職業年齢居住所、居住ノ年月日、前居住所、外國ニ於ケル住所及携帶セル家族ノ續柄ヲ居住ノ日ヨリ十日以内ニ所轄警察官署ニ届出ヘシ

前項ニ該當セサルモ九十日以上同一市町村ニ居住シタル外國人ハ九十日ノ末日ヨリ十日以内ニ前項ノ届出ヲ爲スヘシ

外國人一戸ヲ構ヘサル場合ニ於テハ之ヲ寄寓セシメタル者又ハ外國人他人ノ家屋ヲ借受ケ一戸ヲ構ヘタル場合ニ於テハ家屋所有者若ハ其ノ管理人第一項及第二項ノ届書ニ連署スヘシ
日本ノ國籍ヲ失ヒ猶引續同一居住所ニ居住スル者ハ本條ノ届出ヲ要セス

第四條 第七條ノ登録簿ニ登録セラレタル外國人移轉スルトキハ左ニ記載シタル者移轉ノ日ヨリ十日以内ニ移轉ノ年月日及移轉先ヲ所轄警察官署ニ届出ヘシ但シ第四號ニ依ル移轉者自ラ届出ヲ爲スヘキトキハ其ノ届書ハ移轉前タルヘシ

- 一 寄寓ノ外國人移轉シタルトキハ之ヲ寄寓セシメタル者
- 二 一戸ヲ構ヘサル外國人ノ家族移轉シタルトキハ其ノ外國人
- 三 一戸ヲ構ヘタル外國人自ラ移轉シ家族猶其ノ戸ニ留ルトキハ首長タルヘキ成年者若シ首長タルヘキ成年者ナキトキハ成年者中ノ年長者
- 四 一戸ヲ構ヘタル外國人ニテ其ノ家屋ヲ所有スル者全戸他ヘ移轉スルトキハ其ノ外國人

五 前各號ニ該當セサルトキハ家屋所有者又ハ管理者又ハ家屋管理人

第五條 第七條ノ登録簿ニ登録セラレタル外國人自己又ハ家族ノ姓氏國籍ニ變更ヲ生シタルトキハ變更ノ日ヨリ十日以内ニ所轄警察官署ニ届出ヘシ

第六條 戶籍吏外國人ノ身分登記ヲ爲シタルトキハ其ノ事項ヲ其ノ外國人居住所所轄警察官署ニ通知スヘシ

外國人身分ニ關スル届書ニハ居住所ヲ記載スヘシ

第七條 警察官署ハ登録簿ヲ備ヘ置キ第三條第一項第二項第四條及第五條ニ依リ届出ヲ受ケタル事項並第三條第一項第二項及第四項ニ該當スル外國人ニ關シ第六條ニ依リ通知ヲ受ケタル事項ヲ登録スヘシ届出若ハ通知ヲキトキト雖第九條ニ依リ本條ノ登録ヲ要スル事實ヲ知り得タルトキ亦同シ

第八條 何人ト雖第七條登録簿ノ閱覽又ハ登録ノ謄本若ハ抄本ノ交付ヲ請求スルコトヲ得、登録簿ノ閱覽ヲ請求スル者ハ手数料トシテ金十錢ヲ納メ謄本若ハ抄本ノ交付ヲ請求スル者ハ一枚ニ付金十錢ヲ納ムヘシ其ノ一枚ニ滿タサルモノト雖亦同シ但シ枚數ハ原本ニ依リ之ヲ計算ス

前項手数料ハ收入印紙ヲ請求書ニ貼付シテ之ヲ納ムヘシ

第九條 第一條ニ依リ届出ヲ要スル事項又ハ第七條登録簿ニ登録スヘキ事項其ノ他本人家族寄寓者ニ關シ警察官吏ノ尋問ヲ受ケタル者ハ之ニ答フヘシ旅券又ハ其ノ他國籍ヲ證明スヘキ證書ヲ携帶スル外國人ハ警察官吏ノ請求ニ依リ之ヲ示スヘシ

第十條 第九條ニ違背シテ警察官ノ尋問ニ答ヘス若ハ答フルニ實ナクテセス又ハ其ノ請求ニ應セサル者ハ刑法ヲ適用スル場合ノ外二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十一條 第一條第三條第一項第二項第四條及第五條ノ届出ヲ爲ササル者ハ一圓二十五錢以下ノ科料ニ處シ届出ヲ爲スモ實ナクテセサル者ハ刑法ヲ適用スル場合ノ外二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十二條及第十三條第三項ニ違背シタル者ハ一圓二十五錢以下ノ科料ニ處ス

第十二條 本令施行ノ際現ニ帝國版圖ニ居住セル外國人ニ關シ第三條第一項第二項ニ定ムル届出ノ期間ハ本令施行ノ日ヨリ起算ス

第十三條 本令ハ明治三十二年七月十七日ヨリ施行ス

宿泊届其他ノ事ヲ定ムル明治三十二年内務省令第三十二號ニ依リ警察官署ノ登録シタル事項ヲ戶籍吏ニ通知等ノ件

(明治三十二年七月内務省訓令第二十五號)

警察官署ハ明治三十二年内務省令第三十二條第七條ニ依リ登録シタル事項ヲ其ノ地戶籍吏ニ通知スヘシ但シ戶籍吏ノ通知ニ依リ登録シタル事項ハ此ノ限ニ在ラス

戶籍吏ハ前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ便宜其ノ書類ヲ編綴シテ戶籍役場ニ保存スヘシ

條約若ハ慣行ニ依リ居住ノ自由ヲ有セサル外國人ノ居住及營業等ニ關スル件

(明治三十二年七月勅令第三百五十二號)

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ條約若ハ慣行ニ依リ居住ノ自由ヲ有セサル外國人ノ居住及營業等ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 外國人ハ條約若ハ慣行ニ依リ居住ノ自由ヲ有セサル者ト雖從前ノ居留地及雜居地以外ニ於テ居住、移轉、營業等ノ他ノ行爲ヲ爲スコトヲ得但シ勞動者ハ特ニ行政官廳ノ許可ヲ受ケルニ非ザラハ從前ノ居留地及雜居地以外ニ於テ居住シ又ハ其ノ業務ヲ行フコトヲ得ス

勞働者ノ種類及本令施行ニ關スル細則ハ内務大臣之ヲ定ム
第三條 前條第一項但書ニ違背シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

第三條 本令ハ明治三十二年八月四日ヨリ施行ス
第四條 明治二十七年勅令第三百七十七號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

〔參照〕 明治二十七年(八月)勅令第三百七十七號ハ帝國内ニ居住スル清國臣民ニ關スル件ヲ

同 施行細則

(明治三十二年七月内務省令第四十二號)

明治三十二年勅令第三百五十二號條約若ハ慣行ニ依リ居住ノ自由ヲ有セサル外國人ノ居住及營業ニ關スル件施行細則左ノ通相定ム

第一條 明治三十二年勅令第三百五十二號第一條ノ行政官廳ハ廳府縣長官トス
第二條 明治三十二年勅令第三百五十二號第一條ノ勞働者ハ農業漁業鑛業土木建築製造運搬場

車仲仕業其ノ他雜役ニ關スル勞働ニ從事スル者ヲ云フ但シ家事ニ使用セラレ又ハ炊爨若ハ公仕ニ從事スル者ハ此ノ限ニ在ラス

第三條 勞働者ニ與ヘタル許可ハ廳府縣長官ニ於テ公益上必要アリト認ムルトキハ之ヲ取消スコトヲ得

第五章 衛生ニ關スル取締

未成年者喫煙禁止法

(明治三十三年三月法律第三十三號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル未成年者喫煙禁止法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
未成年者喫煙禁止法

第一條 未成年者ハ煙草ヲ喫スルコトヲ得ス

第二條 前條ニ違反シタル者アルトキハ行政ノ處分ヲ以テ喫煙ノ爲ニ所持スル煙草及器具ヲ沒收ス

第三條 未成年者ニ對シテ親權ヲ行フ者情ヲ知リテ其ノ喫煙ヲ制止セサルトキハ一圓以下ノ料ニ處ス

親權ヲ行フ者ニ代リテ未成年者ヲ監督スル者亦前項ニ依リテ處斷ス

第四條 未成年者ニ其ノ自用ニ供スルモノナルコトヲ知リテ煙草又ハ器具ヲ販賣シタルモノハ十圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

本法ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

墓地及埋葬取締規則

(明治十七年十月第二十五號布達)

墓地及埋葬取締規則左ノ通相定ム

墓地及埋葬取締規則

- 第一條 墓地及火葬場ハ管轄廳ヨリ許可シタル區域ニ限ルモノトス
- 第二條 墓地及火葬場ハ總テ所轄警察署ノ取締ヲ受クヘキモノトス
- 第三條 死體ハ死後二十四時間ヲ經過スルニ非サレハ埋葬又ハ火葬ヲナスコトヲ得ス但別段ノ規則アルモノハ此ノ限ニアラス
- 第四條 區長若クハ戶長ノ認許證ヲ得ルニ非サレハ埋葬又ハ火葬ヲナスコトヲ得ス但改葬ヲナサントスル者ハ所轄警察署ノ許可ヲ受クヘシ
- 第五條 墓地及火葬場ノ管理者ハ區長若クハ戶長ノ認許證ヲ得タル者ニ非サレハ埋葬又ハ火葬ヲナサシムヘカラス又警察署ノ許可證ヲ得タル者ニ非サレハ改葬ヲナサシムヘカラス
- 第六條 葬儀ハ寺堂若クハ家屋構内又ハ墓地若クハ火葬場ニ於テ行フヘシ
- 第七條 凡ソ碑表ヲ建設セント欲スル者ハ所轄警察署ノ許可ヲ受クヘシ其許可ヲ得シテ建設シタル者ハ之ヲ取除ケシムヘシ但墓地外ニ建設スルモノ亦之ニ準ス
- 第八條 此規則ヲ施行スル方法細則ハ警視總監府縣知事縣令ニ於テ便宜取設ケ内務卿ニ届出ツヘシ

右布達候事

墓地及埋葬取締規則施行方法細則標準

(明治十七年十一月内務省乙第四十號達)

本年第二十五號布達第八條ニ記載スル方法細目ハ左ノ條件ヲ標準トスヘシ此旨相達候事

- 第一條 墓地ハ従前許可セラレタル者ニ限ル但止ム事ヲ得サル事情アリテ之ヲ取廢メ又ハ新設スル場合ニ於テハ地方廳ニ願出シヘシ
- 第二條 墓地ヲ新設スルハ國道縣道鐵道大川ニ沿ハス人家ヲ隔ルコト凡ソ六十間以上ニシテ土地高燥飲用水ニ障ナキ地ヲ撰ムヘシ
- 第三條 墓地ハ種族宗旨ヲ別タス其町村ニ本籍ヲ有シ若クハ其町村ニ於テ死シタルモノハ何人ニテモ之ニ葬ルコトヲ得其従前別段ノ習慣アルモノハ此限ニアラス但死刑ニ處セラレタル者ハ墓地ノ一隅ヲ區劃シテ其内ニ埋葬スルモノトス
- 第四條 墓地ノ周圍(墓地ト墓地ニ非ル地トノ境界ヲ云フ)ニハ樹木ヲ植ユヘシ墓地ノ内ニハ一丈以上ノ樹木塀牆ヲ存スヘカラサルモノトス但従前ヨリ現存スル者ハ此限ニアラス
- 第五條 墓地ハ清潔ヲ旨トシ掃除及修繕ヲ怠ルヘカラス
- 第六條 火葬場ハ人家及人民輻輳ノ地ヲ隔ル凡ソ百二十間以上ニシテ風上ニ位セサル地ヲ選ビ火爐烟筒ヲ備ヘ臭煙ヲ防クノ裝置ヲナシ且周圍ニ塀牆ヲ設クヘシ但山林原野ニシテ人家ヲ隔タル場所ナルトキハ格別ナリトス
- 第七條 火葬ハ成ルヘク日没後之ヲ行フヘシ
- 第八條 壙穴ノ深サハ六尺以上タルヘシ若シ土地ニヨリ六尺ニ至リ難キモノ及火葬ノ遺骨ヲ埋藏スルモノハ格別ナリトス
- 第九條 墓地火葬場ニハ必ス管理者ヲ置キ其姓名ハ區役所又ハ戶長役場ニ届ケ置クヘシ
- 第十條 死者ノ姓名族籍官位勳位法號及生死ノ年月日建立者ノ姓名ヲ記スルニ止リ誌銘傳贊ノ碑文ヲ刻セサル墓標ハ所轄警察署ノ許可ヲ受クルノ限ニアラス

第十一條 死屍ヲ埋葬又ハ火葬セント欲スル者ハ主治醫ノ死亡届書ヲ添ヘテ區長又ハ戶長ノ認

許證ヲ請フヘシ醫師ノ治療ヲ受ケル猶豫ナクシテ死亡シタルモノヲ埋葬又ハ火葬セント欲ス

ルトキハ醫師ノ檢案ヲ差出シ區長又ハ戶長ノ認許證ヲ請フヘシ妊娠四ヶ月以上ノ死胎ニ係ル

トキハ醫師若クハ產婆ノ死産證ヲ差出シ區長又ハ戶長ノ認許證ヲ請フヘシ

變死ニ係ルトキハ立會醫師ノ檢案書ニ檢印ヲ請ヒテ差出スヘシ

囚徒ノ死屍ヲ引取埋葬又ハ火葬セント欲スルモノハ獄醫ノ死亡證書寫ニ司獄官ノ檢印ヲ請ヒ

テ差出スヘシ

第十二條 區戶長ハ前條ノ届書證書ヲ領收スルニアラサレハ埋火葬以認許證ヲ與フヘカラス

第十三條 管理者ハ葬主ヨリ領收シタル區戶長ノ認許證ヲ編纂シ每三ヶ月所轄警察署ノ檢閱ヲ

受ケテ之ヲ區役所又ハ戶長役場ヘ差出スヘシ

第十四條 管理者ハ墓地ノ繪圖及墓籍ヲ調製シ置クヘシ

第十五條 (明治十九年内務省甲第五號達ヲ以テ本條削除)

墓地及埋葬取締規則違反者處分 (明治十七年十月第八十二號達)

今般第二十五號ヲ以テ墓地及埋葬取締規則布達候ニ付此規則ニ違背スルモノハ違警罪ノ刑ヲ以

テ處分スヘシ此旨相達候事

古墳ト見ユル地ハ掘ニ發掘ヲ禁ス (明治七年五月第五十九號達)

上世以來御墳墓ノ所在未定ソ分即今取調中ニ付各管内荒蕪地開墾ノ節口碎流傳ノ場所ハ勿論其

他古墳ト相見ヘ候地ハ掘ニ發掘爲致間敷若差向墾闢ノ地ニ有之分ハ繪圖面相副ヘ教部省ヘ可伺

出此旨相達候事

第六章 皇室ニ關スル文字ノ濫用及御

紋章ニ就テノ取締

禁裡御用等ノ會符榜示杭標札及菊御紋ヲ畫キタル

提灯器物等禁止ノ件 (明治元年三月布告)

一禁裡御用或ハ禁裡御内杯ト會符榜示杭標札等ニ書記シ候儀ハ有之間敷事ニ候處往々見受候ニ

付以來屹度相改御用御料ト而已書記致シ候様被仰候事但標札ハ姓名相記シ又ハ官名役名等記

シ候儀不苦候

一提灯又ハ陶器其外賣物等ニ御紋ヲ畫キ候事共如何之儀ニ候以來右ノ類御紋ヲ私ニ附候事急度

可禁止旨被仰出候事但御用ニ付是迄被免之分モニ應伺出可申事

右之通被仰出候條未迄不洩候可申達事

皇室ニ關スル文字ヲ商品其他ニ濫用取締ノ件

(明治三十四年十二月内務省訓令第二十號)

近來往々各種ノ商品、商品容器、封皮、引札、廣告、看板等ノ物件ニ於テ帝室御用、東宮御用、

宮内省御用其ノ他皇室ニ關スル文字ヲ濫用スルモノナキニテ右ノ明治元年(三月)太政官布告ノ精神ニ違背シ穩ナラサル儀ニ付心得違ノ者ナキ標取重取締ラルヘシ
(參照)明治元年(三月)太政官布告ノ前出、禁裡御用等ノ會符榜示杭標札及菊御紋ヲ畫キタル提灯器物等禁止ノ件ナリ

菊御紋章ヲ畫キタル賣品ノ取締方

(明治十三年四月宮内省達乙第二號)
菊御紋章ヲ賣物等ニ畫キ候儀並紛敷品相用候儀モ不相成旨明治元年三月二十八日明治四年六月十七日太政官布告ノ趣モ有之候處近來往々賣品ニ御紋章ヲ畫キ候向有之哉ニ付取締方一層注意可致此段相違候事

由緒有之社寺ノ外菊御紋ヲ用ユルヲ禁ス

(明治二年八月布告)
社寺ニテ是迄菊御紋用ヒ來ル者不少候處今般御改正相成社ハ伊勢八幡上下加茂等寺ハ泉涌寺般舟院等ノ外ハ一切被差止候旨被仰出候事但格別由緒有之社寺ハ由緒書ヲ以テ可伺出候事

由緒ノ有無ニ拘ラス皇族ノ外菊御紋禁止

(明治四年六月布告)
菊御紋禁止ノ儀ハ兼テ御布告有之候處猶又向後由緒ノ有無ニ不關皇族ノ外總テ被禁止候尤モ御

紋ニ紛敷品相用候儀モ同標不相成候條相改可申事但從來諸社ノ社頭ニ於テ持來候分ハ地方官ニ於テ取調可申出候事

官幣社社殿ノ裝飾及社頭ノ幕提灯ニ限リ菊御紋ヲ

用フルコトヲ許ス (明治七年四月太政官達)

社寺ニテ菊御紋相用候儀禁止ノ旨明治二年己巳八月布告候處自今官幣社社殿ノ裝飾及社頭之幕提灯ニ限リ菊御紋相用不苦候此旨管內官幣社へ可相違事

國幣社社殿ノ裝飾及社頭ノ幕提灯ニ限リ菊御紋ヲ

用フルコトヲ許ス (明治十二年四月太政官達第二十號)

社寺ニテ菊御紋相用候儀ニ付明治二年八月布告ノ趣モ有之候自今國幣社社殿ノ裝飾及社頭ノ幕提灯ニ限リ菊御紋相用不苦候此旨管內國幣社へ可相違事

一般社寺從前ヨリ神殿佛堂ニ裝飾シタル分ニ限リ

菊御紋存置ヲ許ス (明治十三年五月太政官達第二十三號)

一般社寺ニ於テ菊御紋相用候儀不相成旨明治二年八月布告ノ趣モ候處右布告前神殿佛堂ニ裝飾シタル分ニ限リ其存シ置キ苦シカラヌ候此旨相違候事

第七章 滙入紙及模造通貨並證券ニ對スル取締

滙入紙製造取締規則 (明治二十年七月勅令第三十六號)

第一條 文字畫紋ヲ滙入レタル紙ヲ製造スル者ハ現品ノ見本ヲ添ヘ管轄廳(東京府ハ警視廳)ニ届出ツヘシ違フ者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第二條 紙幣兌換銀行券公債證書大藏省證券其他政府發行ノ證券ニ類似ノ文字畫紋又ハ凸ニ文字畫紋ヲ滙入レタル紙ヲ人民ニ於テ製造スルコトヲ禁ス違フ者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三條 此規則ハ本年九月一日ヨリ施行ス

滙入紙製造届出手續 (明治二十年八月大藏省令第十二號)

文字畫紋ヲ滙入レタル紙ヲ製造スル者ハ一種毎ニ現品二葉ヲ添ヘ左ノ雛形ニ據リ届書二通ヲ管轄廳(東京府ハ警視廳)ニ差出スヘシ管轄廳又ハ警視廳ハ一通ヲ留メ置キ一通ヲ當省ニ遞送スルモノトス(届書雛形ハ略ス)

通貨及證券模造取締法 (明治二十八年四月法律第二十八號)

朕帝國議會ハ協贊ヲ經タル通貨及證券模造取締法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

通貨及證券模造取締法

第一條 貨幣、政府發行紙幣、銀行紙幣、兌換銀行券、國債證券及地方債券ニ紛ハシキ外觀ヲ有スルモノヲ製造シ又ハ販賣スルコトヲ得ス

第二條 前條ニ違犯シタル者ハ一月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三條 第一條ニ掲ケタル物件ハ刑法ニ依リ沒收スル場合ノ外何人ノ所有ヲ問ハズ警察官ニ於テ之ヲ破毀スヘシ

第四條 第一條ニ掲ケタル物件ニハ明治九年布告第五十七號ヲ適用ス

第八章 雜則

帶刀禁止及違犯者處分法 (明治九年三月布告第三十八號)

自今大禮服用並ニ軍人及ヒ警察官吏等制服アル服著用ノ節ヲ除クノ外帶刀被禁候條此旨布告候事但違犯ノ者ハ其刀可取上事

官國幣諸神社神輿渡御ノ節供奉ノ者帶刀差許方 (明治九年七月教部省達甲第五號)

諸神社神輿渡御ノ節供奉ノ者共從前甲冑又ハ大紋素袍等著用ニテ帶刀致シ來候向ハ供奉中ニ限リ一社ノ古例ニ任セ帶刀不苦候尤モ其都度其筋ヘ届出候儀卜可心得此旨相違候事

府縣社以下古代ノ裝飾ニ模倣シ神輿供奉ノ舊例アル向供奉中帶刀差許方 (明治十一年三月内務省達乙第二十一號)

諸神社神輿渡御之節供奉ノ者帶刀ノ儀ニ付明治九年七月舊教部省甲第五號ヲ以テ神宮院官國幣社へ相違置候趣候處右ハ府縣社以下モ同様專ラ古代ノ裝飾ニ模倣シ神輿ニ供奉致シ來候舊例有之向ハ其人員ノミ供奉中ニ限リ帶刀不苦尤其都度其筋へ可爲届出儀ト可心得此旨相違候事但普通祭服着用之者帶刀不相成儀ハ勿論タルヘシ

形像取締規則

(明治三十三年五月内務省令第十八號)

形像取締規則左ノ通相定ム

- 第一條 官有地及公衆ノ往來出入スル地ニ於テ永久保存ノ目的ヲ以テ人物其ノ他ノ形像ヲ建設、移轉、改造又ハ除却セントスル者ハ東京市京都市大阪市ニ在テハ内務大臣其ノ他ノ地方ニ在リテ地方長官ノ許可ヲ受クヘシ但シ墓地境内ニ於テ慣例ニ依リ禮拜ノ用ニ供スルモノハ此ノ限ニ在ラス
- 前項ニ依リ内務大臣ノ許可ヲ申請スルニハ地方長官ヲ經由スヘシ
- 第二條 形像ノ建設、移轉、改造ノ許可申請書ニハ左ノ事項ヲ具シタル書面ヲ添附スヘシ
 - 一 形像ノ位置ヲ表示セル地圖
 - 二 形像ヲ設置スヘキ土地ノ種目

- 三 地主又ハ其ノ土地若ハ形像ニ關スル權利ヲ有スル者アルトキハ其ノ承諾ノ有無
 - 四 形像ノ物質、製作方法及其ノ設計及圖面
 - 五 礎石其ノ他ノ部分ニ文字ヲ表ハストキハ其ノ文字
 - 六 歴史上顯著ナラサル人物ノ形像ニ係ルトキハ其ノ人ノ事蹟又寓意アルトキハ其ノ寓意
 - 七 費用ヲ募集スルモノハ募集及支出ノ方法
 - 八 形像ノ管理及維持方法
- 形像ノ除却ノ許可申請書ニハ其ノ形像ノ來歴及除却ヲ要スル理由ヲ具シタル書面ヲ添附スヘシ
- 第三條 内務大臣ニ於テ公共ノ安寧ヲ維持シ又ハ風俗ノ取締ヲ爲スカ爲必要ト認ムルトキハ既ニ建設シタル形像ノ移轉、改造又ハ除却ヲ命スルコトアルヘシ
- 許可ヲ得スシテ建設、移轉、改造又ハ除却シタル形像ハ地方長官ニ於テ必要ナル措置ヲ命スルコトヲ得

刑死者ノ墓標祭祀等禁止及違背者處分法

(明治二十四年七月内務省令第十一號)

第一條 刑死者ノ墓標ニハ氏名、法號、族籍、年齢、生死ノ年月日ヲ記入スルニ止メ他ノ事項ヲ記スルコトヲ得ス

其墓標ハ遺骸埋葬地又ハ祖先塋域地ノ外之ヲ建設スルコトヲ得ス

異様ノ墓標ヲ建設シ及文字ニ彩色ヲ施スコトヲ得ス

第二條 所轄警察署ノ許可ヲ得スシテ刑死者ノ爲メ公然祭禮ヲ行フコトヲ得ス但親族ノ香花ヲ供スルノ類ハ此限ニ在ラス

第三條 刑死者ノ寫眞其他肖像ヲ公然陳列又ハ販賣スルコトヲ得ス
其他總テ刑死者ヲ賞揚哀悼スルコトヲ得ス

第四條 前條各項ニ違背シタル者ハ二圓以上二十五圓以下ノ罰金若クハ十日以上二十五日以下ノ輕禁錮ニ處ス

第五條 犯罪ニ關シ現ニ捜査、起訴、拘留、服刑中ノ者若クハ捜査、起訴、拘留、服刑中ニ死去シタル者及刑ヲ免レント欲シテ自殺シ或ハ犯罪現行ノ際殺害セラレタル者ニ付地方長官(東京府ハ警視總監)ハ安寧秩序ヲ保持スルニ必要ナリト認ムルトキハ特ニ命令ヲ下シ第一條第二條第三條ニ掲クル所爲ヲ禁スルコトヲ得其命令ニ違背シタル者ハ第四條ニ據リ處分ス

第二篇 治安警察

第一章 治安警察

治安警察法

(明治三十三年三月法律第三十六號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル治安警察法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
治安警察法

第一條 政事ニ關スル結社ノ主幹者(支社ニ在リテハ支社ノ主幹者)ハ結社組織ノ日ヨリ三日以

内ニ社名、社則、事務所及其ノ主幹者ノ氏名ヲ其ノ事務所所在地ノ管轄警察官署ニ届出ツヘシ其ノ届出ノ事項ニ變更アリタルトキ亦同シ

第二條 政事ニ關シ公衆ヲ會同スル集會ヲ開カムトスル者ハ發起人ヲ定ムヘシ

發起人ハ到達スベキ時間ヲ除キ開會三時間以前ニ集會ノ場所、年月日時ヲ會場所在地ノ管轄警察官署ニ届出ツヘシ

届出ノ時刻ヨリ三時間ヲ過ギテ開會セス若ハ三時間以上中断スルトキハ届出ハ其ノ效ヲ失フ

法令ヲ以テ組織シタル議會ノ議員選舉準備ノ爲ニ選舉權ヲ行フヘキ者及被選舉權ヲ有スル者ニ限リ會同スル所ノ集會ハ投票ノ日ヨリ前五十日間ハ本條第三項ノ届出ヲ要セス

第三條 公事ニ關スル結社又ハ集會ニシテ政事ニ關セサルモノト雖安寧秩序ヲ保持スル爲届出ヲ必要トスルモノアルトキハ命令ヲ以テ第一條又ハ第二條ノ規定ニ依ラシムルコトヲ得

第四條 屋外ニ於テ公衆ヲ會同シ若ハ多衆運動セムトスルトキハ發起人ヨリ十二時間以前ニ會同スヘキ場所、年月日時及其ノ通過スヘキ路線ヲ管轄警察官署ニ届出ツヘシ但シ祭禮、講社、學生、生徒ノ體育運動其ノ他慣例ノ許ス所ニ係ルモノハ此ノ限ニ在ラス

第五條 左ニ掲クル者ハ政事上ノ結社ニ加入スルコトヲ得ス

- 一 現役及召集中ノ豫備後備ノ陸海軍軍人
- 二 警察官
- 三 神官神職僧侶其ノ他諸宗教師
- 四 官立公立私立學校ノ教員學生生徒

五 女子

六 未成年者

七 公權剝奪及停止中ノ者

女子及未成年者ハ公衆ヲ會同スル政談聚會ニ會同シ若ハ其ノ發起人タルコトヲ得ス
公權剝奪及停止中ノ者ハ公衆ヲ會同スル政談聚會ノ發起人タルコトヲ得ス

第六條 日本臣民ニ非サル者ハ政事上ノ結社ニ加入シ又ハ公衆ヲ會同スル政談聚會ノ發起人タルコトヲ得ス

第七條

結社ハ法令ヲ以テ組織シタル議會ノ議員ニ對シテ其ノ發言表決ニ付議會外ニ於テ責任ヲ負ハシムルノ規定ヲ設クルコトヲ得ス

第八條 安寧秩序ヲ保持スル爲必要ナル場合ニ於テハ警察官ハ屋外ノ集會又ハ多衆ノ運動者ハ

群集ヲ制限シ禁止若ハ解散シ又ハ屋内ノ集會ヲ解散スルコトヲ得

結社ニシテ前ニ該當スルトキハ内務大臣ハ之ヲ禁止スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ違法處分ニ

由リ權利ヲ傷害セラレタリトスル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第九條 集會ニ於テハ重罪輕罪ノ豫審ニ關スル事項ヲ公判ニ付セサル以前ニ講談論議シ又ハ傍

聽ヲ禁シタル訴訟ニ關スル事項ヲ講談論議スルコトヲ得

集會ニ於テハ犯罪ヲ煽動若ハ曲庇シ又ハ犯罪人若ハ刑事被告人ヲ賞恤若ハ救護シ又ハ刑事被

告人ヲ陷害スルノ講談論議ヲ爲スコトヲ得

第十條 集會ニ於ケル講談論議ニシテ前條ノ規定ニ違背シ其ノ他安寧秩序ヲ紊シ若ハ風俗ヲ害

スルノ虞アリト認ムル場合ニ於テハ警察官ハ其ノ人ノ講談論議ヲ中止スルコトヲ得

第十一條 結社、集會又ハ多衆運動ニ關シ警察ノ尋問アリタルトキハ主幹者、會長、發起人ニ

於テ又ハ警察官ノ主タル社員若ハ主タル會同者ト認ムル者ニ於テ之ニ答フヘシ

警察官署ハ制服ヲ著シタル警察官ヲ派遣シ政事ニ關シ公衆ヲ會同スル集會ニ臨監セシムルコ

トヲ得其ノ集會ニシテ政事ニ關セサルモノト雖安寧秩序ヲ妨害スルノ虞アリト認ムルトキ亦

同シ此ノ場合ニハ發起人ニ於テ又ハ警察官ノ主タル會同者ト認ムル者ニ於テ警察官ノ求ムル

席ヲ供スヘシ

第十二條 集會又ハ多衆運動ノ場合ニ於テ放ラニ喧擾シ又ハ狂暴ニ渉ル者アルトキハ警察官ハ

之ヲ制止シ其ノ命ニ從ハサルトキハ現場ヨリ退去セシムルコトヲ得

第十三條 集會及多衆ノ運動ニ於テハ武器ヲ携帯スルコトヲ得ス但シ制規ニ依リ武器ヲ携帯ス

ル者ハ此ノ限ニ在ラス

第十四條 秘密ノ結社ハ之ヲ禁ス

第十五條 法令ヲ以テ組織シタル議會ノ議員議事準備ノ爲ニ相團結スルモノニ對シテハ第一條

及第五條ヲ適用セス

第十六條 街頭其ノ他公衆ノ自由ニ交通スルコトヲ得ル場所ニ於テ文書、圖畫、詩歌ノ揭示、

頒布、朗讀若ハ放吟又ハ言語形容其ノ他ノ作爲ヲ爲シ其ノ狀況安寧秩序ヲ紊シ若ハ風俗ヲ害

スルノ虞アリト認ムルトキハ警察官ニ於テ禁止ヲ命スルコトヲ得

第十七條 左ノ各號ノ目的ヲ以テ他人ニ對シテ暴行、脅迫シ若ハ公然誹毀シ又ハ第二號ノ目的

ヲ以テ他人ヲ誘惑若ハ煽動スルコトヲ得

一 勞務ノ條件又ハ報酬ニ關シ協同ノ行動ヲ爲スヘキ團結ニ加入セシメ又ハ其ノ加入ヲ妨ク

ルコト

二 同盟解雇若ハ同盟罷行ヲ遂行スルカ爲使用者ヲシテ勞務者ヲ解雇セシメ若ハ勞務ニ従事スルノ申込ヲ拒絶セシメ又ハ勞務者ヲシテ勞務ヲ停廢セシメ若ハ勞務者トシテ雇傭スルノ申込ヲ拒絶セシムルコト

三 勞務ノ條件又ハ報酬ニ關シ相手方ヲ承諾ヲ強ユルコト
耕作ノ目的ニ出ツル土地貸借ノ條件ニ關シ承諾ヲ強ユルカ爲相手方ニ對シ暴行、脅迫シ若ハ公然誹毀スルコトヲ得ス

第十八條 行政官廳ハ安寧秩序ヲ保持スル爲必要ト認ムルトキハ武器、爆發物又ハ武器ヲ仕込ミタル物件ヲ携帶ヲ禁スルコトヲ得

第十九條 第一條ニ違背シタル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處シ第一條ノ届出ヲ爲スモ實ヲ以テセサル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十條 第二條第二項又ハ第二項ニ違背シタル者ハ二十圓以下ノ罰金ニ處シ第二項ノ届出ヲ爲スモ實ヲ以テセサル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十一條 第四條ニ違背シタル者ハ二十圓以下ノ罰金ニ處シ第四條ノ届出ヲ爲スモ實ヲ以テセサル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十二條 第五條又ハ第六條ニ違背シタル者ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス第五條又ハ第六條ニ違背シ入社セシメタル者亦同シ

第二十三條 第八條第一項ノ制限若ハ禁止ノ命ニ違背シ又ハ散解ヲ命セラレタル後仍退散セサル者ハ二月以下ノ輕禁錮又ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第八條第二項ノ禁止ノ命ニ違背シタル者ハ六月以下ノ輕禁錮又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十四條 第九條ニ違背シ又ハ第十條ノ中止ノ命ニ違背シタル者ハ三月以下ノ輕禁錮又ハ十圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十五條 第十一條第一項ノ尋問ニ答ヘス若ハ答フルモ實ヲ以テセス又ハ第二項ノ場合ニ於テ警察官ノ臨監ヲ拒ミ若ハ其ノ求ムル席ヲ供セサル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十六條 第十二條ニ依リ退去ヲ命セラレタル後仍退去セサル者ハ一月以下ノ輕禁錮又ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十七條 第十三條ニ違背シタル者ハ三月以下ノ輕禁錮又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十八條 祕密ノ結社ヲ組織シ又ハ祕密ノ結社ニ加入シタル者ハ六月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第二十九條 第十六條ノ禁止ノ命ニ違背シタル者ハ一月以下ノ重禁錮又ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十條 第十七條ニ違背シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス使用者ノ同盟解雇又ハ勞務者ノ同盟罷業ニ加盟セサル者ニ對シテ暴行、脅迫シ若ハ公然誹毀スル者亦同シ

第三十一條 第十八條ノ禁ヲ犯シタル者ハ六月以下ノ重禁錮ニ處ス

第三十二條 本法ニ關スル公訴ノ時効ハ六箇月トス

第三十三條 集會及政社法ハ之ヲ廢止ス

第二章 出版ニ對スル取締

出版法

(明治二十六年四月法律第十五號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル出版法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
出版法

第一條 凡ソ機械會密其ノ他何等ノ方法ヲ以テスルチ問ハス文書圖畫ヲ印刷シテ之ヲ發賣シ又ハ頒布スルチ出版ト云ヒ其ノ文書ヲ著述シ又ハ編纂シ若ハ圖畫ヲ作爲スル者ヲ著作者ト云ヒ發賣頒布ヲ擔當スル者ヲ發行者ト云ヒ印刷ヲ擔當スル者ヲ印刷者ト云フ

第二條 新聞紙又ハ定期ニ發行スル雜誌ヲ除クノ外文書圖畫ノ出版ハ總テ此ノ法律ニ依ルヘシ但專ラ學術、技藝、統計、廣告ノ類ヲ記載スル雜誌ハ此ノ法律ニ依リ出版スルコトヲ得

第三條 文書圖畫ヲ出版スルトキハ發行ノ日ヨリ到達スヘキ日數ヲ除キ三日前ニ製本ニ部ヲ添

ヘ内務省ニ届出ツヘシ

第四條 官廳ニ於テ文書圖畫ヲ出版スルトキハ官廳ヨリ發行前ニ製本ニ部ヲ内務省ニ送付スヘシ

第五條 出版届ハ著作者又ハ其ノ相續者及發行者連印ニテ之ヲ差出スヘシ但非賣品ハ著作者又ハ發行者ノミニテ届出ツルコトヲ得

版權ノ保護ナキ文書圖畫ヲ出版スルトキ若ハ著作者又ハ其ノ相續者ヲ知ルヘカラサルトキハ其ノ由ヲ記シ發行者ヨリ差出スヘシ

學校、會社、協會等ニ於テ著作ノ名義ヲ以テ出版スル文書圖畫ハ其ノ學校、會社、協會等ヲ

代表スル者發行者ト連印シテ之ヲ届出ツヘシ

第六條 文書圖畫ノ發行者ハ文書圖畫ノ販賣ヲ以テ營業トスル者ニ限ル但著作者又ハ其ノ相續者ハ發行者ヲ兼メルコトヲ得

第七條 文書圖畫ノ發行者ハ其ノ氏名、住所及發行ノ年月日ヲ其ノ文書圖畫ノ末尾ニ記載スヘシ

第八條 文書圖畫ノ印刷者ハ其ノ氏名、住所及印刷ノ年月日ヲ其ノ文書圖畫ノ末尾ニ記載シ住所下印刷所ト同シカラサルトキハ印刷所ヲモ記載スヘシ

印刷所若數人ノ共有ニ係ルトキハ營業上其ノ印刷所ヲ代表スル者ヲ以テ印刷者トス
前二項ノ印刷所ニシテ營業上慣行ノ名稱アルモノハ其ノ名稱ヲモ記載スヘシ

第九條 書簡、通信、報告、社則、熟則、札引、諸藝ノ番附諸種ノ用紙證書ノ類及寫眞ハ第三條第六條第七條第八條ニ據ルチ要セス但第十六條第十七條第十八條第十九條第二十一條第二十六條第二十七條ニ觸ルル者ハ此ノ法律ニ依テ處分ス

第十條 文書圖畫ノ冊號ヲ逐ヒ順次ニ出版スル者ハ其ノ都度第三條ノ手續ヲ爲スヘシ但雜誌類ニ在テハ内務大臣ノ認可ヲ經テ其ノ手續ヲ省略スルコトヲ得

此ノ法律ニ依リ出版スル雜誌ニシテ十二箇月間一回モ發行セサルトキハ廢刊シタルモノト看做スヘシ

第十一條 一タヒ出版届ヲ爲シタル文書圖畫ノ再版ハ出版届ヲ要セスト雖若改正増減シ又ハ註解、附録、繪畫等ヲ加ヘタルトキハ仍第三條ニ依ルヘシ

第十二條 演說者ハ講義ノ筆記ハ演說者若ハ講義者ヲ以テ著作者トス但筆記者ニ於テ演說者若

ハ講義者ノ承諾ヲ得テ自ラ之ヲ出版スルトキハ筆記者ヲ著作者ト看做ス此ノ場合ニ於テ記載ノ事項第十六條第十七條第十八條第十九條第二十一條第二十六條第二十七條ニ觸ルルトキハ演說者若ハ講義者筆記者ト同シク其ノ罪ヲ論ス

公開ノ席ニ於テ爲シタル演說ヲ新聞紙若ハ雜誌ノ通信者ニ於テ筆記シ其ノ新聞紙若ハ雜誌ニ記載シタルモノ及ヒ總テ演說者講義者ノ承諾ヲ經スシテ其ノ筆記ヲ出版シタルモノニ關シテハ演說者若ハ講義者ハ著作ノ責ニ任ゼス

公開ノ席ニ於テ爲シタル演說ノ外ハ講義者又ハ演說者ノ承諾ヲ經ルニ非サレハ他人ニ於テ其ノ筆記ヲ出版スルコトヲ得ス但本項ニ違フ者ハ版權法ニ據リ其ノ責ニ任セシム

第十三條 二種以上ノ著作者ハ演說講義ノ筆記ヲ編纂シテ一部ノ書ト爲ストキハ編纂者ヲ著作者ト看做スヘシ

前條第一項ノ末段及第二項第三項ハ本條ニ適用スヘシ

第十四條 翻譯ハ翻譯者ヲ以テ著作者ト看做スハシテ其ノ著作ノ責任ハ翻譯者ニ在リ

第十五條 學校、會社、協會等ニ於テ著作ノ名義ヲ以テ出版スル文書圖畫ハ其ノ出版届ニ署名シタル代表者ヲ以テ著作者ト看做スヘシ

第十六條 犯罪ヲ曲庇シ又ハ刑事ニ觸レタル者若ハ刑事裁判中ノ者ヲ救護シ若ハ賞恤スルノ文書ヲ出版スルコトヲ得ス

第十七條 重罪輕罪ノ豫審ニ關スル事項ハ公判ニ付セサル以前ニ於テ之ヲ出版スルコトヲ得ス

傍聽ヲ禁シタル訴訟ノ事項ハ之ヲ出版スルコトヲ得ス

第十八條 外交軍事其ノ他官廳ノ機密ニ關シ公ニセサル官ノ文書及官廳ノ議事ハ當該官廳ノ許可ヲ得ルニ非サレハ之ヲ出版スルコトヲ得ス

法律ニ依リ傍聽ヲ禁シタル公會ノ議事ハ之ヲ出版スルコトヲ得ス

第十九條 安寧秩序ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ壞亂スルモノト認ムル文書圖畫ヲ出版シタルトキハ内務大臣ニ於テ其ノ發賣頒布ヲ禁シ其ノ刻版及印本ヲ差押フルコトヲ得

第二十條 外國ニ於テ印刷シタル文書圖畫ニシテ安寧秩序ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ壞亂スルモノト認ムルトキハ内務大臣ハ其ノ文書圖畫ノ内國ニ於ケル發賣頒布ヲ禁シ其ノ印本ヲ差押フルコトヲ得

第二十一條 軍事ノ機密ニ關スル文書圖畫ハ當該官廳ノ許可ヲ得ルニ非サレハ之ヲ出版スルコトヲ得ス

第二十二條 第三條ノ届出ヲ爲サスシテ文書圖畫ヲ出版シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十三條 第六條ヲ犯ス者ハ十一日以上三月以下ノ輕禁錮又ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十四條 發行者自己ノ氏名、住所又ハ發行ノ年月日又ハ印刷者ノ氏名、住所又ハ印刷ノ年月日ヲ其ノ發行スル文書圖畫ニ記載セス其ノ之ヲ記載スルモ實ヲ以テセサル者ハ二圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十五條 印刷者自己ノ氏名、住所又ハ印刷ノ年月日ヲ其ノ印刷スル所ノ文書圖畫ニ記載セス若クハ之ヲ記載スルモ實ヲ以テセサルモノハ罰前項ニ同シ

住所印刷所下同シカラサルトキ及印刷所ニシテ營業上慣行ノ名稱アルトキ印刷所及名稱ヲ記載セサル者亦前項ニ同シ

第二十六條 政體ヲ變壞シ國憲ヲ紊亂セムトスル文書圖畫ヲ出版シタルトキハ著作者、發行者、印刷者ヲ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二十七條 風俗ヲ壞亂スル文書圖畫ヲ出版シタルトキハ著作者、發行者ヲ十一日以上六月以下ノ輕禁錮又ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十八條 第十六條第十七條第十八條第二十一條ニ觸ルル文書圖畫ヲ出版シタルトキハ著作者、發行者ヲ十一日以上一年以下ノ輕禁錮又ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十九條 第十九條第二十條ニ依リ發賣頒布ヲ禁セラレタル文書圖畫ヲ發賣頒布シタル者罰前項ニ同シ其ノ未タ發賣頒布セサル文書圖畫ハ之ヲ沒收ス

第二十九條 第二十六條第二十七條第二十八條ノ場合ニ於テ刻版及印本ハ檢事ニ於テ假ニ之ヲ差押フルコトヲ得

第三十條 前條ノ差押ヲ爲ストキハ製本ノ體裁ニヨリ其ノ差押フヘキ部分ト他ノ部分ト分割シ得ルニ於テハ之ヲ分割スルコトアルヘシ

第三十一條 文書圖畫ヲ出版シ因テ誹毀ノ訴ヲ受ケタル場合ニ於テ其私行ニ涉ルモノヲ除クノ外裁判所ニ於テ專ラ公益ノ爲ニスルモノト認ムルトキハ被告人ニ事實ノ證明ヲ許スコトヲ得若シテ證明シタルトキハ其ノ罪ヲ免ス損害賠償ノ訴ヲ受ケタルトキモ亦同シ

第三十二條 此ノ法律ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ自首減刑、再犯加重、數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第三十三條 此ノ法律ニ關ル公訴ノ時効ハ一年ヲ經過スルニ因テ成就ス

第三十四條 此ノ法律ニ依リ出版スル雜誌ニシテ其ノ記載ノ事項前二條ノ範圍外ニ涉ルトキハ内務大臣ハ此ノ法律ニ依リテ出版スルコトヲ止ムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ一箇年ヲ經ルニ非サレバ更ニ此法律ニ依リ出版スルコトヲ得ス

第三十五條 文書圖畫ヲ印刷スルトキハ直ニ發賣頒布セスト雖其ノ目的發賣頒布ニ在ルモノハ總テ此法律ニ依ル

官廳出版物ニ關スル注意 (明治二十五年内務省訓令第六號)

官廳出版物ノ中令達告示ヲ爲スモノヲ除クノ外自今總テ出版條例第四條ニ據ルヘシ但其製本中ニ印刷出版ノ月日(出版ノ日附ハ當省ヘ製本送付ノ日印刷ノ日附ハ同日若クハ其以前ノ日)官廳名印刷者ノ氏名住所ヲ記載シ仍ホ書肆ニ付シテ發行セシムルトキハ該書肆ヲ發行者トシテ其氏名住所ヲモ記載ス

第二章 新聞紙ニ對スル取締

新聞紙條例 (明治二十年十二月勅令第七十五號)

朕新聞紙條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

新聞紙條例

第一條 新聞紙ヲ發行セントスル者ハ發行ノ日ヨリ二週日以前ニ發行地ノ管轄廳(東京府ハ管轄廳)ヲ經由シテ内務省ニ届出ツヘシ

第二條 新聞紙發行ノ届書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 題號ノ種類

二 記載ノ種類

三 發行ノ時期

四 發行所及印刷所

五 發行人、編輯人及印刷人ノ氏名年齢

編輯人ハ二人以上アルトキハ其主トシテ編輯事務ヲ擔當スル者タルヘシ但紙面ニ部門ヲ分
テ其各部門ニ主任編輯人ヲ設クルコトヲ得

第三條 届出ヲ爲シタル後題號、記載ノ種類又ハ發行人ヲ變更セントスルトキハ二週日以前ニ

第一條ノ手續ニ從ヒ届出ツヘシ

發行ノ時期、發行所、印刷所、編輯人、印刷人ニ變更アリタルトキハ一週日以内ニ第一條ノ

手續ニ從ヒ届出ツヘシ

第四條 發行人死去シ又ハ法律上其資格ヲ失ヒタルトキハ二週日以内ニ發行人ヲ定メ第一條ノ

手續ニ從ヒ届出ツヘシ其届出ヲナスマテハ假發行人ノ名義ヲ以テ發行スルコトヲ得

第五條 發行人ノ届出ヲシタル日又ハ發行休止ノ日ヨリ五十日ヲ過キテ發行セサルトキハ其届

出テノ效ヲ失フモノトス

第六條 内國人ニシテ滿二十歳以上ノ男子ニ非サレハ發行人、編輯人、印刷人トナルコトヲ得

入籍人トナルコトヲ得

年齢滿三十年以上ニシテ帝國內ニ居住スルモノニアラサレハ發行人、編輯人、印刷人トナル

コトヲ得ス(明治三十二年二月法律第五號ヲ以テ本項ヲ改ム)

第七條 編輯人、印刷人ハ五ニ相兼マルコトヲ得ス

第八條 發行人ハ保證トシテ金額ヲ届書ト共ニ管轄廳(東京府ハ警視廳)ニ納ムヘシ

一 東京ニ於テハ千圓

一 京都大阪横濱兵庫神戸長崎ニ於テハ七百圓

一 其他ノ地方ニ於テハ三百五十圓

一 一月三回以上發行スルモノハ各前記ノ半額

保證金ハ時價ニ準シタル公債證書又ハ國立銀行ノ預手形ヲ以テ之ヲ納ムルコトヲ得

學術、技藝、統計、官令又ハ物價報告ニ關スル事項ノヨリ記載スルモノハ本條ノ限ニアラス

第九條 保證金ハ新聞紙ノ發行ヲ廢止シ又ハ其發行ヲ禁止セラレタルトキハ之ヲ還付ス

第十條 第一條第三條第四條ノ届出ヲ爲サス又ハ保證金ヲ納ムヘキ新聞紙ニシテ保證金ヲ納メ

スシテ發行スルモノハ正當ノ届出ヲナシ又ハ保證金ヲ納ムルマテ警視總監又ハ地方長官ニ於

テ其發行ヲ差留ムヘシ

第十一條 新聞紙ハ每號ニ發行人、編輯人、印刷人ノ氏名發行所ヲ記載スヘシ

發行人、印刷人ノ外何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ハラズ新聞紙又ハ記載ノ條項ニ署名スル者ハ

總テ編輯人ト共ニ其責ニ當ラシム

第十二條 新聞紙ハ其發行毎ニ先ツ内務省ニ二部管轄廳(東京府ハ警視廳)及管轄「始審裁判所」

檢事局ニ各一部ヲ納ムヘシ

第十三條 新聞紙ニ記載シタル事項ノ錯誤ニ付キ其事項ニ關スル當人又ハ關係アル者ヨリ正誤

又ハ正誤書辯駁書ノ掲載ヲ求メタルトキハ其求ヲ受ケタル後チ其次回又ハ第三回ノ發行ニ於テ正誤ヲナシ又ハ正誤書辯駁書ノ全文ヲ掲載スヘシ若シ正誤書辯駁書ノ字數原文ノ二倍ヲ經過スルトキハ超過ノ字數ニ付其新聞社ノ定メタル普通廣告料ト同一ノ代價ヲ要求スルコトヲ得

正誤辯駁ノ原文ト同號ノ活字ヲ用ヒ同一欄内ノ首部ニ掲載スヘシ
正誤辯駁ノ文章若クハ趣旨法律ニ觸ルルトキ又ハ之ヲ求ムル者其氏名住所ヲ明記セサルトキハ掲載スルヲ要セス

第十四條

官報又ハ他ノ新聞紙ヨリ抄録セシ事項ニシテ其官報又ハ新聞紙ニ於テ正誤書辯駁書ヲ掲載シタルトキハ當人又ハ關係人アル者ノ求ナシト雖モ其新聞紙ヲ得タル其後次回又ハ第三回ノ發行ニ於テ正誤スヘキコト前條ノ例ニ依ル但廣告料ヲ要求スルコトヲ得ス

第十五條

新聞紙ニ記載シタル事項ニ付キ裁判ヲ受ケタルトキハ其新聞紙ノ次回發行ニ於テ宣言ノ全文ヲ掲載スヘシ

第十六條

重罪輕罪ノ豫審ニ關スル事項ハ公判ニ附セサル以前ニ於テ之ヲ記載スルコトヲ得ス
傍聽ヲ禁シタル訴訟ニ關スル事項ハ之ヲ掲載スルコトヲ得ス

第十七條

刑事ニ觸レタル犯罪ヲ曲庇スルノ論說ヲ記載スルコトヲ得ス
刑事ノ被告人又ハ刑律ニ觸レタル犯罪人ヲ救護シ又ハ賞恤スル爲ニスル文書ヲ掲載スルコトヲ得ス

第十八條

公ニセサル官ノ文書及上書建白書願書ハ當該官廳ノ許可ヲ得ルニ非レハ詳略ニ拘ラズ之ヲ記載スルコトヲ得ス

官廳ノ議事及法律ニ依リ傍聽ヲ禁シタル公會ノ議事ハ詳略ニ拘ラス之ヲ記載スルコトヲ得ス

第十九條

(明治三十年三月法律第九號ヲ以テ削除ス)

第二十條

(同上)

第二十一條

外國ニ於テ發行シタル新聞紙ニシテ治安ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ擾亂シタルモノト認ムルトキハ内務大臣ハ其新聞紙ノ内國ニ於ケル發賣頒布ヲ禁シ其新聞紙ヲ差押フルコトヲ得

第二十二條

外務大臣陸軍大臣海軍大臣ハ特ニ命令ヲ發シテ外交又ハ軍事ニ關スル事項ノ記載ヲ禁スルコトヲ得(同上法令ニ依リ本條改正)

第二十三條

第二十二條第三十二條第三十三條ニ關シ告發ヲ爲ストキハ内務大臣又ハ拓殖務大臣ハ其新聞紙ノ發賣頒布ヲ停止シ假ニ之ヲ差押ヘ告發ニ係ル論說又ハ事項ト同一主旨ノ論說又ハ事項ノ記載ヲ停止スルコトヲ得(同上)

第二十四條

新聞紙ノ發行ヲ禁止スルコトヲ得
新聞紙ニ記載シタル事項ニ付キ訴訟ヲ起シタルトキハ原告ニ於テ其新聞紙ニ署名シタル編輯人ハ實際主トシテ編輯事務ヲ擔當スル者ニアラスシテ他ニ主任編輯人アルコトヲ證明シタル場合ニ於テハ裁判官ハ其署名シタル編輯人及實際ノ主人編輯人ヲシテ共ニ其責ニ當ラシムヘシ(同上法令ニ依リ『裁判官』ヲ『裁判所』ト改ム)

第二十五條

新聞紙ニ記載シタル事項ニ付キ誹毀ノ訴アル場合ニ於テ其私行ニ涉ルモノヲ除ク

ノ外裁判所ニ於テ其人ヲ害スルノ惡意ニ出テス專ラ公益ノ爲ニスルモノト認ムルトキハ被告
人ニ事實ヲ證明スルコトヲ許スニトテ得若シ證明ノ確立ヲ得タルトキハ誹毀ノ罪ヲ免ス其損
害賠償ノ訴ヲ受ケタルトキモ亦同シ

第二十六條 裁判確定ノ日ヨリ一週日以内ニ裁判費用及罰金ヲ完納セス又ハ損害ヲ賠償セサル
トキハ保證金ヲ以テ之ニ充ツヘシ仍ホ足ラサルトキハ刑法徵收處分ニ依ル
保證金ヲ以テ裁判費用賠償及ヒ罰金ニ充テタルトキハ發行人ハ管轄廳(東京府ハ警視廳)ノ通
知ヲ得タル日ヨリ一週日以内ニ其額額ヲ完納スヘシ若シ完納セサルトキハ其之ヲ完納スルニ
至ルマテ警視總監又ハ地方長官ニ於テ其發行ヲ差止ムヘシ

第二十七條 第一條第三條第四條ノ届出ヲ爲サス又ハ第六條第七條第十一條第一項第十二條ヲ
犯シ又ハ保證金ヲ納ムヘキ新聞紙ニシテ保證金ヲ納メスシテ發行シタルトキハ發行人ヲ五圓
以上百圓以下ノ罰金ニ處ス但詐稱ノ罪ヲ犯スモノハ罰發行人ニ同シ

第一條第三條第四條ノ届出ヲ爲スモ實ヲ以テセサルトキハ發行人ヲ一月以上六月以下ノ輕禁
錮又ハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第八條ノ末項ニ屬スル新聞紙ニシテ保證金ヲ納ムヘキ新聞紙ノ事項ヲ記載シタルトキハ編輯
人罰前項ニ同シ

第二十八條 第十三條第十四條第十五條ニ違フトキハ編輯人ヲ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處
ス

第二十九條 第十六條第十七條第十八條ニ違フトキハ編輯人ヲ一月以上六月以下ノ輕禁錮又ハ
二十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十條 第二十一條ノ禁令ヲ犯シ發賣頒布ヲ爲ス者ハ罰前條ニ同シ(同上法令ニテ本條改
正)

第三十一條 第三十二條ノ禁令ヲ犯シタル發行人編輯人ハ一月以上二年以下ノ輕禁錮又ハ二圓
以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十二條 第二十三條ノ停止ヲ犯ストキハ發行人編輯人ヲ二十圓以上五百圓以下ノ罰金
ニ處ス(同上法令ニ依リ本條追加)

第三十三條 皇室ノ尊嚴ヲ冒瀆シ政體ヲ變壞シ又ハ朝憲ヲ紊亂セントスルノ論說ヲ記載シタル
トキハ發行人編輯人印刷人ヲ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ五十圓以上三百圓以下ノ罰金
ヲ附加ス(同上法令ニ依リ全條改正)

本條ヲ犯シタル者ハ其ノ犯罪ノ用ニ供シタル器械ヲ沒收ス

第三十三條 社會ノ秩序又ハ風俗ヲ壞亂スル事項ヲ記載シタルトキハ發行人編輯人ヲ一月以上
六月以下ノ輕禁錮又ハ二十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十四條 第十三條ノ場合ニ於テ私事ニ係ルモノハ被害者ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

第三十五條 此條例ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ自首減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用井ス

第三十六條 此條例ニ關スル公訴ノ期滿免除ハ六箇月トス

第三十七條 時時ニ發行スル雜誌ノ類ハ出版條例ニ依ルモノヲ除クノ外皆此條例ニ依ル

新聞紙若ハ刻版及印本ノ差押ニ關スル件

(明治二十九年三月內務省訓令第二號)

新聞紙條例第二十條及出版法第十九條ニ據リ新聞紙若クハ刻版及印本ヲ差押ヘタルトキハ當該官廳ニ於テ嚴密ニ封印ヲ施シ發行人若ハ發行者及刻版所有者ヲシテ看守セシムルコトヲ得若シ發行人若クハ發行者及刻版所有者ノ承諾ヲ得タルトキハ警察官立合ノ上其新聞紙若クハ刻版及印本ヲ破棄セシムルモ妨ナシ但シ明治二十一年(二月)訓令第四十五號第二項中第五及第四項ハ自今消滅シタルモノト心得ヘシ

新聞紙條例中傍聽ヲ禁シタル訴訟ノ辯論記載方ノ件

(明治十九年六月司法省訓令第十號)

新聞紙條例第三十三條(現行條例第十六條)ニ傍聽ヲ禁シタル訴訟ノ辯論ハ之ヲ記載スルコトヲ得ス之ノ中ヨリ傍聽ヲ禁シタル場合ト雖モ總テ其訴訟ノ當日ノ辯論ヲ記載スルコトヲ得サル儀ニシテ裁判官傍聽ヲ禁スルノ命令ヲ爲シタル時ヨリ以下ノ辯論ノミヲ指スモノニ非ス往々疑義ヲ生シ候向モ有之候ニ付此旨心得ヘシ

各廳事務ニ係ル公文ヲ新聞紙ニ掲載方禁止ノ件

(明治八年九月太政官達第五百十八號)

自今各廳事務ニ係ル上申往復等ノ公文ヲ新聞紙ニ掲載候儀不相成候條此旨相達候事

第四章 豫戒令

豫戒令

(明治二十五年一月勅令第十一號)

第一條 警視總監北海道廳長官府縣知事ハ公共ノ安寧秩序ヲ保持スル爲メ左ノ事項ニ該當スル者ト認ムルトキハ豫戒令ヲ爲スコトヲ得

- 一 一定ノ生業ヲ有セス平常粗暴ノ言論行爲ヲ事トスル者
- 二 總テ他人ノ開設スル集會ヲ妨害シ又ハ妨害セントシタル者
- 三 公私ヲ問ハス他人ノ業務行爲ニ干渉シテ其自由ヲ妨害シ又ハ妨害セントシタル者
- 四 第二號又ハ第三號ニ掲クル妨害ヲ爲スノ目的ヲ以テ第一號ヨリ第三號マテニ記載シタル者ヲ使用シタル者

第二條 豫戒命令ハ左ノ如シ

- 一 一定ノ期限内ニ適法ノ生業ヲ求メテ之ニ従事スヘキコトヲ命ス
- 二 總テ他人ノ開設スル集會ニ立入り妨害ヲ爲スヘカラサルコトヲ命ス
- 三 如何ナル口實ニ拘ハラズ財物ヲ強請シ不當ノ要求ヲ爲シ強テ面會ヲ求メ脅迫ニ涉ル書面ヲ用ヒ勸告書ヲ送り又ハ如何ナル方法タルヲ問ハス暴威ヲ示シテ他人ノ進退意見ヲ變更セシメントシ其他他人ノ業務行爲ヲ妨害シ又ハ妨害セントスルノ行爲ヲ爲スヘカラサルコトヲ命ス
- 四 人ヲ使用シテ總テ他人ノ開設シタル集會ヲ妨害シ又ハ妨害セントシ又ハ他人ノ業務行爲ニ干渉シテ其自由ヲ妨害シ又ハ妨害セントスルノ行爲ヲ爲サシメサルコト及ヒ豫戒命令ヲ受ケタル者ヲ扶助シ又ハ使用スヘカラサルコトヲ命ス但シ親族ノ故ヲ以テ之ヲ扶助スル場

合ハ此ノ限ニ在ラス

前條第一號ニ該當スル者ニ對シテハ第一號第二號第三號ノ事項ヲ併セテ命令シ前條第二號第三號ニ該當スルモノニ對シテハ第二號第三號ノ事項ヲ併セテ命令シ前條第四號ニ該當スル者ニ對シテハ第四號ノ事項ヲ命令ス

第三條 豫戒命令ヲ受ケタル者其現住居ヲ轉スルトキハ轉居ノ前二十四時間内ニ其旨ヲ舊住居ノ所轄警察署ニ届出テ轉居ノ後二十四時間内ニ其旨ヲ新住居ノ所轄警察署ニ届出ツヘシ

第四條 豫戒命令ヲ受ケタルヨリ三年以内ニ其命令又ハ第三條ノ規程ニ違反シタル者ハ左ノ區別ニ從ヒ之ヲ處罰ス
第二條第一條ノ違反者ハ三日以上十日以下ノ拘留ニ處シ又ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第二條第二號ノ違反者ハ十一日以上二月以下ノ重禁錮ニ處ス
第二條第三號ノ違反者ハ一月以上四月以下ノ重禁錮ニ處ス其所犯官吏又ハ公吏ノ職務ニ對スルトキハ一等ヲ加フ

第二條第四號ノ違反者ハ二月以上六月以下ノ重禁錮又ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス
第三條ノ違反者ハ二十圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第五條 豫戒命令ヲ爲スニハ命令書ヲ作り其命令ヲ受ケル者ノ氏名年齢身分職業本籍住所第一條第何號ニ該當スル所タルコト第二條ニ記載シタル命令第三條ノ全文第四條ニ記載シタル違反者ノ罰例並ニ命令ヲ爲シタル年月日警視總監北海道廳長官府縣知事官氏名ヲ記載シテ本人

ニ下付シ同時ニ之ヲ其地方ニ於テ公布ス

第六條 豫戒命令ヲ受ケタル者一年以上ヲ經過シ改悛ノ情狀著シキトキハ警視總監北海道廳長官府縣知事ニ於テ其命令ヲ解除スルコトヲ得此場合ニ於テハ同時ニ之ヲ其地方ニ於テ公布ス

第七條 豫戒命令ヲ受ケタル者ヲ止宿又ハ同居セシムル者ハ二十四時間内ニ其旨ヲ所轄警察署ニ届出テ又所轄警察署ノ要求アルトキハ本令ノ施行ニ關スル事項ニ付事實ノ申立ヲ爲スヘシ

若シ其届出ヲ怠リ又ハ不實ノ申立ヲ爲シタルトキハ三圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス
第八條 豫戒命令違反ノ刑ハ其本住所ノ地ノ所屬監獄ニ於テ之ヲ執行スルコトヲ得
第九條 本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

第五章 銃砲火藥類ノ取締

銃砲火藥類取締法 (明治三十二年八月法律第六號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル銃砲火藥類取締法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

銃砲火藥類取締法

第一條 本法ニ於テ銃砲ト稱スルハ軍用銃砲及非軍用銃砲ヲ謂フ火藥類ト稱スルハ火藥、雷管、導火線其ノ他爆發質物品ヲ謂フ
第二條 軍用銃砲及火藥類ハ官廳ノ委任ヲ受ケタル者ニテラサレハ製造又ハ輸入スルコトヲ得ス但シ火藥商及特ニ官廳ノ許可ヲ受ケタル者ハ火藥類輸入ハ此ノ限ニ在ラス

第三條 新奇發明ニ係ル軍用銃砲又ハ火藥類ヲ試驗ノ爲製造セムトスル者ハ陸軍大臣ノ許可ヲ受クヘシ但シ特ニ海軍大臣ノ主管ニ係ルモノニ付テハ海軍大臣ノ許可ヲ受クヘシ

陸軍大臣又ハ海軍大臣ハ試驗製造ノ成績不良ナリト認ムルトキ又ハ廳府縣長官ノ定メタル危害豫防ノ方法ヲ遵守セサルモノト認ムルトキハ何時ニテモ試驗製造許可ヲ取消スコトヲ得

第四條 軍用銃砲ノ種類ハ陸軍大臣之ヲ定ム但シ特ニ海軍大臣ノ主管ニ係ルモノニ付テハ海軍大臣之ヲ定ム

第五條 銃砲製造ノ營業ヲ爲サムトスル者ハ廳府縣長官ノ許可ヲ受クヘシ

銃砲ノ修繕ヲ營業トスル者ハ銃砲製造營業者ト看做ス

第六條 銃砲商及火藥商ノ營業ヲ爲サムトスル者ハ廳府縣長官ノ許可ヲ受クヘシ

第七條 火藥商及銃砲商ノ廳府縣ニ於ケル定員ハ内務大臣之ヲ定ム

第八條 第五條及第六條ノ營業許可ヲ受ケタル者其ノ許可ノ日ヨリ六箇月以内ニ開業セス又ハ開業後一箇年間休業シタルトキハ廳府縣長官ハ其ノ許可ヲ取消スコトヲ得

第九條 銃砲製造營業者銃砲商又ハ火藥商ハ法律命令ニ違背シ又ハ銃砲火藥類ヲ危險ノ用ニ供スルノ虞アルトキハ廳府縣長官ハ營業ノ許可ヲ取消シ又ハ營業ヲ停止スルコトヲ得

第十條 銃砲製造業者ハ其ノ製造改造ニ係ル銃砲ヲ銃砲商以外ノ者ニ賣渡シ讓渡シ交換シ又ハ贈與スルコトヲ得ス但シ官廳又ハ特ニ官廳ノ許可ヲ得タル者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラス

第十一條 銃砲、火藥類ハ行商又ハ露店市場其ノ他屋外ニ於テ販賣スルコトヲ得ス

第十二條 警察官憲兵ハ必要ト認ムルトキハ何人ノ所有ヲ問ハス火藥類ノ検査ヲ爲スコトヲ得

第十三條 内務大臣ハ公共ノ安寧ヲ保持スルニ必要ト認ムルトキハ期間及地域ヲ限リ銃砲、火藥類ノ授受運搬及携帶ヲ禁シ又ハ制限スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ警察官憲兵ハ必要ト認ムルトキハ銃砲ノ検査ヲ爲シ又ハ銃砲、火藥類ヲ領置スルコトヲ得

第十四條 第二條ニ違背シタル者ハ刑法第五百二十七條及第六十一條ニ依リ處斷シ其ノ未タ遂ケサル者ハ刑法未遂犯罪ノ例ニ依リ處斷ス

第十五條 第十三條第一項ノ命令ニ違背シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮又ハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ仍其ノ物件ヲ沒收ス

第十六條 第五條又ハ第六條ノ許可ヲ受ケスシテ營業ヲ爲シタル者及第十九條ノ停止命令ニ違背シテ營業ヲ爲シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十七條 第十條及第十一條ニ違背シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十八條 左ノ事項ニ關シ取締上必要ナル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

- 一 軍用銃砲及火藥類ノ貯藏運搬及其ノ取扱
- 二 火藥類倉庫ノ位置及其ノ構造
- 三 導火藥、煙火、燐寸、爆發質玩具品ノ製造販賣
- 四 火藥類ヲ要スル工業ニ關スル必要ナル事項

附則

第十九條 明治五年第二十八號布告銃砲取締規則及明治十七年第三十一號布告火藥取締規則ハ本法施行ノ日ヨリ廢止ス

同 施行細則

(明治三十二年八月勅令第三百六十六號)

明治十七年第三十二號布告爆發物取締規則ハ本法ノ爲其ノ効力ヲ妨ケラルコトナシ

朕樞密顧問ヲ諮詢シ經テ銃砲火藥類取締施行規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

銃砲火藥類取締施行規則

第三條 銃砲火藥類取締法規則第三條第一項ノ許可ヲ受ケントスル者ハ計畫說明書、圖案其ノ他必要ナル事項ヲ具シ製造地廳府縣長官ヲ經由テ主務省ニ願出スヘシ

試驗製造ニ關スル危害豫防ノ方法ニ付テハ廳府縣長官ハ指揮監督ヲ受ケヘシ

試驗ノ爲製造シタル軍用銃砲及火藥類ハ主務省ハ検査ヲ受ケヘシ

第二條 銃砲火藥類取締法第六條ニ依リ火藥商ニ與フル許可ヲ分チテ甲乙ノ二種トス

甲種ノ許可ヲ受ケタル火藥商ハ火藥類ニ關スル各種ノ商行爲ヲ爲スコトヲ得

乙種ノ許可ヲ受ケタル火藥商ハ火藥類ヲ輸入シ之ヲ官廳又ハ火藥商ニ賣渡スノ外火藥類ニ關スル他ノ商行爲ヲ爲スコトヲ得ス

本令施行前火藥商ノ許可ヲ受ケタル者ハ甲種ノ許可ヲ受ケタル者ト看做ス但シ輸入及卸賣ノ營業ニ限リ許可ヲ受ケタル者ハ乙種ノ許可ヲ受ケタル者ト看做ス

第三條 銃砲製造營業者ニ非サル者非軍用銃砲ヲ製造シタルトキハ製造ヲ竣リタル日ヨリ十日以内ニ其ノ銃砲ノ說明書及圖案ヲ具シ製造シタル銃砲ノ數ヲ廳府縣長官ニ届出其人検査ヲ受

ケルハシ

第四條 銃砲商ニ非サル者ハ所轄警察官署ノ許可ヲ受ケルニ非サレバ軍用銃砲ノ讓渡(賣渡交

換贈與以下做之)ヲ受ケルコトヲ得ス

前項ニ依リテ與ヘタル許可證ハ一箇月間其ノ効力ヲ有ス

第五條 火藥商ニ非サル者ハ劇發火藥(綿火藥、ナイトログリセリン、ダイナマイト、雷汞、其

ノ他劇發質ノ物品)及左ノ數量ヲ超過スル他ノ火藥類ヲ所持スルコトヲ得ス但シ第六條若ハ

第八條ノ許可ヲ受ケタル者ハ此ノ限ニアラス

一 火藥 一貫目

一 小銃實包 千發

一 雷管信管類 千箇

一 導火線 百箇

第六條 火藥商ニ非サル者ハ第八條ノ許可ヲ受ケル場合ト同一ノ條件ヲ有スルニ非サレバ火藥

類輸入ノ許可ヲ受ケルコトヲ得ス

火藥類輸入ノ許可ヲ受ケントスル者ハ種類數量及使用ノ目的ヲ具シ使用地廳府縣長官ニ願出

ヘシ但シ使用地ノ定マラサル場合ニ於テハ所轄廳府縣長官ニ願出ヘシ

前項ノ許可ハ一箇年間其ノ効力ヲ有ス但シ廳府縣長官ハ何時ニテモ之ヲ取消スコトヲ得

第七條 火藥商ニ非サル者火藥類ヲ讓受ケントスルトキハ種類數量及使用ノ目的ヲ具シ所轄警

察官署ノ許可ヲ受ケヘシ但シ特免許若ハ火藥類ヲ要スル工業ノ許可ヲ受ケタル者ハ此ノ限

ニ在ラス

前項ニ依リテ與ヘタル許可證ハ一箇月間其ノ効力ヲ有ス

第八條 鑛業川土工用船内銃砲用漁業用煙火製造用及火藥類ヲ要スル工業用ノ爲劇發火藥若ハ

前項ニ依リテ與ヘタル許可證ハ一箇月間其ノ効力ヲ有ス

前項ニ依リテ與ヘタル許可證ハ一箇月間其ノ効力ヲ有ス

前項ニ依リテ與ヘタル許可證ハ一箇月間其ノ効力ヲ有ス

前項ニ依リテ與ヘタル許可證ハ一箇月間其ノ効力ヲ有ス

前項ニ依リテ與ヘタル許可證ハ一箇月間其ノ効力ヲ有ス

前項ニ依リテ與ヘタル許可證ハ一箇月間其ノ効力ヲ有ス

前項ニ依リテ與ヘタル許可證ハ一箇月間其ノ効力ヲ有ス

前項ニ依リテ與ヘタル許可證ハ一箇月間其ノ効力ヲ有ス

前項ニ依リテ與ヘタル許可證ハ一箇月間其ノ効力ヲ有ス

前項ニ依リテ與ヘタル許可證ハ一箇月間其ノ効力ヲ有ス

前項ニ依リテ與ヘタル許可證ハ一箇月間其ノ効力ヲ有ス

前項ニ依リテ與ヘタル許可證ハ一箇月間其ノ効力ヲ有ス

前項ニ依リテ與ヘタル許可證ハ一箇月間其ノ効力ヲ有ス

前項ニ依リテ與ヘタル許可證ハ一箇月間其ノ効力ヲ有ス

前項ニ依リテ與ヘタル許可證ハ一箇月間其ノ効力ヲ有ス

前項ニ依リテ與ヘタル許可證ハ一箇月間其ノ効力ヲ有ス

前項ニ依リテ與ヘタル許可證ハ一箇月間其ノ効力ヲ有ス

第五條ニ掲ケタル數量ヲ超過スル他ノ火藥類ヲ讓受ケントスル者ハ種類數量及使用ノ目的ヲ具シ使用地廳府縣長官ノ許可ヲ受クヘシ但シ使用地ノ定マラサル場合ニ於テハ所轄廳府縣長官ノ許可ヲ受クヘシ

廳府縣長官前項ニ掲ケタル使用ノ目的ヲ有セサル者ニ對シ劇發火藥若ハ第五條ニ掲ケタル數量ヲ超過スル他ノ火藥類ヲ讓受ケルノ必要アリト認ムルトキハ其ノ事由ヲ具シ内務大臣以テ指揮ヲ受クヘシ

本條ノ許可ハ廳府縣長官ニ於テ何時ニテモ之ヲ取消スルコトヲ得

第九條 使用ノ目的ヲ具シテ輸入又ハ讓受ノ許可ヲ受ケタル火藥類ハ其ノ許可ヲ與ヘタル官廳ノ許可ヲ受クルニ非サレハ他ノ目的ニ使用スルコトヲ得ス

第十條 警察官憲兵ニ於テ必要ト認ムルトキハ銃砲製造業者、銃砲商及火藥商ノ帳簿ヲ検査スルコトヲ得

第十一條 火藥類ハ左ノ規定ニ從ヒ之ヲ貯藏スヘシ

- 一 火藥及導火線ハ木器、亞鉛器、銅器ニ收納スルヲ要ス但シ少量ノ火藥ニ限リ白鐵葉器ニ收納スルコトヲ得
- 二 雷管信管類及小銃實包ハ木器、亞鉛器、銅器、白鐵葉器、厚紙製罐ニ收納スルヲ要ス
- 三 劇發火藥ハ酸氣、鹽氣ヲ含有セサル紙又ハ布(防濕ノ爲ハラビン類ヲ塗抹スルコトヲ得)ヲ以テ包ヨ之ヲ木器、亞鉛器ニ收納スルヲ要ス
- 四 綿火藥及クイサマイトノ類ハ青色試驗紙ト共ニ容器ニ收納シ時時之ヲ検査スヘシ試驗紙ハ赤色ニ變スルノ徵候アルトキハ即時火藥ヲ水中ニ投棄スルコトヲ要ス

五 火藥類ハ容器ト火藥類ト直接ニ接觸セサル爲紙、澁紙若ハ布ヲ以テ隔絶スヘシ但シ少量ノ火藥ヲ白鐵葉器ニ收納スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

雷管信管類ハ火藥並劇發火藥ト同所ニ置クコトヲ得ス

火藥及劇發火藥ハ各之ヲ離隔スヘシ

火藥類ハ普通ノ油紙ヲ以テ包被スルコトヲ得ス

第十二條 劇發火藥若ハ第五條ニ掲ケタル數量ヲ超過スル他ノ火藥類ハ火藥庫若ハ警察官ノ検査ヲ受ケタル倉庫ニ非サレハ貯藏スルコトヲ得ス但シ鑛業土工ニ要スル火藥類ハ其ノ事業中假貯藏所ニ貯藏スルコトヲ得

第十三條 火藥庫倉庫及假貯藏所ニ貯藏スル火藥類ハ左ノ數量ヲ超過スルコトヲ得ス

火藥類ノ種類	庫ノ種類	假貯藏所	倉庫
火藥類	假貯藏所	一萬貫	一萬貫
雷管	假貯藏所	五百貫	五百貫
劇發火藥	假貯藏所	五百貫	五百貫
小銃實包	假貯藏所	五百貫	五百貫
導火線	假貯藏所	無制限	無制限

火藥類ハ左ノ區別ニ從ヒ各別庫ニ貯藏スヘシ

- 一 火藥、小銃實包及導火線
- 二 雷管信管類
- 三 劇發火藥

第十四條 火藥庫及假貯藏所ニハ他ノ物品ヲ貯藏スルコトヲ得ス
劇發火藥若ハ第五條ニ掲ケタル數量ヲ超過スル火藥類ヲ貯藏シタル倉庫ニハ發火ノ虞アル他
ノ物品ヲ貯藏スルコトヲ得ス

第十五條 火藥庫又ハ假貯藏所ハ其ノ位置並建設ノ方法ヲ具シ且假貯藏所ニ在テハ貯藏スヘキ
火藥類ノ種類數量ヲ記シ廳府縣長官ニ差出シ其ノ許可ヲ受ケルニ非サレハ建設スルコトヲ得
ス

火藥庫又ハ假貯藏所ノ建築修繕又ハ模様替ノ工事ヲ竣リタルトキハ警察官ノ検査ヲ受ケヘ
シ

第十六條 火藥庫ハ土藏又ハ煉瓦造ニシテ屋根ハ輕量ノ不燃質物ヲ用井内部ニハ鐵類石瓦ヲ露
ハサス窓ニハ透明ノ硝子ヲ用井ルコトヲ得ス
火藥庫ニハ避雷針ヲ設ケヘシ避雷針ハ其ノ尖頭ヨリ屋端ノ最モ遠隔セル點ニ至ル想像的直線
ト四十五度以内ノ角度ヲ有セシムヘシ

火藥庫ノ圍圍ニハ二間以上ノ距離ニ於テ高八尺以上ノ土堤ヲ築キ其ノ境界ト爲スヘシ
第十七條 警察官憲兵ハ何時ニテモ火藥庫倉庫及假貯藏所ヲ検査シ修繕ヲ命シ又ハ火藥類ノ貯
藏ヲ禁止若ハ停止スルコトヲ得

第十八條 火藥庫及假貯藏所ノ境界ハ皇居離宮ノ區域ヨリ十町以上ノ距離ヲ保有スヘシ
火藥庫及假貯藏所ノ境界ハ皇陵、社寺境内、公園、火ヲ取扱フ場所、發火質物品ヲ蓄積スル
場所、瓦斯ノ傳導管、宅地、公道、鐵道、電線、汽船ノ航路其ノ他内務大臣ノ指定シタル箇
所ヨリ五十間以上又蓄積セル燃質物ヨリ十四間以上ノ距離ヲ保有スヘシ但シ火藥庫下火藥庫

ト其ノ境界ヲ接スルハ此ノ限ニ在ラズ
假貯藏所ニ付テハ廳府縣長官必要ト認ムルトキハ前二項ノ距離以上ニ於テ特ニ其ノ距離ヲ指
定スルコトアルヘシ
第十九條 第十三條第一項ニ依リ倉庫ニ貯藏シ得ル數量ヲ超過スル火藥類ヲ運搬セントスルト
キハ其ノ種類、數量、運搬ノ日時、道路及運搬先ヲ記シ所轄警察官署ノ許可ヲ受ケ其許可證
ヲ携帯スヘシ

第二十條 劇發火藥若ハ第五條ニ掲ケタル數量ヲ超過スル他ノ火藥類ノ運搬ハ第十一條ニ準據
スヘシ

第二十一條 劇發火藥若ハ第五條ニ掲ケタル數量ヲ超過スル他ノ火藥類ハ警察官署ノ許可ヲ受
ケルニ非サレハ日出前日没後三於テ授受荷造等ヲ爲スコトヲ得ス

第二十二條 警察官憲兵ハ危害豫防ノ爲必要ト認ムルトキハ本令ニ規定スルモノノ外軍用銃砲
及火藥類ノ貯藏運搬其ノ他ノ取扱ニ關シ相當ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第二十三條 左ノ各號ハニ該當スル者ハ五十間以下ノ罰金ニ處ス
一 第一條第二項廳府縣長官ノ指揮命令ニ違背シタル者

二 第二條第三項ニ違背シタル者
三 第八條ノ許可ヲ受ケサル者ニ劇發火藥若ハ第五條ニ掲ケタル數量ヲ超過スル他ノ火藥類
ヲ讓渡シタル者

四 第九條ニ違背シタル者
五 第十條ニ依リ警察官憲兵ノ検査ヲ拒ミタル者

六 第十二條乃至第十六條及第十八條第一項第二項ニ違背シ若ハ第十八條第三項ニ依ル命令ニ違背シテ火藥類ヲ貯藏シタル者

七 第十七條ノ検査ヲ拒ミ又ハ命令ヲ受ケテ修繕ヲ爲サス又ハ貯藏ノ禁止若ハ停止ノ命令ニ從ハサル者

第二十四條 左ノ各號之一ニ該當スル者ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第四條ノ許可ヲ受ケサル者ニ軍用銃砲ヲ讓渡シタル者

二 第七條ノ許可ヲ受ケス又ハ其ノ但書ニ該當セサル者ニ火藥類ヲ讓渡シタル者

三 第八條ノ許可ヲ受ケスシテ劇發火藥若クハ第五條ニ掲ケタル數量ヲ超過スル他ノ火藥類ヲ讓受ケタル者

四 第十一條ニ違背シテ火藥類ヲ貯藏シタル者

五 第十九條第二十條及第二十一條ニ違背シタル者

第三十五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ十圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第一條第三項第三條ニ違背シタル者及第一條第三條第三項若ハ第三條ノ検査ヲ受ケサル火藥類若ハ銃砲ヲ使用若ハ讓渡シタル者

二 第七條ニ違背シテ火藥類ヲ讓渡ケタル者

第二十六條 從來ノ火藥庫又ハ假貯藏所ニシテ其ノ位置若ハ構造本令ノ規定ニ牴觸スルモノハ副府縣長官ノ指定シタル期間ニ於テ之ヲ改ムベシ

第三十七條 汽車若クハ船舶ニ依ル火藥類ノ運搬、運搬ニ關スル一時ノ保管及船舶ニ於ケル火藥類ノ貯藏ニ關スル規程ハ逕信大臣之ヲ定ム

同上 (明治三十二年八月内務省令第四十三號)

銃砲火藥取締法施行細則左ノ通之ヲ定ム

銃砲火藥類取締法施行細則

第一條 銃砲火藥類取締法施行規則第四條ノ許可ヲ受ケントスル者ハ軍用銃砲ノ種類箇數ヲ具シ所轄警察署ニ願出ヘシ

第二條 銃砲火藥類取締法施行規則第八條ノ許可出願ニ際シ火藥類ノ數量ヲ申出ルハ一年ヨリ長カラサルニ定メ期間ニ於ケル需用ノ數量ヲ以テスルコトヲ得

第三條 廳府縣長官銃砲火藥類取締法施行規則第八條ニ依リ火藥類讓受ノ許可ヲ與フルトキハ許可證ヲ交付スルモノトス

前項ノ許可證ハ第十條ニ定メタル記入ノ餘白ナキニ至リタルトキハ之ヲ納付シテ新許可證ヲ申請スルコトヲ得

第四條 第三條並銃砲火藥類取締法施行規則第四條第七條及第十九條ノ許可證ハ甲號及至丁號様式ニ依ルモノトス

第五條 銃砲火藥類取締法施行規則第四條及第七條ノ許可證ハ軍用銃砲又ハ火藥類讓受ノ際之ヲ讓渡人ニ交付スベシ

第六條 狩獵免許若ハ火藥類ヲ要スル工業ノ許可ヲ受ケタル者火藥類ヲ買入ルルトキハ免狀若クハ許可證ヲ讓渡人ニ示スベシ

第七條 第三條ノ許可證ハ火藥類讓受ノ際讓渡人ニ示シテ第十條ノ記入及署名捺印ヲ受ケヘシ

第八條 銃砲又ハ火藥商ニ非サル者相續又ハ遺贈ニ依リ軍用銃砲又ハ劇發火藥若ハ銃砲火藥類ヲ取得ノ日ヨリ十日以内ニ所轄警察官署ニ届出ヘシ
第九條 銃砲商ニ非サル者軍用銃砲ヲ廢棄シ又ハ他人ニ讓渡シ又ハ火藥商ニ非サル者火藥類ヲ

他人ニ讓渡シタルトキハ十日以内ニ所轄警察官署ニ届出ヘシ讓渡ノ場合ニ於テ第五條ニ依リ交付ヲ受ケタル許可證ハ届出ト共ニ警察官署ニ差出スヘシ

第十條 第三條ノ許可證ニ依リ火藥類ヲ讓渡ス者ハ火藥類ノ種類數量及讓渡ノ年月日ヲ許可證ニ記入シ署名捺印スヘシ

第十一條 第三條ノ許可證ハ火藥類ヲ要スル事業ノ終了書止又ハ許可ノ取消ニ依リ其ノ効力ヲ失ヒタルトキハ十日以内ニ所轄警察官署ニ返納スヘシ

第十二條 軍用銃砲火藥類又ハ第三條若ハ銃砲火藥類取締法施行規則第四條第七條及第十九條ノ許可證ヲ遺失喪失又ハ盜取セラレタル者ハ其ノ事實ヲ知リタル時ヨリ二十四時以内ニ軍用銃砲ノ種類簡數又ハ火藥類ノ種類數量又ハ許可證ノ種類之ヲ下付シタル官廳名及遺失若ハ喪失又ハ盜難ノ狀況ニ關シ知り得タル事實ヲ最寄警察官署又ハ巡查派出所巡査駐在所若ハ巡回中ノ警察官更ニ届出ヘシ

第十三條 前條ノ届出ヲ爲シタル者ハ許可ヲ爲シタル官廳ニ事由ヲ説明シテ許可證ノ再下付ヲ

申請スルコトヲ得
第十四條 火藥商及銃砲火藥類取締法施行規則第六條ノ許可ヲ受ケタル者火藥類ヲ輸入シタルトキハ二十四時以内ニ其ノ種類數量及陸揚シタル年月日ヲ陸揚場所所轄警察官ニ届出ヘシ

第十五條 銃砲製造營業者銃砲商及火藥商ハ其ノ取引シタル銃砲及火藥類ノ種類數量取引ノ年月日及讓渡人並注文人讓受人ノ住所氏名其ノ他必要ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ
第十六條 銃砲製造營業者銃砲商及火藥商ハ一箇月間取引シタル銃砲及火藥類ノ種類數量並各種類月末ノ現在高ヲ翌月十日迄ニ所轄警察官署ニ届出ヘシ

第十七條 火藥庫倉庫又ハ假貯藏所ニハ安全ノ裝置ヲ爲ササル燈火ヲ携ヘ又ハ燐燧吹煙具其ノ他發火ノ虞アル器具ヲ帶ヒ又ハ靴若ハ土足ノ儘入ルコトヲ得ス

第十八條 火藥類ヲ運搬スルニハ赤地ニ火藥ノ二字ヲ白書シタル小旗(陸路ニハ曲尺縱二尺横二尺五寸水路ノ小船ニハ曲尺縱三尺五寸横五尺)ヲ建テ看守人ヲ附シ猶火氣ニ注意シ休泊ノ時ハ安全ナル場所ヲ選フヘシ

第十九條 第五條第六條第七條第八條第九條第一項第十條第十二條第十四條第十五條

第十六條第十七條及第十八條ニ違背シタル者並第五條ニ定メタル許可證ノ交付ヲ受ケス又ハ第六條ノ免狀若ハ許可證ヲ査閲セスシテ軍用銃砲又ハ火藥類ヲ讓渡シタル者ハ一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス
 (書式ハ之ヲ畧ス)

第三篇 警察賞與

警察賞與規則

(明治三十二年十月勅令第百二號)

朕警察賞與規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

警察賞與規則

- 第一條 警察賞與ハ内務大臣ノ定ムル規程ニ從ヒ警察上特ニ功勞アリト認ムル者ニ對シテ行フモノトス
- 第二條 府縣警察費ヨリ給與ヲ受クル巡查其ノ他ノ吏員ニ行フヘキ賞與ニ要スル費用ハ其ノ府縣警察費ヲ以テ支辨シ其ノ他ノ賞與ニ要スル費用ハ國庫ノ負擔トシ賞與ヲ行フ廳府縣ニ屬スル經費ヲ以テ支辨スヘシ
- 第二條ノ二 本令中内務大臣ノ職務ハ臺灣ニ於テハ臺灣總督之ヲ行ヒ府縣トアルハ臺灣ニ於テハ縣、廳トス(明治三十四年三月勅令第百二十二號ヲ以テ本條ヲ追加ス其施行期日ハ同年四月一日ナリ)
- 第三條 本令ハ明治三十二年十月十五日ヨリ施行ス

同 施行細則

(明治三十二年十月内務省令第五十二號)

警察賞與規則施行細則左ノ通之ヲ定ム

警察賞與規則施行細則

- 第一條 警察賞與ハ左ノ事項ニ關シ特ニ功勞アリト認ムヘキ者ニ之ヲ施行ス
 - 一 逃走囚人又ハ刑事被告人ノ逮捕
 - 二 人命救助
 - 三 水火災、惡疫流行其ノ他事變ニ於ケル防禦救濟
 - 四 急遽ノ際警察官ノ請求ニ應シテ爲シタル補助
- 第二條 警察賞與ハ功勞ノ輕重ニ從ヒ分テ左ノ三種トス
 - 一 金拾五圓以上五拾圓以下ノ特別賞與
 - 二 金拾五圓未満ノ賞與
 - 三 賞詞
- 第三條 第一條第一號ニ依ル賞與ハ確定判決ニ至ラスト雖犯罪ノ事實明白ナリト認ムヘキトキハ之ヲ行フコトヲ得
- 第四條 警部巡查其ノ他警察事務ニ従事スル者ニ對シテハ其ノ功勞特ニ顯著ナルトキニ限り賞與ヲ行フモノトス
- 第五條 功勞者賞與前ニ死亡シタルトキハ賞與ノ金額ハ左ノ順序ニ從ヒ最近親族ニ給ス但同順位ノ者數人アルトキハ年長者ニ給ス

一 配偶者

一 一戸内ニ在ル直系卑屬

三 一戸内ニ在ル直系尊屬

四 一戸内ニ在ル兄弟姉妹

第六條 功勞者賞典前禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ又ハ警部巡查其ノ他警察事務ニ從事スル者懲戒處分ニ依リ其ノ職ヲ免セラレタルトキハ賞與ヲ行ハス

第七條 賞與ハ警部巡查其ノ他警察事務ニ從事スル者ニ對シテハ其ノ所屬ニ從ヒ其ノ他ノ者ニ對シテハ左ノ區別ニ依リ廳府縣長官之ヲ行フ

一 第一條第一號ノ場合ニ在リテハ最初ニ囚人又ハ刑事被告人ヲ受取リタル官署所在地ノ廳府縣

二 第一條第二號及第三號ノ場合ニ在リテハ行爲地所轄廳府縣

三 第一條第四號ノ場合ニ在リテハ補助ヲ請求シタル警察官所屬廳府縣

第四篇 警察費

府縣警察費ニ對シ國庫下渡金ノ割合

(明治二十一年八月勅令第六十一號)

朕地方税中警察費ニ對スル國庫下渡金改定ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

明治十四年(二月)第十六號布告府縣警察官ニ對スル國庫下渡金ノ割合左ノ通改定ス

第一條 地方税中警察費及警察廳舎建築修繕費ニ對スル國庫下渡金ノ割合ハ東京府ハ其總高ノ拾分ノ四トシ其他ノ府縣(沖繩縣ヲ除ク)ハ六分ノ一トス

第二條 前條割合ノ外警察官吏並ニ之ニ準スヘキ備内外國人ノ諸給與警視廳ノ廳費ハ従前ノ通國庫ヨリ支給ス

第三條 本令ハ明治二十二年度ヨリ施行ス

巡查ノ允請派出及其費用ニ關スル件

(明治十四年四月内務省達乙第二十二號)

銀行又ハ諸會社又ハ町村協議或ハ人民一己ヨリ其費用ヲ納メ巡查ノ配置ヲ請願スル者ハ自今開屆請願ノ場所へ配置不苦候條該費收支方ハ國庫下渡金地方税等ニ連帶セス別ニ其帳簿ヲ調製シ毎年地方税出納算書ト同時ニ報告スヘシ此旨相道候事但本文配置ノ巡查ハ一般ノ成規ニ從ヒ異同無之様取計フヘシ

同上 (明治二十三年十月内務省訓令第三十八號)

明治十四年(四月)内務省乙第二十二號達銀行又ハ諸會社其他ヨリ請願ニ依リ配置スル巡查ハ地方税支辨ニ屬スル巡查ヲ以テ之ニ充テ其請願者ヨリ納ムヘキ費用ハ府縣會ノ決議ヲ經其額ヲ定メテ徵收シ地方税雜收入ニ編入警察費ニ支出スヘシ

第十二類 軍事

第一篇 徵兵

第一章 徵兵

徵兵ノ詔

(明治五年十一月二十八日公布)

朕惟ルニ古昔郡縣ノ制全國ノ兵壯ヲ募リ軍國ヲ設ケ以テ國家ヲ保護ス固ヨリ兵農ノ分ナシ中世以降兵權武門ニ歸シ兵農始テ分レ遂ニ封建ノ治ヲ成ス戊辰ノ一新ハ實ニ千有餘年來ノ一大變革ナリ此際ニ當リ海陸兵制モ亦時ニ從ヒ宜チ制セサルヘカラス今本邦古昔ノ制ニ基キ海外各國ノ式ヲ斟酌シ全國募兵ノ法ヲ設ケ國家保護ノ基ヲ立ント欲ス汝百官有司厚ク朕力意ヲ體シ普ク之ヲ全國ニ告諭セヨ

徵兵告諭

我朝上古ノ制海内舉テ兵ナラサルハナシ有事ノ日天子之カ元帥トナリ丁壯兵役ニ堪ユル者ヲ募リ以テ不服ヲ征ス役ヲ解キ家ニ歸レハ農タリ工タリ又商賈タリ固ヨリ後世ノ變刀ヲ帶ヒ武士ト稱シ抗顔坐食シ甚シキニ至リテハ人ヲ殺シ官其罪ヲ問ハサル者ノ如キニ非ス抑神武天皇珍彥ヲ以テ葛城ノ國造トナセシヨリ爾來軍國ヲ設ケ衛士防人ノ制ヲ定メ神龜天平ノ際ニ至リ六府ニ鎮ヲ設ケ始テ備ル保元平治以後朝綱頹弛兵權終ニ武門ノ手ニ墜チ國ハ封建ノ勢ヲナシ人ハ兵農ノ別ヲ爲ス降テ後世ニ至リ名分全ク泯没シ其弊勝テ云フ可カラズ然ルニ大政維新列藩版圖ヲ奉還

シ辛未ノ歲ニ及ヒ遠ク郡縣ノ古ニ復ス世襲坐食ノ士ハ其祿ヲ減シ刀劍ヲ脱スルヲ許シ四民漸ク自由ノ權ヲ得セシメントス是レ上下チ平均シ人權ヲ齊一ニスル道ニシテ則チ兵農ヲ合一ニスル基ナリ是ニ於テ士ハ從前ノ士ニ非ス民ハ從前ノ民ニアラス均シク皇國一般ノ民ニシテ國ニ報スルノ道モ固ヨリ其別ナカルヘシ凡ソ天地ノ間一事一物トシテ稅アラサルハナシ以テ國用ニ充ツ然ラハ則チ人タルモ固ヨリ心力ヲ盡シ國ニ報セサルヘカラス西人之ヲ稱シテ血稅ト云フ其生血ヲ以テ國ニ報スルノ謂ナリ且ツ國家ニ災害アレハ人人其災害ノ一分ヲ受ケサルヲ得ス是故ニ人人力ヲ盡シ國家ノ災害ヲ防クハ則チ自己ノ災害ヲ防クノ基タルヲ知ルヘシ苟モ國アレハ則チ兵備アリ兵備アレハ則チ人人其役ニ就カサルヲ得ス是ニ由テ之ヲ觀レハ民ノ法タル固ヨリ天然ノ理ニシテ偶然作意ノ法ニ非ス然リ而シテ其制ノ如キハ古今ヲ斟酌シ時ト宜チ制セサルヘカラス西洋諸國數百年來研究實踐以テ兵制ヲ定ム故チ以テ其法極メテ精密ナリ然レトモ政體地理ノ異ナル悉ク之ヲ用フ可カラズ故ニ今其長スル所ヲ取り古昔ノ軍制ヲ補ヒ海陸二軍ヲ備ヘ全國四民男兒二十歳ニ至ル者ハ盡ク兵籍ニ編入シ以テ緩急ノ用ニ備フヘシ郷長里正厚ク此御趣意ヲ奉シ徵兵令ニ依リ民庶ヲ説諭シ國家保護ノ大本ヲ知ラシムヘキ也

明治五年壬申十一月二十八日

太 政 官

徵兵令緒言

兵ヲ徵スルノ方法ハ國家ノ大典忽ニスヘカラサル者ニシテ又之ヲ實踐ニ行フノ難キ固ヨリ言フチ俟タス其法タル古今其利ヲ異ニシ各國其趣ヲ同フセスト雖モ要スルニ一ニ兵兵ニ因ラサル者ナシ所謂民兵ニ二種アリ曰ク壯兵曰ク賦兵是ナリ賦兵ナル者ハ全國ノ丁壯ヲシテ兵服ヲ帶ハシメ陸軍ノ兵員ヲ充タシ其内沿海ノ住民舟楫波濤ニ慣レシ者ヲ以テ海軍ノ兵員ニ充ツ而壯兵ハ自

兵役ヲ望ミ出テシ者ニシテ服役數年ヲ帶ヒ普ク武技ニ熟練シ一團精兵トナリ頗其便益ヲ得ル者ナリ然レトモ後日ニ至リ或ハ弊害ヲ生スル無キ能ハス是故ニ壯兵ノ法ヲ廢シ賦兵一般ノ制度ヲ建テント欲ス竊ニ各國賦兵ノ制ヲ考フルニ大率服役八年乃至二十年ヲ以テ程度トス今國朝實ニ始メテ賦兵ノ大典ヲ起サントスルニ方リ兵役ノ久シキ恐ラクハ人民生活ノ業ヲ妨害シ且當今ノ國力ニ於テモ關係ナシト謂フヘカラス是ニ於テ斟酌其宜ヲ採リ折衷其要ヲ拔キ現今實際ニ行フノ法ヲ定メ題シテ徵兵令ト云フ(以下改正ニ付キ除ク)

軍隊ニ賜ハリタル詔 (明治十五年一月四日公布)

我國ノ軍隊ハ世世天皇ノ統率シ給フ所ニソアル昔神武天皇躬ツカラ大伴物部ノ兵トモチ率非中國ノマツロハヌモノトモチ討チ平ケ給ヒ高御座ニ即カセラレテ天下シロシメシ給ヒヨリ二千五百有餘年ヲ經ヌ其間世ノ様ノ移リ換ルニ隨ヒテ兵制ノ沿革モ亦屢ナリキ古ハ天皇躬ツカラ軍隊ヲ率非給フ御制ニテ時アリテハ皇后皇太子ノ代ラセ給フコトモアリツレト大凡兵權ヲ臣下ニ委子給フコトハナカリキ中世ニ至リテ文武ノ制度皆唐國風ニ倣ハセ給ヒ六衛府ヲ置キ左右馬寮ヲ建テ防人ナト設ケラレシカハ兵制ハ整ヒタレトモ打續ケル昇平ニ狃レテ朝廷ノ政務モ漸文弱ニ流レケレハ兵農カノツカラニ二分レ古ノ徵兵ハイツトナク壯兵ノ姿ニ變リ遂ニ武士トナリ兵馬ノ權ハ一向ニ其武士トモノ棟梁タル者ニ歸シ世ノ亂ト共ニ政治ノ大權モ亦其手ニ落チ凡七百年ノ間武家ノ政治トハナリヌ世ノ様ノ移リ換リテ斯ナレルハ人力モテ挽回スヘキニアラストイヒナカラ且ハ我國體ニ戻リ且ハ我祖宗ノ御制ニ背キ奉リ淺間シキ次第ナリキ降リテ弘化嘉永ノ頃ヨリ徳川ノ幕府其政衰ヘ剩外國ノ事トモ起リテ其侮ヲモ受ケヌヘキ勢ニ迫リケレハ朕カ皇祖

仁孝天皇皇考孝明天皇イタク宸禁ヲ惱シ給ヒシヨソ忝クモ又惶ケレ然ルニ朕幼クシテ天津日嗣ヲ受ケシ初征夷大將軍其政權ヲ返上シ大名小名其版籍ヲ奉還シ年ヲ經ヌシテ海内一統ノ世トナリ古ノ制度ニ復シヌ是文武ノ忠臣良弼アリテ朕ヲ輔翼セル功績ナリ統世祖宗ノ專蒼生ヲ憐ミ給ヒシ御遺澤ナリトイヘトモ併我臣民ノ其心ニ順逆ノ理ヲ辨ヘ大義ノ重キヲ知レルカ故ニコソアレサレハ此時ニ於テ兵制ヲ更メ我國ノ光ヲ耀サント思ヒ此十五年カ程ニ陸海軍ノ制ヲ今ノ様ニ建定メヌ夫兵馬ノ大權ハ朕方統フル所ナレハ其司司ヲコソ臣下ニハ任スナレ其大綱ハ朕親之ヲ攬リ肯テ臣下ニ委メヘキモノニアラス子孫孫ニ至ルマテ篤ク斯旨ヲ傳ヘ天子ハ文武ノ大權ヲ掌握スルノ義ヲ存シテ再中世以降ノ如キ失體ナカラシコトヲ望ムナリ朕ハ汝等軍人ノ大元帥ナルソサレハ朕ハ汝等ヲ股肱ト頼ミ汝等ハ朕ヲ頭首ト仰キテソ其親ハ特ニ深カルヘキ朕カ國家ヲ保護シテ上天ノ惠ニ應シ祖宗ノ恩ニ報イマ非ラスル事ヲ得ルヘルモ得サルモ汝等軍人カ其職ヲ盡スト盡ササルニ由ルソカシ我國ノ稜威振ハサルコトアラハ汝等能ク朕ト其憂ヲ共ニセヨ我武維揚リテ其榮ヲ耀サハ朕汝等ト其譽ヲ偕ニスヘシ汝等皆其職ヲ守リ朕ト一心ニナリテ力ヲ國家ノ保護ニ盡サハ我國ノ蒼生ハ永ク太平ノ福ヲ受ケ我國ノ威烈ハ大ニ世界ノ光華トモナリヌヘシ朕斯モ深ク汝等軍人ニ望ムナレハ猶訓諭スヘキ事コソアレイテヤ之ヲ左ニ述ヘン

一 軍人ハ忠節ヲ盡スチ本分トスヘシ凡生ヲ我國ニ稟クルモノ誰カハ國ニ報ユルノ心ナカルヘキ況シテ軍人タラン者ハ其心ノ固カラテハ物ノ用ニ立チ得ヘシトモ思ハレス軍人ニシテ報國ノ心堅固ナラサルハ如何程技藝ニ熟シ學術ニ長スルモ猶偶人ニヒトシカルヘシ其隊伍モ整ヒ節制モ正クトモ忠節ヲ存セサル軍隊ハ事ニ臨ミテ烏合ノ衆ニ同シカルヘシ抑國家ヲ保護シ國權ヲ維持スルハ兵力ニ在レハ兵力ノ消長ハ是國運ノ盛衰ナルコトヲ辨ヘ世論ニ惑ハス政治ニ

拘ラス只一途ニ己カ本分ノ忠節ヲ守リ義ハ山嶽ヨリモ重ク死ハ鴻毛ヨリモ輕シト覺悟セヨ
其操ヲ破リテ不覺ヲ取リ汚名ヲ受クルナカレ

一 軍人ハ禮儀ヲ正シクスヘシ凡軍人ニハ上元帥ヨリ下一卒ニ至ルマテ其ノ間ニ官職ノ階級アリテ統屬スルノミナラス同列同級トテモ停年ニ新舊アレハ新任ノ者ハ舊任ノモノニ服従スヘキモノソ下級ノモノハ上官ノ命ヲ承ルコト實ハ直ニ朕カ命ヲ承ル義ナリト心得ヨ己カ隷屬スル所ニアラストモ上級ノ者ハ勿論停年ノ己ヨリ舊キモノニ對シテハ總ヘテ敬禮ヲ盡スヘシ又上級ノ者ハ下級ノモノニ向ヒ聊モ輕侮驕傲ノ振舞アルヘカラス公務ノ爲ニ威嚴ヲ主トスル時ハ格別ナレトモ其外ハ務メテ懇ニ取扱ヒ慈愛ヲ專一ト心掛ケ上下一致シテ王事ニ勤勞セヨ若軍人タルモノニシテ禮儀ヲ紊リ上ヲ敬ハス下ヲ惠マスシテ一致ノ和諧ヲ失ヒタランニハ實ニ軍隊ノ蠱毒タルノミカハ國家ノ爲ニモユルシ難キ罪人ナルヘシ

一 軍人ハ勇武ヲ尙フヘシ夫武勇ハ我國ニテハ古ヨリイトモ貴ヘル所ナレハ我國ノ臣民タランモノ武勇ナクテハ叶フマシ況シテ軍人ハ戰ニ臨ミ敵ニ當ルノ戰ナレハ片時モ武勇ヲ忘レテヨカルヘキサハアレ武勇ニハ大勇アリ小勇アリテ同カラス血氣ニハヤリ粗暴ノ振舞ナトセンハ武勇トハ謂ヒ難シ軍人タラムモノハ常ニ能ク義理ヲ辨ヘ能ク膽力ヲ練リ思慮ヲ殫シテ事ヲ謀ルヘシ小敵タリトモ侮ラス大敵タリトモ懼レズ己カ武職ヲ盡サンコソ誠ノ大勇ニハアレサレハ武勇ヲ尙フモノハ常常人ニ接ルニハ溫和ヲ第一トシ諸人ノ愛敬ヲ得ムト心掛ケヨ由ナキ勇ヲ好ミテ猛威ヲ振ヒタラハ果テハ世人モ忌嫌ヒテ豺狼ナトノ如ク思ヒナム心スヘキコトニコソ

一 軍人ハ信義ヲ重ンスヘシ凡信義ヲ守ルコト常ノ道ニハアレトマキテ軍人ハ信義ナクテハ一

日モ隊伍ノ中ニ交リテアラシクト雖カレヘシ信トハ己カ言ヲ踐ミ行ヒ義トハ己カ分ヲ盡スチイフナリサレハ信義ヲ盡サムト思ハハ始ヨリ其事ノ成シ得ヘキカ得ヘカラサルカヲ審ニ思考スヘシ臆氣ナル事ヲ假初ニ諾ヒテヨシナキ關係ヲ結ビ後ニ至テ信義ヲ立テントスレハ進退谷リテ身ノ措キ所ニ苦ムコトアリ悔エトモ其詮ナシ始ニ能ク事ノ順逆ヲ辨ヘ理非ヲ考ヘ其言ハ所詮踐ムヘカラスト知り其義ハトテモ守ルヘカラスト悟リナハ速ニ止ルコソヨケレ古ヨリ或ハ小節ノ信義ヲ立テントテ大綱ノ順逆ヲ誤リ或ハ公道ノ理非ニ踏迷ヒテ私情ノ信義ヲ守リアタラ英雄豪傑トモカ禍ニ遭ヒ身ヲ滅シ屍ノ上ノ汚名ヲ後世マテ遺セルコト其例尠カラヌモノヲ深ク警メテヤハアルヘキ

一 軍人ハ質素ヲ旨トスヘシ凡質素ヲ旨トセサレハ文弱ニ流レ輕薄ニ趨リ驕奢華麗ノ風ヲ好ミ遂ニハ貪汚ニ陥リテ志モ無下ニ賤クナリ節操モ武勇モ其甲斐ナク世人ニ爪ハシキセラルル迄ニ至リヌヘシ其身生涯ノ不幸ナリトイフモ申愚ナリ此風一タヒ軍人ノ間ニ起リテハ彼ノ傳染病ノ如ク蔓延シ士風モ兵氣モ頓ニ衰ヘヌヘキコト明ナリ朕深ク之ヲ懼レテ義キニ免黜條例ヲ施行シ略此事ヲ誠メ置キツレト猶モ其惡習ノ出シコトヲ憂ヒテ心安カラチハ故ニ又之ヲ訓ユルツカシ汝軍人ユメ此訓誠ヲ等閑ニナ思ヒソ

右ノ五ヶ條ハ軍人タランモノ暫モ忽ニスヘカラスサテ之ヲ行ハンニハ一ノ誠心コソ大切ナレ抑此五ヶ條ハ我軍人ノ精神ニシテ一ノ誠心ハ又五ヶ條ノ精神ナリ心誠ナラサレハ如何ナル嘉言モ善行モ皆ウハヘノ裝飾ニテ何ノ用ニカハ立ツヘキ心タニ誠アレハ何事モ成ルモノソカシ況シテヤ此五ヶ條ハ天地ノ公道人倫ノ常經ナリ行ヒ易ク守リ易シ汝等軍人能ク朕カ訓ニ遵ヒテ此道ヲ守リ行ヒ國ニ報ユルノ務ヲ盡サハ日本國ノ蒼生譽リテ之ヲ悅ヒナン朕一人ノ懼ノミナランヤ

徵兵令

(明治二十二年一月法律第一號)

朕徵兵令改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

徵兵令

第一章 總則

第一條 日本帝國臣民ニシテ滿十七歳ヨリ滿四十歳迄ノ男子ハ總テ兵役ニ服スルノ義務アルモノトス

第二條 兵役ハ分テ常備兵役後備兵役補充兵役及國民兵役トス

第三條 常備兵役ハ現役及豫備役トス

現役ハ陸軍ハ三箇年海軍ハ四箇年ニシテ滿二十歳ニ至リタル者之ニ服シ豫備役ハ陸軍ハ四箇年四箇月海軍ハ三箇年ニシテ現役ヲ終リタル者之ニ服ス

第四條 後備兵役ハ五箇年ニシテ常備兵役ヲ終リタル者之ニ服ス

第五條 補充兵役ハ陸軍ニ在テハ第一補充兵役第二補充兵役トシ第一補充兵役ハ七箇年四箇月ニシテ其年所要ノ現役兵員ニ超過スル者ノ中所要ノ人員之ニ服シ第二補充兵役ハ一箇年四箇月ニシテ其年所要ノ第一補充兵員ニ超過スル者之ニ服ス又海軍ニ在テハ一箇年ニシテ其年所要ノ現役兵員ニ超過スル者之ニ服ス

第六條 國民兵役ハ分テ第一國民兵役第二國民兵役トス

第一國民兵役ハ後備兵役及第一補充兵役ヲ終リタル者之ニ服シ第二國民兵役ハ常備兵役後備兵役補充兵役第一國民兵役ニ在サル者之ニ服ス

第七條 各兵役ノ期限既ニ滿ルト雖モ戰時或ハ事變ニ際スルトキ若クハ臨時ニ演習或ハ觀兵ノ

舉アルトキ若クハ航海中或ハ外國駐劄中ハ其期ヲ延スコトアル可シ

第八條 重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ兵役ニ服スルコトヲ許サス

第二章 服役

第九條 陸軍現役兵及補充兵ハ每年所要ノ人員ニ應シ壯丁ノ身材藝能職業ニ從ヒ步兵騎兵砲兵工兵輜重兵職工及雜卒ニ區別シ抽籤ノ法ニ依リ當籤ノ者ヲ以テ之ニ充ツ

海軍現役兵及補充兵ハ每年所要ノ人員ニ應シ沿海地方及島嶼ノ壯丁ヲ調査シ海軍ニ適スル職業ニ從ヒ水兵火夫職工及雜卒ニ區別シ抽籤ノ法ニ依リ當籤ノ者ヲ以テ之ニ充ツ但シ海軍志願兵徵募規則ニ依リ服役スル者ハ本令ノ限ニ在ラス

警備隊ヲ置キタル島嶼ノ壯丁(近衛師團ニ編入スル者ヲ除ク)ハ總テ之ヲ警備隊ニ充テ其地ニ於テ服役セシム但在營期限ハ一箇年以内トス

第十條 雜卒ノ現役期限ハ其職務ニ因リ之ヲ短縮スルコトアル可シ但常備兵役ノ全期ハ之ヲ減スルコトナシ

第十一條 抽籤番號ノ順序ニ由リ其年ノ補充兵役所要員ニ超過スル者ハ國民兵役ニ服セシム

第十二條 二十歳ニ至ラスト雖モ滿十七歳以上ノ者ハ志願ニ由リ現役ニ服スルコトヲ得

第十三條 滿十七歳以上二十八歳以下ニシテ官立學校(小學科及撰科等ノ別科ヲ除ク)府縣立師範學校中學校若クハ文部大臣ニ於テ中學校ノ學科程度ト同等以上ト認メタル學校若クハ文部大臣ノ認可ヲ經タル學則ニ依リ法律學政治學理財學ヲ教授スル私立學校ノ卒業證書ヲ所持シ若クハ陸軍試驗委員ノ試験ニ及第シ服役中食料被服裝具等ノ費用ヲ自辨シ豫備後備將校タル冀望ヲ有スル者ハ志願ニ由リ一箇年陸軍現役ニ服スルコトヲ得但費用ノ全額ヲ自辨シ能ハサ

ルノ證アル者ニハ其幾部ヲ官給スルコトアルヘシ
 一年志願兵ノ豫備後備役年期ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
 滿十七歳以上滿二十八歳以下ニシテ官立府縣立師範學校ノ卒業證書ヲ所持シ官立公立小學校
 ノ教職ニ在ル者ハ六週間陸軍現役ニ服セシム其服役ニ關スル費用ハ官給トス
 前項ノ現役ヲ終リタル者ハ直チニ國民ニ服セシム

第三項又ハ第四項ニ依リ服役中ノ者ニシテ滿二十八歳迄ニ其教職ヲ罷ムル者ハ抽籤ノ法ニ依
 ラスシテ更ニ二箇年間陸軍現役及常例ノ豫備後備役ニ服セシム但第一項ニ依リ一年志願兵
 ナ志願スル者ハ此限ニ在ラス

第十四條 禁錮ノ刑ニ處セラレ若クハ賭博犯ニ由リ懲罰ニ處セラレタル者ハ二年志願兵タルコ
 トヲ許サス

第十五條 現役中殊ニ勤務ニ熱シ品行方正ナル者ハ歸休ヲ命スルコトアル可シ

第十六條 豫備兵後備兵ハ戰時若クハ事變ニ際シ之ヲ召集ス平常ニ在テハ毎年一度六十日以内
 勤務演習ノ爲メ之ヲ召集シ又毎年一度簡閱點呼ヲ爲ス

第十七條 第一補充兵及海軍補充兵ハ現役兵ノ補缺ニ充テ又戰時若クハ事變ニ際シ之ヲ召集ス
 但第一補充兵ヲ以テ現役兵ノ補缺ニ充ツルハ其ノ服役ノ初年ニ限ル

第一補充兵ハ平常ニ在テ百五十日以内教育ノ爲メ之ヲ召集ス其他勤務演習及簡閱點呼ヲ爲ス
 コト豫備兵ニ同シ

第二補充兵ハ戰時若クハ事變ニ際シ第一補充兵ヲ召集シ仍ホ兵員ヲ要スルトキ之ヲ召集ス

第十八條 國民兵ハ戰時若クハ事變ニ際シ後備兵ヲ召集シ仍ホ兵員ヲ要スルトキニ限り之ヲ召

集ス

第三章 免役延期及猶豫

第十九條 兵役ヲ免スルハ癡疾又ハ不具等ニシテ徵兵検査規則ニ照シ兵役ニ堪ヘサル者ニ限ル
 第二十條 左ニ掲グル者ハ徵集ヲ延期ス次年ニ於テ仍ホ徵集ニ適セサル者ハ國民兵役ニ服セシ

第一 體格完全且強壯ナルモ身幹未タ定尺ニ滿タサル者

第二 疾病中又ハ病後ニシテ勞役ニ堪ヘサル者

第二十一條 公權ノ剝奪若クハ停止ヲ附加ス可キ重輕罪ノ爲メ訊問若クハ拘留中ノ者ハ徵集ヲ
 延期ス

第二十二條 徵集ニ應スルトキハ其家族自活シ能ハサルノ確證アル者ハ本人ノ願ニ由リ徵集ヲ
 延期ス其事故三箇年ヲ過クルモ仍ホ止マサル者ハ國民兵役ニ服セシム但分家又ハ絶家廢家再
 興ノ故ヲ以テ本條ニ當ル者其他自活シ能ハサル事故ヲ作爲シタル者ハ其願ヲ許可セス

第二十三條 第十三條第一項ニ掲グル學校ニ在テノ者ハ本人ノ願ニ由リ滿二十八歳迄徵集ヲ猶
 豫ス其事故二十八歳迄ニ止ミ又ハ二十八歳ヲ過クルモ仍ホ止マサル者ハ抽籤ノ法ニ依ラスシ
 テ之ヲ徵集ス但第十三條第一項ニ依リ一年志願兵ヲ志願スル者及第十三條第三項ニ依リ服役
 スル者ハ此限ニ在ラス

外國ニ在ル者(朝鮮國ニ在ル者ヲ除ク)本人ノ願ニ由リ徵集ヲ猶豫ス滿三十二歳迄ニ歸朝スル
 者ハ抽籤ノ法ニ依ラスシテ之ヲ徵集シ三十二歳ヲ過クル者ハ國民兵役ニ服セシム但第十三條
 第一項ニ依リ志願兵ヲ志願スル者ハ此限ニ在ラス

第二十四條 餘人ヲ以テ代フ可カラサル職務ヲ奉スル官吏及市町村長、助役及收入役ハ豫備兵後備兵ニ在ルト第一補充兵ニ在ルトナ間ハス勤務演習簡閱點呼ノ爲メ召集スルコトナシ法律ヲ以テ設立シタル議會ノ議員其開會中亦同シ

第四章 雜則

第二十五條 毎年一月ヨリ十二月迄ニ滿二十歳ト爲ル者ハ其年ノ一月一日ヨリ同月三十一日迄ニ又第二十三條第一項ニ當ル者ニシテ二十八歳迄ニ事故止ミ同條第二項ニ當ル者ニシテ三十二歳迄ニ歸朝シタル者ハ十四日以内ニ書面ヲ以テ(戶主ニ非サル者ハ其戶主ヨリ)本籍ノ市町村ニ届出ツ可シ但二十歳未滿ニシテ現役ヲ終ヘタル者又ハ現役中ノ者ハ本條ノ届出ヲ爲スニ及ハス

第二十六條 徵集ハ本籍所在ノ徵募區ニ於テスルモノトス

第二十七條 疾病又ハ犯罪等ノ爲メ期限ニ際シ入營シ難キ者ハ翌年之ヲ徵集ス

第二十八條 兵役ヲ免レンカ爲メ身體ヲ毀傷シ疾病ヲ作爲シ其他詐僞ノ所爲ヲ用ヒ又ハ逃亡若クハ潜匿シタル者又ハ正當ノ事故ナク身體ノ検査ヲ受ケサル者ハ抽籤ノ法ニ依ラズシテ之ヲ徵集ス

第二十九條 服役年期ノ計算ハ現役豫備役補充役及海軍後備役ニ在テハ各其役ニ就ク年ノ十二月一日(第十三條第三項ニ依リ服役スル者ノ現役年期ノ計算ハ別ニ勅令ヲ以テ規定スル月日ヨリ起算ス)ヨリ陸軍後備役ニ在テハ其役ニ就ク年ノ四月一日ヨリ起算ス但第七條ニ依リ延期シタルモノト雖モ服役年期ノ計算ハ延期セサル者ニ同シ
現役中禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ逃亡シタル者其刑期中及逃亡中ノ日數ハ現役年期ニ算入セス

其豫備役年期ハ現役ヲ終ル年ヨリ起算シ陸軍ニ在テハ第六年目ノ三月三十一日迄海軍ニ在テハ第五年目ノ十一月三十日迄トス但第十條ニ依リ現役年期ヲ短縮シタルモノハ其現役ヲ短縮シタル場合ニ於ケル豫備役年期ニ應シ本項ニ進シテ計算ス
豫備役後備役及補充役中犯罪ノ爲メ又ハ正當ノ理由ナクシテ召集ヲ缺キタル者其召集ヲ缺キタル年ハ服役年期ニ算セス

第五章 罰則

第三十條 第二十五條ノ届出ヲ爲ササル者及正當ノ事故ナク身體ノ検査ヲ受ケサル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十一條 兵役ヲ免レンカ爲メ逃亡シ又ハ潜匿シ若クハ身體ヲ毀傷シ疾病ヲ作爲シ其他詐僞ノ所爲ヲ用ヒタル者ハ一年以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第六章 附則

第三十二條 本令ハ明治二十二年一月ヨリ施行ス但第二十五條ノ届出期限ハ明治二十二年ニ限リ三月一日ヨリ同月十五日迄トス

第三十三條 本令ハ北海道ニ於テ函館江差福山ノ外及沖繩縣並東京府管下小笠原島ニハ漸チ以テ施行ス其時期區域及特ニ徵集ヲ免除シ若クハ猶豫ス可キモノハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十四條 本令中市町村長トアルハ市制町村制ヲ實施スル迄ノ間戶長ノコトトス

第三十五條 現今陸軍豫備役ニ在ル者ノ服役年期ハ第三條ニ依ル其後備役ニ在ル者ハ常備役年期ヲ通シテ十二箇年四箇月トス

第三十六條 舊令第十七條ニ依リ徵集猶豫ニ屬シタル者ハ徵集ヲ延期シ其事故七箇年ヲ過ケル

モ仍ホ止マサルトキハ國民兵役ニ服セシム

第三十七條 舊令第十八條第二項ニ依リ徵集猶豫ニ屬シタル者ハ徵集ヲ延期シ其事故七箇年ヲ過クルモ仍ホ止マサルトキハ國民兵役ニ服セシム

第三十八條 舊令第十八條第七項及第二十一條ニ依リ徵集猶豫ニ屬シタル者ハ徵集ヲ延期シ其事故七箇年ヲ過クルモ仍ホ止マサルトキハ國民兵役ニ服セシム

第三十九條 舊令第十八條第三項ノ生徒ニシテ第一豫備徵員ト爲リ仍ホ在校ノ者ハ該徵員タルコトヲ止メ滿二十七歳迄徵集ヲ猶豫シ其事故二十七歳ヲ過クルモ仍ホ止マサルトキハ國民兵役ニ服セシム

第四十條 第三十六條第三十七條第三十八條及第三十九條ニ掲グル者其事故各其本條ノ期限内ニ止ミタルトキハ抽籤ノ法ニ依リ徵集ス但一年志願兵ヲ志願スルコトヲ得

第四十一條 舊令第十八條第三項若クハ第十九條ニ依リ徵集猶豫ニ屬シ在校ノ者ハ其事故八箇年以内ニ止ミタルトキ又ハ八箇年ヲ過クルモ仍ホ止マサルトキハ抽籤ノ法ニ依リ徵集ス但一年志願兵ヲ志願スルコトヲ得

第四十二條 舊令第三十條ニ依リ補充員ト爲リタル者ハ之ヲ豫備徵員ト爲シ一箇年(明治二十一年十二月一日ヨリ起算ス)ニ徵集セサル者ハ國民兵役ニ服セシム

第四十三條 舊令第三十一條ニ依リ第一豫備徵員ト爲リ在校セサル者及舊令第三十二條ニ依リ第二豫備徵員ト爲リタル者ハ直ニ國民兵役ニ服セシム補充員ヨリ第一豫備徵員ト爲リタル者亦同シ

第四十四條 明治十二年第四十六號布告徵兵令ニ依リ國民軍ノ外免役又ハ平時免役若クハ徵集

猶豫ニ屬シタル者ハ直ニ國民兵役ニ服セシム

第四十五條 舊令第八條ニ依リ海軍兵ト爲リタル者ノ服役期限ハ同令第三條及第四條ニ限ル

第四十六條 第三十六條第三十七條第三十八條ニ掲グル徵集延期ノ者及第三十九條第四十一條ニ掲グル徵集猶豫ノ者其事故各其本條ノ期限内ニ止ミタルトキハ三日以内ニ本籍ノ市町村長ニ届出ツ可シ

第十三條第三項又ハ第四項ニ依リ服役中ノ者ニシテ滿二十八歳迄ニ其教職ヲ罷ムル者ハ三日以内ニ本籍ノ市町村長ニ届出ツ可シ

第一項及第二項ノ届出ヲ爲ササル者及本令施行前舊令第三十五條第三十六條ノ届出ヲ爲サスシテ本令施行後ニ於テ發覺スル者ハ本令第三十條ニ依リ處分ス可シ

北海道ノ一部ニ徵兵令ヲ施行スルノ件

(明治二十八年九月勅令第百二十六號)

朕北海道ニ徵兵令ヲ施行スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 明治二十九年一月一日ヨリ北海道渡島、後志、膽振、石狩ノ四箇國ニ徵兵令ヲ施行ス

第二條 前條ノ徵兵令施行地ニ轉籍移住シ開墾其ノ他一定ノ生業ニ従事スル者ハ轉籍移住ノ開

後五箇年ニ滿ツル年迄徵集ヲ猶豫ス但轉籍移住ノ後前條ノ區域外ニ轉籍シ更ニ轉籍移住シタル者ハ此ノ限ニアラス

占守島ニ轉籍移住ノ者ニ在リテハ滿三十二歳迄徵集ヲ猶豫ス滿三十二歳ヲ過キ仍在住スル者

ハ國民兵役ニ服セシム（明治三十三年八月勅令第三百三十六號ヲ以テ本項ヲ追加ス）
 第三條 屯田現役豫備下士卒ノ戶籍内ニ在ル者ハ徵集ヲ免除ス但シ專ラ兵村ノ業務ニ從事セザル者ハ此ノ限ニ在ラス
 前項ニ依リ徵集免除ニ屬シタル者五箇年以内ニ其ノ資格ヲ失フトキハ徵集ニ應セシム（同上法令ヲ以テ本條ヲ改ム）

沖繩縣ニ徵兵令ノ一部ヲ施行スルノ件

（明治二十八年十月勅令第四百十二號）

朕沖繩縣ニ徵兵令ノ一部施行ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
 明治二十九年一月一日ヨリ沖繩縣ニ徵兵令第十三條第三項第四項ヲ施行ス

沖繩縣及東京府管下小笠原島ニ徵兵令ヲ施行スルノ件

（明治三十年七月勅令第二百五十八號）

朕沖繩縣及東京府管下小笠原島ニ徵兵令ヲ施行スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
 明治三十一年一月一日ヨリ沖繩縣及ヒ東京府管下小笠原島ニ徵兵令ヲ施行ス
 沖繩縣壯丁ニシテ徵集ニ應スルトキハ從來ノ産業ヲ維持スルコト能ハスト認ムル者ハ特ニ徵集ヲ免除ス

小笠原島ニ轉籍移住シ開墾其ノ他一定ノ生業ニ從事スル者ハ轉籍移住ノ後五箇年ニ滿ツル年迄徵集ヲ猶豫ス但轉籍移住ノ後本島外ニ轉籍シ更ニ轉籍移住シタル者ハ此ノ限ニアラス

徵兵事務條例

（明治二十九年三月勅令第百十二號）

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ徵兵事務條例ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
 徵兵事務條例

第一章 徵兵區

第一條 徵兵區ハ師管及聯隊區又ハ警備隊區ノ區域ニ從フ

第二條 聯隊區及警備隊區ハ更ニ之ヲ徵募區ニ分ツ

第三條 徵募區ハ一郡一市（北海道ニ在テハ區又ハ一島廳ノ管轄區域）ヲ以テ一區ト爲ス（明治三十五年二月勅令第三十四號ヲ以テ本條ヲ改ム）

一市ニシテ二聯隊區ニ分屬スルモノハ各別ニ一區ト爲ス

東京市、京都市、大阪市ニ於テハ更ニ徵募區ヲ検査區ニ分チ區ヲ以テ検査區ト爲ス

第四條 步兵隊ノ兵員ハ聯隊毎ニ其ノ師管ノ一聯隊區第一師管ニ在テハ二聯隊ヨリ其ノ他ノ兵員ハ其ノ師管各聯隊區ヨリ徵集ス但要員ヲ充シ能ハサルトキハ他聯隊區若クハ他ノ師管ヨリ其ノ不足ヲ補充スルコトヲ得（明治三十二年四月勅令第百十三號ヲ以テ本條ヲ改メ以下二項ヲ追加ス）

近衛ノ歩兵隊及騎兵隊ノ兵員ハ各師管ヨリ其ノ他ノ兵員ハ第一師管ヨリ徵集ス

鐵道隊ノ兵員ハ第一第二第三第四第八及第九師管ヨリ徵集ス

警備隊ノ兵員ハ其ノ警備隊區ヨリ徵集ス

海軍兵員ハ各師管内沿海及島嶼ヲ包括スル聯隊區ヨリ徵集ス

第二章 徵兵官

第五條 徵兵官ハ總理徵兵官、師管徵兵官、聯隊區徵兵官、警備隊區徵兵官及聯隊區聯合徵兵署徵兵官トス

第六條 總理徵兵官ハ内務大臣及陸軍大臣ヲ以テ之ニ充テ全國徵兵ノ事ヲ統轄ス

第七條 師管徵兵官ハ師管内府縣毎ニ師團長及府縣知事ヲ以テ之ニ充テ師團長ヲ首坐トシ其ノ管内府縣徵兵ノ事ヲ統轄ス

北海道ニ於テハ師團長及北海道廳長官ヲ以テ師管徵兵官ニ充テ師團長ヲ首坐トシ其ノ管内徵兵ノ事ヲ統轄ス

第八條 聯隊區徵兵官ハ聯隊區内徵募區毎ニ聯隊區司令官及島司郡市長(北海道ノ區ニ在テハ區長)ヲ以テ之ニ充テ警備隊區徵兵官ハ警備隊司令官及島司郡長ヲ以テ之ニ充テ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ヲ首坐トシ其ノ區内徵募事務ヲ執行ス

東京市、京都市、大阪市ニ於テハ検査區毎ニ聯隊區司令官及區長ヲ以テ聯隊區徵兵官ニ充テ聯隊區司令官ヲ首坐トシ抽籤事務ヲ除クノ外其ノ區内徵募事務ヲ執行ス

第九條 聯隊區聯合徵兵署徵兵官ハ東京市、京都市、大阪市ニ於テ徵募區毎ニ聯隊區司令官、市長及各區長ヲ以テ之ニ充テ聯隊區司令官ヲ首坐トシ其ノ區内抽籤事務ヲ執行ス(同上法令ニテ本條改正)

第十條 第八條第九條ニ掲グル徵兵官ノ外聯隊區内徵募區(東京市、京都市、大阪市ニ在テハ検査區)毎ニ聯隊區徵兵參事員警備隊區内徵募區毎ニ警備隊區徵兵參事員ヲ置ク

第十一條 聯隊區徵兵參事員又ハ警備隊區徵兵參事員ハ徵兵令第二十二條ニ當ル徵集延期及徵集免除並ニ明治二十八年勅令第二百二十六號第二條ノ徵集猶豫ニ關スル事件ヲ審議シ意見ヲ徵

兵官ニ具申スルヲ任トス但徵兵官ノ裁決ニ付可否ヲ議スルノ權ナキモノトス

第十二條 聯隊區徵兵參事員又ハ警備隊區徵兵參事員ハ郡市名譽職參事員ヲ以テ之ニ充ツ但市ニ於テハ其ノ市名譽職參事員ニ於テ四名ヲ互選シ之ヲ定ム

東京市、京都市、大阪市ノ區ノ聯隊區徵兵參事員ハ市會ニ於テ其ノ區内ニ住スル市公民中撰舉權ヲ有スル者ヨリ四名ヲ撰舉シ之ヲ定ム其ノ任期ハ市會議員ノ例ニ依ル

島廳ヲ置ク島嶼ノ聯隊區徵兵參事員又ハ警備隊區徵兵參事員ハ島司ニ於テ各町村會議員中ヨリ四名ヲ選ヒ府縣知事ノ認可ヲ得テ之ヲ命ス其ノ任期ハ町村會議員ノ任期ニ依ル

北海道ノ郡又ハ區ノ聯隊區徵兵參事員ハ徵募區毎ニ四名トシ北海道廳長官之ヲ命ス其ノ任期等ハ北海道廳長官ノ定ムル所ニ依ル

第十三條 毎年徵募事務執行中ハ師管徵兵醫官及聯隊區徵兵醫官聯隊區徵兵副醫官又ハ警備隊區徵兵醫官警備隊區徵兵副醫官ヲ置ク但シ警備隊區徵兵副醫官ハ時宜ニ依リ之ヲ置カサルコトヲ得

師管徵兵醫官ハ師團長ニ屬シ師管内徵兵身體検査ニ係ル事ヲ管掌シ聯隊區徵兵醫官ハ聯隊區司令官ニ警備隊區徵兵醫官ハ警備隊司令官ニ屬シ其ノ區内徵兵身體検査ニ係ル事ヲ管掌シ聯隊區徵兵副醫官ハ聯隊區徵兵醫官ヲ警備隊區徵兵副醫官ハ警備隊區徵兵醫官ヲ補佐ス(同上)

第十四條 師管徵兵醫官ハ師團軍醫部長ヲ以テ之ニ充テ聯隊區徵兵醫官及警備隊區徵兵醫官ハ陸軍一等軍醫一名聯隊區徵兵副醫官及警備隊區徵兵副醫官ハ陸軍二三等軍醫ノ内一名ヲ以テ之ニ充ツ(同上)

第十五條 毎年徵募事務執行中ハ聯隊區徵兵署、警備隊區徵兵署及聯隊區聯合徵兵署ニ事務員

ヲ置キ該徵兵署ノ庶務ニ従事セシム

第十六條 聯隊區徵兵署事務員又ハ警備隊區徵兵署事務員ハ聯隊區書記又ハ警備隊書記一名若ハ二名及看護長一名並島廳郡市書記(東京市、大阪市及北海道ノ區ニ在テハ區書記)二名乃至四名ヲ以テ之ニ充ツ(明治三十五年勅令第三十四號ヲ以テ本條ヲ改ム)

聯隊區聯合徵兵署事務員ハ聯隊區書記一名若ハ二名市書記二名及各區書記二名乃至四名ヲ以テ之ニ充ツ

第十七條 徵募事務執行ニ際シ聯隊區徵兵參事員又ハ警備隊區徵兵參事員ノ全部ヲ缺クトキハ府縣知事ハ徵募區内ノ公民ニシテ市町村會議員ノ撰擧權ヲ有スル者ニ就キ臨時聯隊區徵兵參事員又ハ臨時警備隊區徵兵參事員ヲ命スルコトヲ得(明治三十二年勅令第百十三號ヲ以テ本條ヲ改ム)

島廳ヲ置キタル島嶼ノ臨時徵兵參事員ハ島司ニ於テ便宜之ヲ命スルコトヲ得

第三章 配 賦

第十八條 毎年徵集スヘキ現役兵及補充兵ノ員數ハ上裁ヲ經テ陸軍大臣之ヲ各師管ニ配賦ス

第十九條 師團長ハ第十八條ニ依リ現役兵及補充兵ノ要員ヲ各聯隊區又ハ警備隊區ニ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ハ之ヲ各徵募區ニ配賦ス

第二十條 現役兵及補充兵ノ配賦ハ壯丁ノ總數ヲ基準トシテ之ヲ定ム(同上)

第四章 徵 募

第二十一條 町村長(町村制ヲ施行セサル地方ニ在テハ戶長)ハ毎年戶籍簿ニ據リ前年十二月一日ヨリ其ノ年十一月三十日迄ノ徵兵適齡者ヲ取調ヘ徵兵令第二十五條ノ屆書ニ照較シ壯丁

名簿ヲ作り二月十五日迄ニ島司又ハ郡長ニ差出シ島司郡長ハ點檢ノ後之ヲ一徵募區ニ取纏メ前年假決ノ諸名簿ト共ニ聯隊區徵兵署又ハ警備隊區徵兵署ニ提出スヘシ(同上、尙明治三十六年三月勅令第六十四號ヲ以テ本項ヲ改メタルモ明治三十五年ニ於テ徵兵上ノ終決處分ヲ受ケタル者ニハ適用セザルコトトシタリ)

市長(東京市、京都市、大阪市及北海道ノ區ニ在テハ區長以下同シ)ハ前項ノ例ニ依リ壯丁名簿ヲ作り前年假決ノ諸名簿ト共ニ之ヲ聯隊區徵兵署ニ提出スヘシ

第二十一條ノ二 假決處分ヲ受ケタル者ニシテ引續キ七箇年間所在不明ナルトキハ其所在分明トナルトキ徵集ニ關スル手續ヲ爲スヘシ(明治三十五年勅令第三十四號ヲ以テ本條ヲ加フ但明治三十五年ニ於テ徵兵上ノ終決處分ヲ受ケタル者ニハ之ヲ適用セザルコトトシタリ)

第二十二條 毎年徵募事務執行ノトキハ各徵募區及檢査區ニ聯隊區徵兵署又ハ警備隊區徵兵署ヲ設ク但土地廣濶若ハ交通不便若ハ壯丁多數ノ徵兵區ニ於テハ二箇所以上ノ地ニ逐次開設スルコトヲ得(明治三十二年勅令第百十三號ヲ以テ改正)

東京市、京都市、大阪市ニ於テハ抽籤執行ノ爲メ別ニ徵募區ニ聯隊區聯合徵兵署ヲ設ク

第二十三條 聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ハ島司郡市長ニ協議シ徵兵署開設ノ日割ヲ定メ聯隊區司令官警備隊司令官ハ師團長ニ島司郡市長ハ北海道廳長官府縣知事ニ申報スヘシ(同上法令ニテ第二項ヲ削ル)

島司郡市長ハ檢査抽籤ノ日時及徵兵署設置ノ場所ヲ豫メ聯隊區徵兵參事員又ハ警備隊區徵兵參事員ニ通知シ且其ノ管内ニ告示スヘシ

第二十四條 兵役ノ適否ヲ定ムル爲メ聯隊區徵兵署又ハ警備隊區徵兵署ニ於テ壯丁ノ身體檢査

ナ行フ其ノ検査ハ徵兵官及徵兵參事員ノ面前ニ於テスルモノトス
町村長ハ前項ノ検査ニ列席シ徵兵官ノ諮詢ニ應スヘシ(明治三十五年勅令第三十四號ヲ以テ
本項ヲ加フ)

第二十五條 聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ハ壯丁ノ身體検査ノ事ヲ監督シ兵種ノ選定ニ任ス
第二十六條 島司郡市長(東京市、京都市、大阪市ニ在テハ區長)ハ徵集延期及徵集猶豫ニ關スル
書類ノ調査及事實ノ審覈ニ任ス(明治三十二年勅令第百十三號ヲ以テ本條改正)

第二十七條 壯丁ノ身體検査終ルトキハ聯隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ハ徵集延期、徵集猶
豫、徵集免除及兵役免除ノ處分ヲ爲シ又壯丁名簿ヲ以テ徵集名簿、徵集延期名簿、徵集猶豫
名簿、徵集免除名簿及兵役免除名簿ヲ作ルヘシ

第二十八條 身體検査ニ合格シタル壯丁ハ徵集順序ヲ定ムル爲メ徵募區毎ニ體格ノ等位及兵種
ヲ分チ聯隊區徵兵署又ハ警備隊區徵兵署ニ於テ抽籤ヲ行フ但東京市、京都市、大阪市ニ於テ
ハ聯隊區聯合徵兵署ニ於テ之ヲ行フ

抽籤ハ徵兵官及徵兵參事員町村長列席ノ上抽籤總代人ヲ爲スモノトス但シ東京市、京都市、
大阪市ノ徵兵參事員ハ各検査區ヨリ一名宛出席スヘシ(同上法令ニテ本項及次項ヲ改メ尙明
治三十五年二月勅令第三十四號ヲ以テ本項ヲ改ム)

抽籤總代人ハ其ノ年ノ壯丁ニ就キ聯隊區徵兵參事員又ハ警備隊區徵兵參事員之ヲ選定ス其ノ
人員ハ適宜トス

第二十九條 前條ノ徵兵官ハ總代人ノ抽キタル籤番號ノ順序ニ依リ抽籤名簿ニ通テ作ルヘシ

第三十條 抽籤終ルトキハ抽籤名簿及徵集名簿ハ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官之ヲ領シ抽

籤名簿、徵集延期名簿、徵集猶豫名簿、徵集免除名簿及兵役免除名簿ハ島司郡市長之ヲ領シ
島司、郡市役所ニ備置クヘシ但東京市、京都市、大阪市ニ於テハ抽籤名簿ヲ除クノ外ハ區長
之ヲ領シ區役所ニ備置クヘシ(明治三十二年勅令第百十三號ヲ以テ本條改正)

第三十一條 各徵募區ノ抽籤終ルトキハ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ハ第十九條ノ配賦ニ基
キ現役兵徵募及補充兵編入ノ處分ヲ爲シ又徵集名簿ヲ以テ現役兵名簿、補充兵名簿及要員超
過名簿ヲ作ルヘシ

第三十二條 聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ハ現役兵名簿ヲ各聯隊長(聯隊ヲ爲ササル隊ニ在
テハ其ノ隊長)及鎮守府兵事官ニ交付シ且現役兵ニ徵募スヘキ者及補充兵ニ編入スヘキ者ノ
順序ヲ島司郡市長ニ通知スヘシ(同上、尙明治三十五年勅令第三十四號ヲ以テ本條ヲ改ム)
抽籤名簿及補充兵名簿ハ之ヲ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ備置キ要員超過名簿ハ島司郡
市長ニ交付シ島司郡市長ニ備置クヘシ

第三十三條 第二十七條ノ處分ヲ爲シタル者ニハ聯隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官第三十一條
ノ處分ヲナシタル者ニハ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官各其ノ證書ヲ附與ス但徵集免除ノ者
竝ニ要員ニ超過シタル者ニハ證書ヲ附與セス

第三十四條 徵募事務終ルトキハ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ハ徵兵事務報告書及徵兵表ヲ
作り十一月十日迄ニ師團長ニ差出シ師團長ハ師管徵兵事務報告書及徵兵表ヲ作り十一月三十
日迄ニ陸軍大臣ニ差出シ陸軍大臣ハ全國徵兵表ヲ作り奏上スヘシ(明治三十四年勅令第三十
四號ヲ以テ本條改正)

第五章 裁 決

第三十五條 裁決ハ分テ假決及終決ノ二種トス

第三十六條 假決ハ徵集延期及徵集猶豫ノ事ヲ裁決シ終決ハ現役兵徵募、補充兵編入、要員超過、徵集免除及兵役免除ノ事ヲ裁決ス

第三十七條 徵集延期、徵集猶豫、徵集免除及兵役免除ノ裁決ハ聯隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官之ヲ爲シ其ノ他ノ裁決ハ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官之ヲ爲ス

第三十八條 壯丁若クハ其ノ家族ニ於テ徵兵令第二十二條及明治二十八年勅令第百二十六號第二條ニ關スル聯隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ノ裁決ニ不服アルトキハ師管徵兵官ニ師管徵兵官ノ裁決ニ不服アルトキハ總理徵兵官ニ訴願スルコトヲ得但訴願ノ爲ニ裁決ノ執行ヲ停止セス

本條ノ訴願ハ裁決書ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ之ヲ爲スヘシ其ノ期日ヲ過ケルモノハ受理セス

第三十九條 徵兵官ノ裁決ニ對シ訴願ヲ爲サントスル者ハ其ノ訴願書ニ同徵募區内其ノ年徵集

ニ應スヘキ壯丁ノ戸主三名ノ保證書ヲ添ヘ其ノ裁決ヲ爲シタル徵兵官ヲ經由シテ差出スヘシ徵兵官前項ノ訴願書ヲ受領シタルトキハ之ニ前裁決ニ關スル書類ヲ添ヘ上級ノ徵兵官ニ差出スヘシ(明治三十二年勅令第百十三號ヲ以テ本項追加)

第四十條 總理徵兵官又ハ師管徵兵官ハ下級徵兵官ノ處分違法又ハ不當ト認ムルトキハ之ヲ取消シ更ニ處分ヲ命スヘシ但シ師管徵兵官ハ總理徵兵官ノ認可ヲ受クヘシ(同上、尙明治三十五年勅令第百三十四號ヲ以テ本條ヲ改ム)

第四十一條 徵兵官ノ裁決ニ對シテハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ許サス

第六章 現役兵及補充兵

第四十二條 現役兵入營期日ハ毎年十二月一日トス但疾病犯罪其ノ他ノ事故ニ由リ十二月一日ニ入營シ難キ者ハ同月三十一日迄ニ入營セシム(明治三十二年勅令第百十三號ヲ以テ本條改正)

警備隊諸兵ノ入營ハ二期ニ分チ其ノ第一期ハ徵募年ノ十二月一日第二期ハ翌年六月一日トシ砲兵輸卒ノ入營ハ三期ニ分チ其ノ第一期ハ徵募年ノ十二月一日第二期ハ翌年四月一日第三期ハ同年八月一日トシ輜重輸卒ノ入營ハ四期ニ分チ其ノ第一期ハ徵募年ノ十二月一日第二期ハ翌年三月一日第三期ハ同年六月一日第四期ハ同年九月一日トス

第二師管第七師管第八師管及第九師管ニ於テハ砲兵輸卒ノ入營ハ二期ニ分チ其ノ第一期ハ徵募年ノ翌年四月一日第二期ハ同年八月一日トシ輜重輸卒ノ入營ハ三期ニ分チ其ノ第一期ハ徵募年ノ翌年三月一日第二期ハ同年六月一日第三期ハ九月一日トス但シ第七師管及第八師管ニ於テ輜重輸卒ノ入營ハ二期ニ分チ其ノ第一期ハ徵募年ノ翌年五月一日第二期ハ同年八月一日トス

戰時若ハ事變ノ際其ノ他必要ノ場合ニ在テハ前諸項ノ入營期日ヲ變更スルコトヲ得

第四十三條 現役兵ヲ入營セシムルトキハ聯隊區司令部員ヲ入營地若ハ近衛、海軍入營兵集落地ニ派遣シ之ヲ當該隊長又ハ近衛、海軍入營兵受領員ニ交付セシム但シ土地ノ狀況ニ由リ入營兵引率員ヲシテ入營地若ハ近衛、海軍入營兵集落地ニ引率セシムルコトアルヘシ

入營兵ノ人員寡少ナルトキ及入營兵受領員出發後到着シタル者ハ直ニ入營セシム

第四十四條 現役兵入營ニ際シ父母ノ疾病危篤或ハ死亡ノ爲メ入營ノ延期ヲ願フ者アルトキハ

聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ於テ二十日以内ノ延期ヲ許スヘシ(同上)
 其ノ延期ヲ願フ者ハ願書ニ市町村長(東京市、京都市、大阪市ニ在テハ區長以下同シ)ノ與
 書證印ヲ受ケ其ノ父母疾病危篤ノ者ハ醫師ノ診斷證書ヲ差出スヘシ
 第四十五條 現役兵入營前ハ第四條ノ區域外ニ轉籍(戶籍上本人ノ出入モ含有ス以下同シ)ス
 ルモ所屬ノ隊籍ヲ變更セズ

徵兵令第二十七條ニ當リ翌年回ト爲リタル者ハ身體検査ヲ行ヒ更ニ隊籍ヲ定ムルモノトス但
 第四條ノ區域外ニ轉籍シタル者ハ其ノ地ニ於テ身體検査ヲ行ヒ隊籍ヲ定ム

第四十六條 現役兵入營前死亡シ若クハ疾病犯罪其ノ他ノ事故ニ由リ十二月三十一日迄ニ缺員
 ナ生シ若ハ入營シ難シト認メタル者又ハ入營ノ後死亡シタル者若クハ一時服役ニ堪ヘサル者
 又ハ常備後備ノ服役及永久服役ニ堪ヘ難キ者アルトキハ徵募年ノ翌年一月三十一日迄ニ其ノ
 徵募區同兵種ノ第一補充兵若クハ海軍補充兵ヲ以テ抽籤番號ノ順序ニ從ヒ補充シ若シ其ノ徵
 募區ヨリ補充スルコト能ハサルトキハ聯隊區内他ノ徵募區ヨリ補充ス其ノ配賦ハ各徵募區補
 充兵ノ總數ヲ率トシ比例ヲ以テ之ヲ定ム但警備隊諸兵及砲兵輪卒、輜重輪卒ニシテ本文ノ事
 故ヲ生シタル者アルトキハ入營スヘキ月ノ十日迄ニ次期入營スヘキ者ヲ繰上ケ入營セシム其
 ノ最終期ニ在テハ前期ニ繰上ケタル缺員ト其ノ期ノ缺員ハ第一補充兵ヲ以テ補充ス(同上、
 尙明治三十五年勅令第三十四號ヲ以テ改正スル所アリ更ニ左ノ一項ヲ加フ)
 看護ニシテ前項ノ事項ヲ生シタル者アルトキハ入營スヘキ月ノ十日迄ニ其ノ徵募區同兵種ノ
 第一補充兵ヲ以テ抽籤番號ノ順序ニ從ヒ補充ス
 臨時ニ多數ノ現役兵ノ闕員ヲ生シタル場合ニ於テハ前諸項ノ期日ニ拘ラス第一補充兵ヲ以テ

各年次ニ於ケル現役兵ノ闕員ヲ補充スルコトヲ得(明治三十五年勅令第三十四號ヲ以テ本條
 ナ改ム)

第四十七條 現役兵入營前癱疾又ハ不具ト爲リ永久兵役ニ堪ヘ難キ者アルトキハ聯隊區司令官
 又ハ警備隊司令官ニ於テ兵役ヲ免ス但徵兵令第二十七條ニ當リ翌年回ト爲リタル者其ノ年徵
 募事務終結前ハ此ノ限ニ在ラス

第四十八條 現役兵入營前徵兵令第二十二條ニ當ルヘキ事故ノ生スルトキハ本人ノ願ニ由リ聯
 隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ於テ徵集ヲ延期ス

其ノ願書ニハ同徵募區内其ノ年徵集ニ應スヘキ現役兵ノ戶主二名ノ保證書ヲ添ヘ島司郡市長
 ナ經テ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ差出スヘシ但東京市、京都市、大阪市ニ在テハ區長
 町村ニ在テハ町村長ノ與書證印ヲ受ケヘキモノトス(明治三十二年勅令第百十三號ヲ以テ本
 條改正)

島司郡市長ハ其ノ事實ヲ審覈シ狀況書ヲ作り願書ト共ニ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ送
 付スヘシ

第四十九條 現役兵入營前及補充兵(補充兵證書附與後其ノ年十一月三十日以前ノ者以下同シ)
 轉籍シタルトキハ十四日以内ニ島司郡市長ヲ經テ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ届出ツヘ
 シ但東京市、京都市、大阪市ニ在テハ區長町村ニ在テハ町村長ヲ經由スヘシ
 其ノ轉籍聯隊區外又ハ警備隊區外ニ係ルトキハ舊住地聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ヨリ新
 住地聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ通報スヘシ
 本條ノ届出ヲ爲ササル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第五十條 現役兵入營前及補充兵寄留若クハ十四日以上ノ旅行ヲ爲サントスルトキハ召集ノ

命アルトキ之ヲ通報スヘキ者ヲ定メ市町村ニ在リテハ市町村長(東京市、京都市、大阪市ニ

在リテハ區長)ニ届出ツヘシ其ノ復歸シタルトキ亦同シ(明治三十二年勅令第百十三號ヲ以

テ本條ヲ改メ尙明治三十五年勅令第三十四號ヲ以テ本項ヲ改ム)

本條ノ届出ヲ爲ササル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス
通報人正當ノ事由ナクシテ召集ノ命ヲ通報セス若クハ其ノ通報ヲ遅緩シタルトキハ五錢以上

第七章 雜則

第五十一條 徵兵令第十二條ニ依リ現役ニ服センコトヲ志願スル者ハ其ノ願書ニ戸主或ハ後見

人連署シ身元證書ヲ添ヘ市町村長ノ與書證印ヲ受ケ九月一日以前自己ノ服役セント欲スル軍

隊又ハ鎮守府ニ願出テ許可ヲ受クヘシ但軍隊又ハ鎮守府遠離ノ地ニ居住ノ者ハ徵兵検査ノ際

聯隊區徵兵署又ハ警備隊區徵兵署ニ申立テ身體検査ヲ受ケ合格ノ者ハ合格證書ヲ添ヘ願出ル

コトヲ得(明治三十五年勅令第三十四號ヲ以テ本條ヲ改ム)

検査ノ爲メ往復ノ旅費及入營旅費ハ自辨トス
第五十二條 第五十一條ニ依リ服役ノ許可ヲ受ケタル者ハ入營前本籍地ノ市町村長ニ届出ツヘ

シ
第五十三條 他ノ徵募區ニ寄留シ其ノ地ニ於テ身體検査ヲ受ケンコトヲ冀望スル者ハ寄留地ノ

島司郡市長(東京市、京都市、大阪市ニ在リテハ區長以下同シ)ニ願出テ且其ノ由ヲ本籍ノ市

町村長ニ届出ツヘシ更ニ寄留換ヲ爲シ其ノ地ニ於テ身體検査ヲ受ケントスル者亦同シ此ノ場

合ニ於テハ前寄留地ノ島司郡市長ニモ届出ツヘシ(同上)

前項ノ願出期日ハ本籍地及寄留地徵募區ノ検査開始前三十日迄ニ迄ニ限ルモノトス

島司郡市長其ノ願ヲ許可シタルトキハ直ニ之ヲ本籍地ノ島司市長ニ通知スヘシ

寄留地徵募區ノ身體検査ニ於テ合格シタル者ハ該徵募區ノ壯丁ト混同シテ抽籤ヲ行ノモノト

ス
第一項ノ届出ヲ爲ササル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第五十四條 徵兵令第二十二條ニ當ル者ハ同徵募區内其ノ年ノ徵集ニ應スヘキ壯丁ノ戸主二名

ノ保證書ヲ添ヘ三月一日迄ニ(三月一問後身體検査前迄ニ事故ノ生シタル者ハ其ノ都度以下

同シ)聯隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ニ願出ツヘシ但其ノ事故二年以上繼續スル者ハ毎年

願出テ其三箇年ヲ過クルモ仍ホ止マサル者ハ本文ノ保證書ヲ添ヘ届出ツヘシ(同上)

前項ノ願書及届書ニハ町村長ノ與書證印ヲ受ケヘキモノトス

第五十五條 徵兵令第二十三條第一項ニ當ル者ハ學校長ノ證明書同條第二項ニ當ル者ハ公使領

事又ハ貿易事務官ノ證明書ヲ添ヘ三月一日迄ニ聯隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ニ願出ツヘ

シ
公使領事及貿易事務官ヲ置キタル國ニ在ル者及一定ノ地ニ在留セサル旅行ノ者ハ其ノ徵集猶

豫願書ニ海外旅券ヲ受取リタル官廳ノ證明書ヲ添ヘ差出スヘシ(明治三十二年勅令第百十三

號ヲ以テ本項ヲ改ム)

公使領事及貿易事務官ヲ置キタル國ニ在ル者ト雖徵集猶豫願書ヲ差出ストキ未タ公使領事又

ハ貿易事務官ノ證明書ヲ得サルトキハ之ニ換フルニ海外旅券ヲ受取リタル官廳ノ承認書ヲ添

へ差出シ置キ道テ證明書ヲ差出スコトヲ得

本條ノ願書ニハ町村長ノ與書證明印ヲ受クヘキモノトス

第五十六條 明治二十八年勅令第二百二十六號第二條ニ當ル者ハ其ノ移住ノ年月日及生業ノ狀況

ヲ詳記シ毎年三月一日迄ニ聯隊區徵兵官ニ願出ツヘシ

前項ノ願書ニハ町村長ノ與書證明印ヲ受クヘキモノトス

第五十七條 徵兵令第二十三條第一項ノ事故止ミタル者ノ願書及同條第二項ノ歸朝シタル者ノ

願書ハ町村長ヨリ其ノ年ノ壯丁名簿進達前ニ在テハ其ノ名簿ト共ニ進達後ニ在テハ受領ノ日

ヨリ三日以内ニ聯隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ニ差出スヘシ

市長ハ前項ノ願書ヲ聯隊區徵兵官若クハ聯隊區聯合徵兵署開設ノトキ同署ニ提出スヘシ

第五十八條 疾病傷疾或ハ犯罪等ノ爲若ハ志願兵出願者ニシテ其ノ検査ノ爲徵兵検査ヲ受ケ難

キ者ハ書面ヲ以テ検査當日迄ニ島司郡市長ニ届出ツヘシ其ノ疾病傷疾ノ者ハ醫師ノ診斷書ヲ

添フヘシ(明治三十五年勅令第三十四號ヲ以テ本條ヲ改ム)

志願兵出願者ニシテ本條ノ届出ヲ爲シタル者ニ對シテハ第五十三條第四項ノ例ニ依リ便宜ノ

徵兵署ニ於テ身體検査及抽籤ヲ行フヘシ

島司郡市長ニ差出ス願書ニハ町村長ノ與書證明印ヲ受クヘキモノトス

本條ノ届出ヲ爲ササル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第五十九條 疾病傷疾或ハ犯罪等ニテ期限ニ際シ入營シ難キ者ハ書面ヲ以テ入營當日迄ニ聯隊

區司令官又ハ警備隊司令官ニ届出ツヘシ其ノ疾病傷疾ノ者ハ醫師ノ診斷書ヲ添フヘシ其ノ届

書ニハ市町村長ノ與書證明印ヲ受クヘキモノトス

本條ノ届出ヲ爲ササル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第六十條 徵兵署ノ諸費、壯丁及抽籤總代人ノ旅費、現役兵入營ノ旅費徵兵參事員ノ手當金

旅費ハ官給ス(明治三十二年勅令第百十三號ヲ以テ本條ヲ改ム)

第六十一條 第四十條ニ依リ更ニ處分ヲ爲ストキハ臨時徵兵署ヲ開設スルコトヲ得(同上)

第六十二條 島嶼ニ於テ本條例中ノ條規ヲ實施スルコト能ハサルトキハ師團長、地方長官協議

ノ上適宜ノ方法ヲ設クルコトヲ得(明治三十二年勅令第百十三號ヲ以テ本條第二項ヲ追加シ

明治三十五年勅令第六十四號ヲ以テ之ヲ削ル)

第六十三條 徵兵令ヲ施行セサル地ニ寄留ノ者ハ寄留最寄ノ徵募區ニ於テ身體検査ヲ受クルコ

トヲ得其ノ願出手續及取扱ハ第五十三條ノ件ニ準ス

韓國在留ノ者ニ在テモ前項ノ例ニ依リ便宜ノ徵募區ニ於テ身體検査ヲ受クルコトヲ得(明治

三十二年勅令第百十三號ヲ以テ本項追加)

第六十四條 徵兵令施行セサル地ヨリ施行ノ地ニ轉籍シタル者ハ其ノ年又ハ翌年ノ徵集ニ應セ

シム但年齡二十六歳ヲ過キ轉籍シタル者ハ此ノ限ニ在ラス

附 則

第六十五條 第七師團ノ兵員ハ當分第一第二第七及第八師管ヨリ徵集ス但シ第七師管外ヨリ徵

集スル者ノ入營ニ係ル取扱ハ第四十三條近衛、海軍入營兵ノ例ニ依ル(同上法令ニテ本條改

正)

第六十六條 聯隊區徵兵參事員又ハ警備隊區徵兵參事員ハ未タ郡制ヲ施行セサル郡ニ在テハ其

ノ郡内ニ於テ四名ヲ選舉シ常選ノ者ヲ以テ之ニ充ツ其ノ選舉人被選舉人資格、選舉ノ方法及

任期ハ總テ府縣會議員ノ例ニ依ル

第六十七條 本條例ハ明治二十九年四月一日ヨリ施行ス

徴兵事務條例補則 (明治三十一年三月勅令第四十一號)

朕徴兵事務條例補則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

徴兵事務條例補則

第一條 徴兵事務條例中北海道及沖繩縣並東京府管下大島、八丈島(小島、青ヶ島、鳥島ヲ包含ス以下同シ)、小笠原島ニ實施シ難キ諸件ハ當分本則ニ依ル(明治三十三年八月勅令第三百三十七號ヲ以テ本條ヲ改ム)

第二條 北海道廳支廳ノ管轄區域及沖繩縣ノ區ハ各之ヲ徵募區ト爲ス(同上、尙明治三十五年二月勅令第三十五號ヲ以テ本條ヲ改ム)

第三條 聯隊區徴兵參事員又ハ警備隊區徴兵參事員ハ一徵募區ニ四名トシ地方長官之ヲ命ス其ノ任期等ハ地方長官ノ定ムル所ニ依ル

第四條 北海道沖繩縣及小笠原島ニ在テ徴兵參事員ハ徴兵事務條例第十一條ニ掲ケル外明治二十八年勅令第二百二十六號第三條明治三十年勅令第二百五十八號第二項若クハ第三項ノ徵集免除又ハ徵集猶豫ニ關スル事件ヲ審議シ意見ヲ徴兵官ニ具申スルヲ任トス(明治三十三年勅令第三百三十七號ヲ以テ本條ヲ改ム)

第五條 明治三十年勅令第二百五十八號第二項ニ當ル者ハ從來ノ經歷及產業ノ現況ヲ詳記シ三月一日迄(三月一日以後事故ノ生シタル者ハ其ノ都度以下同シ)ニ警備隊區徴兵官ニ願出ツヘシ

シ

明治三十年勅令第二百五十八號第三項ニ當ル者ハ其ノ移住ノ年月日及生業ノ狀況ヲ詳記シ毎年三月一日迄ニ聯隊區徴兵官ニ願出ツヘシ

明治二十八年勅令第二百二十六號第三條第一項ニ當ル者ハ其ノ移住ノ年月日及業務ノ現況ヲ詳記シ三月一日迄ニ聯隊區徴兵官ニ願出ツヘシ(同上法令ヲ以テ本項ヲ加フ)

本條ノ願書ニハ町村長ニ進スヘキ者ノ與書證印ヲ受クヘキモノトス

第六條 壯丁若ハ其ノ家族ニ於テ明治二十八年勅令第二百二十六號第三條明治三十年勅令第二百五十八號第二項及第三項ニ依ル警備隊區徴兵官又ハ聯隊區徴兵官ノ裁決ニ不服アルトキハ徴兵事務條例第五章ノ規程ニ依リ訴願スルコトヲ得(同上法令ヲ以テ本條ヲ改ム)

第七條 沖繩縣ニ在テ島司郡區長ハ明治三十年勅令第二百五十八號第二項ニ依ル徵集免除ニ關スル書類ノ調査及事實ノ審覈ニ任ス

第八條 北海道及沖繩縣ニ在テハ師管徴兵官ノ認可ヲ得某徵募區ノ徴兵署ヲ他ノ徵募區内ニ設クルコトヲ得

第九條 沖繩警備隊區ノ壯丁ハ之ヲ第六師團第十二師團及海軍諸兵ニ徵集ス

沖繩警備隊區ニ於ケル現役及補充兵ノ要員ヲ其ノ區ノ壯丁ヲ以テ充スコト能ハサルトキハ其ノ不足員ハ第六師管及第十二師管若ハ其ノ一ヨリ補充ス

現役兵入營後ニ於ケル缺員ハ徴兵事務條例第四條第一項及第五項ノ區域内ニ在ル補充兵ヲ以テ之ヲ補充ス其ノ配賦ハ補充兵ノ總數ヲ率トシ比例ヲ以テ之ヲ定ム(同上法令ヲ以テ本條ヲ加フ)

第十條 第七師管及沖繩縣警備隊區ニ於ケル現役兵補充兵ノ配賦ハ壯丁ノ總員ヨリ明治二十八年勅令第百二十六號第三條第一項明治三十年勅令第百五十八號第二項ニ當ルヘキ豫定ノ人員ヲ除算シタルモノヲ以テ基準トス(同上法令ニテ本條改正)

第十一條 沖繩警備隊區ヨリ徵集ノ現役兵入營ノトキハ地方吏員之ヲ引率シ當該隊長又ハ鎮守府兵事官ニ交付セシム(明治三十五年二月勅令第三十五號ヲ以テ本條改正)

第十二條 徵兵事務條例中警備隊司令官ノ職務ハ沖繩警備隊區ニ在テハ警備隊區司令官市長市書記ノ職務ハ沖繩縣ニ在テハ區長區書記、郡市長郡市書記ノ職務ハ北海道ニ在テハ北海道廳支廳長同支廳ノ屬、町村長職務ハ沖繩縣及大島、八丈島、小笠原島ニ在テハ町村長ニ準スヘキ者之ヲ行フ(明治三十三年勅令第三百三十七號ヲ以テ本條ヲ改ム)

第十三條 北海道廳紗那支廳管下及小笠原島ニ於ケル聯隊徵兵官タル聯隊區司令官ノ職務ハ聯隊區副官若クハ他ノ將校ヲシテ臨時之ヲ行ハシムルコトヲ得

第十四條 北海道廳紗那支廳管下及大島、八丈島、小笠原島ニ於ケル徵兵事務執行ノ際ハ徵兵事務條例第十四條ノ軍醫ノ外仍軍醫一名ヲ以テ聯隊區徵兵醫官ト爲スコトヲ得(同上法令ヲ以テ本項ヲ改ム)

附 則

第十四條 本則中警備隊區ニ係ル事項ハ明治三十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十五條 第五條第一項及第二項ノ願出期日ハ明治三十一年ニ限リ四月二十日迄トス

徵兵事務條例施行規則

(明治二十九年四月陸軍省令第十號)

徵兵事務條例施行細則左ノ通改正ス

徵兵事務條例施行細則

第一條 條例第二十一條ノ壯丁名簿ハ附錄第一様式ニ依リ之ヲ作り一市(東京市、京都市、大阪市及北海道ノ區ニ在テハ區)一町村ヲ一冊ト爲シ冊尾ニ其ノ人員ノ總計ヲ記シ市町村長(東京市、京都市、大阪市ニ在テハ區長)之ニ署名捺印スヘシ

第二條 徵兵令第八條第二十五條但書及明治二十八年勅令第百二十六號第三條ニ當ル者ハ市町村長(東京市、京都市、大阪市ニ在テハ區長)之ヲ調査シ人名書(各事項ヲ頭書ス)ヲ作り壯丁名簿ニ添附スヘシ

第三條 島司郡市長ハ毎年一月一日調ヲ以テ其ノ年ノ徵兵適齡者人員及前年假決ノ人員ヲ同月二十五日迄ニ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ通知シ聯隊區司令官及警備隊司令官ハ其ノ人員ヲ取纏メ二月五日迄ニ師團長ニ報告シ師團長ハ二月廿日迄ニ之ヲ陸軍大臣ニ報告スヘシ(明治三十五年三月陸軍省令第七號及同三十六年同省令第七號ヲ以テ本條ヲ改ム)

前項ノ人員中明治二十八年勅令第百二十六號第三條及明治三十年勅令第百五十八號第二項ニ當ルヘキ人員及前年假決ノ人員ハ各別記スヘシ

第四條 聯隊區徵兵署聯隊區聯合徵兵署及警備隊區徵兵署ハ島司郡市長ニ於テ適當ノ家屋ヲ撰定シ要スレハ吏員ヲ派シテ豫メ準備シ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官到著ノ上之ヲ開謄スヘシ

一 徵募區ニ二箇所以上聯隊區徵兵署ヲ設ケントスルトキハ聯隊區徵兵官豫メ師管徵兵官ノ認可ヲ受ク一箇所概子壯丁百七十人(交通不便ノ地ニ在テハ適宜)以上ヲ召集スヘキ地ニ設ケヘシ

シ

第五條 聯隊區徵兵區署警備隊區徵兵署開設日割既ニ定マルトキハ島司郡市長(東京市、京都市大阪府)ニ在テハ區長)ハ其ノ徵募區又ハ検査區内ニ於テ毎日検査ヲ受クヘキ壯丁ノ順序ヲ定メ期日ニ至リ壯丁ヲ徵兵署ニ出頭セシムヘシ

第六條 身體検査ヲ行フトキハ島廳郡市書記(東京市、京都市、大阪市ニ在テハ區書記)ハ壯丁ヲ呼出シ軍醫ハ徵兵検査規則ニ依リ身體ヲ検査シ體格ノ等級其ノ他所要ノ件ヲ壯丁名簿(前年ノ假決名簿中検査ヲ受クヘキ者ノ名簿ヲ含有ス)ニ記入シ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ差出スヘシ

第七條 身體検査ヲ行フニ當リ壯丁ヲシテ裸體ナラシムルトキハ勉メテ別室若クス隔障内ニ於テスヘシ

第八條 身體検査ハ毎年四月中旬ヨリ九月下旬迄ノ間ニ之ヲ行フナ例トス

其ノ日割表ハ附錄第十一様式ニ依リ之ヲ作り聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ハ二月二十日迄ニ師團長ニ報告シ師團長ハ三月一日迄ニ陸軍大臣ニ報告スヘシ(明治三十五年陸軍省令第七號ヲ以テ本項ヲ改ム)

第九條 徵兵令第二十條第二十一條第二十二條ニ依リ徵集延期ニ屬スル者徵兵令第二十三條及明治二十八年勅令第二百二十六號第二條ニ依リ徵集猶豫ニ屬スル者並ニ徵兵令第十九條ニ依リ兵役免除ニ屬スル者ニハ聯隊區徵兵署又ハ警備隊區徵兵署ニ於テ附錄第二第三様式ニ依リ徵集延期證書徵集猶豫證書兵役免除證書ヲ作り市ハ市長(東京市、京都市、大阪市ニ在テハ區長)ヨリ本人ニ付與シ郡又ハ島嶼ニ在テハ町村長ヲシテ本人ニ付與セシムヘシ

徵集免除ニ屬シ國民兵役ニ服スル者ニハ前項ノ例ニ依リ本人ニ違スヘシ

第十條 徵兵令第二十二條ノ願ヲ許可セサル者及同條ノ事故繼續シテ三箇年ヲ過クルモ仍ホ止マサル旨届出タル者ニシテ徵集免除ニ屬セサル者ニハ其ノ裁決書ヲ市ハ市長(東京市、京都市、大阪市ニ在テハ區長)ヨリ本人ニ付與シ郡又ハ島嶼ニ在テハ町村長ヲシテ本人ニ付與セシムヘシ

明治二十八年勅令第二百二十六號第二條ノ願ヲ許可セサル者亦同シ

第十一條 陸軍兵ニ編入スヘキ者ハ左ノ項目ニ依リ之ヲ選フヘシ(明治三十五年二月陸軍省令第七號ヲ以テ本條ヲ改ム)

- 一 歩兵ハ脚力強健ニシテ勞力ニ堪ヘ且成ルヘク視力聽力完全ナル者
- 二 騎兵ハ馬匹ノ使用ニ慣レ視力聽力完全身體輕捷性質敏捷言語明晰且他兵ニ比シ普通ノ力宇ヲ解シ得ル者其ノ他要員ノ凡十二分一ハ蹄鐵工卒ニ適スル者
- 三 砲兵ハ體力強大視力清明ナル者而シテ野戰砲兵要員ノ凡八分一ハ鍛工卒凡十六分一宛ハ木工、鞍工卒ニ適スル者要塞砲兵ハ成ルヘク讀書算術ヲ能クシ且要員ノ凡十六分一宛ハ鍛工、木工卒ニ適スル者
- 四 工兵ハ成ルヘク工兵ノ作業ニ適當シ臂力アル者其ノ他要員ノ凡二十分一ハ鍛工卒凡六分一ハ木工卒ニ適シ凡五分一ハ船ノ使用ニ慣レタル者又若干ハ電信鐵道ノ業務ニ從事シ成ルヘク讀者算術ヲ能クシ且手指頑固ナラサル者
- 五 輜重兵、輜重輪卒及砲兵輪卒ハ成ルヘク馬匹ノ使用ニ慣レ且臂力アル者而シテ輜重兵ハ成ルヘク讀書算術ヲ能クスル者其ノ他輜重輪卒要員ノ凡五十分一ハ鞍工、木工、鍛工卒ニ

適スル者

六 砲兵助卒ハ成ルヘク弩力アリテ力役ニ堪フル者
七 看護卒ハ成ルヘク患者ノ取扱ニ慣レタル者

第十二條 海軍兵ニ編入スヘキ者ハ左ノ項目ニ依リ之ヲ選フヘシ（明治三十六年三月陸軍省令第七號ヲ以テ本條ヲ改ム）

一 水兵ハ體力強大ニシテ勞力ニ堪ヘ且成ルヘク性質敏捷言語明晰視力聽力完全ニシテ普通ノ文字ヲ解スル者

二 機關兵ハ體力強健ニシテ視力聽力完全シ且成ルヘク普通ノ文字ヲ解シ汽機汽罐ノ取扱ニ慣レタル者

三 軍樂生ハ普通ノ文字ヲ解シ齒列齊正指節強剛ナラサル者
四 木工及鍛冶ハ臂力アリテ成ルヘク其ノ職業ニ慣レタル者

五 看護ハ普通ノ文字ヲ解シ成ルヘク患者ノ取扱ニ慣レタル者
六 主廚ハ成ルヘク割烹ノ職ニ慣レタル者

第十三條 條例第二十七條ノ諸名簿ハ種類ヲ分テ之ヲ編綴シ冊尾ニ聯隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官署名押印スヘシ但シ徵兵令第二十三條第一項ニ依リ徵集猶豫中ニシテ志願兵ヲ出願シタル者ノ猶豫名簿ハ更ニ別綴ト爲シ各假決ノ區畫ニ其ノ事由ヲ記スルモノトス（同上法令ヲ以テ本但書ヲ追加ス）

公權停止中若クハ逃亡失踪等ノ爲メ其ノ年徵集スルコト能ハサル壯丁ハ徵集延期名簿ニ六週間現役ニ服スヘキ者ハ徵集猶豫名簿ニ編入シ各假決ノ區畫ニ其ノ事由ヲ記スルモノトス（明

治三十五年陸軍省令第七號ヲ以テ本項ヲ改ム）

第十四條 聯隊區ニ於テ步兵ノ要員ヲ充スコト能ハサルトキハ聯隊區司令官ヨリ之ヲ師團長ニ具狀シ師團長ハ師管内他ノ各除隊區ニ配賦スヘシ其ノ配賦ハ壯丁ノ總數ヲ率トシ比例ヲ以テ之ヲ定ムルモノトス

師管内ニ於テ要員ヲ充タシ能ハサルトキハ師團長ハ陸軍大臣ニ具狀スヘシ

第十五條 徵兵令第二十三條及明治二十八年勅令第百二十六號第二條ニ依リ徵集猶豫ニ屬スヘキ者ニハ身體検査ヲ施行セス

第十六條 疾病傷痕ノ爲メ身體検査ニ出頭セサル者ハ時宜ニ山リ其ノ家ニ就キ検査スヘシ

第十七條 抽籤施行ニ先タチ聯隊區徵兵署又ハ警備隊區徵兵署若クハ聯隊區聯合徵兵署ニ於テ合格等ノ人員ヲ調査シ兵種及甲乙兩種ニ分テ籤札ヲ作ルヘシ籤ノ番號ハ甲乙兩種各合格者ノ數ニ應シ第一番ヨリ起スナ例トス然レトモ抽籤ノ列ニ加ヘサル者アルトキハ現役ニ編入スルノ順序ヲ定ムル爲メ之ニ首位ノ番號ヲ附著シ其ノ次番號ヨリ籤番號ヲ起スヘシ

第十八條 籤札ハ附録第四様式ニ依リ之ヲ作り籤箱ニ納レ之ヲ封鎖シ徵兵官徵兵參事員列席ノ前ニ置キ其ノ封ヲ披キ徵兵署事務員籤丁名簿ノ順序ニ氏名ヲ呼ビ抽籤總代人ニ之ヲ抽カシム

第十九條 條例第二十九條ノ抽籤名簿ハ附録第五様式ニ依リ之ヲ作り冊尾ニ徵兵官署名押印スヘシ

第二十條 抽籤總代人ハ抽ク所ノ番號ヲ高聲ニ呼ビ其ノ籤札ヲ徵兵署事務員ニ渡シ徵兵署事務員ニ之ヲ籤丁名簿氏名ノ頭ニ貼附シ徵兵署印章ヲ以テ封印ヲ爲シ一人毎ニ之ヲ截チ切リ總代

人ニ交付シ總代人ハ之ヲ市町村長(東京市、京都市、大坂市ニ在リテハ區長)ニ差出シ市町村長ハ之ヲ各人ニ交付スヘシ(明治三十五年陸軍省勅令第七號ヲ以テ本條ヲ改ム)

第二十一條 身體検査ニ合格シタル壯丁中讀書算術ヲ能クシ且身元確實ナル者ニシテ抽籤ノ法ニ依ラズ現役ニ服セシコトヲ志願スル者アルトキハ聯隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官之ヲ許可スルコトヲ得

第二十二條 現役兵及補充兵ノ編入順序ハ左ノ如シ

- 一 甲種合格者ニシテ徵兵令第二十八條ニ當ル者(二人以上ナルトキハ年齢ノ順序同年齡ノ者ハ抽籤ニ依ル第二項第三項第四項第六項第七項第八項亦同シ)(明治三十六年陸軍省令第七號ヲ以テ本號ヲ改ム)
- 二 甲種合格者ニシテ徵兵令第十三條第五項及第二十三條ニ當リ抽籤ノ法ニ依ラスシテ徵集スル者
- 三 甲種合格者ニシテ徵兵令第二十七條ニ當リ徵集スル者
- 四 第二十一條ニ依リ現役志願ヲ許可シタル者
- 五 甲種合格者ニシテ抽籤ノ者(番號ノ順序ニ從フ第九項亦同シ)
- 六 乙種合格者ニシテ徵兵令第二十八條ニ當ル者
- 七 乙種合格者ニシテ徵兵令第十三條第五項及第二十三條ニ當リ抽籤ノ法ニ依ラスシテ徵集スル者
- 八 乙種合格者ニシテ徵兵令第二十七條ニ當リ徵集スル者
- 九 乙種合格者ニシテ抽籤ノ者

第二十三條 聯隊區司令官又ハ警備隊司令官條例第三十一條ノ處分ヲ爲シタルトキハ附録第六様式ニ依リ現役兵證書及補充兵證書ヲ作り市ハ市長ヲ經テ本人ニ付與シ郡又ハ島嶼ニ在テハ島司郡長及町村長ヲ經テ本人ニ付與スヘシ但東京市京都市大坂市ニ在テハ府ノ區長ヲ經由スヘシ

要員超過ノ爲メ國民兵役ニ服スル者ニハ前項ノ例ニ依リ其ノ由ヲ本人ニ達スヘシ

聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ハ第一第二補充兵及海軍補充兵ノ爲抽籤番號ニ基キ各別ニ補充兵編入ノ番號ヲ設ケ壯丁名簿中ニ記入スヘシ(明治三十五年陸軍省令第七號ヲ以テ本項ヲ加フ)

第二十四條 條例第三十一條ノ諸名簿ハ種類ヲ分テ編綴シ冊尾ニ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官署名押印スヘシ

第二十五條 條例第三十四條ノ徵兵表ハ附録第七様式ニ準シ之ヲ作ルヘシ

第二十六條 壯丁名簿進達前(市ニ在テハ調製前)他ノ市町村ニ轉籍スル者アルトキハ市町村長ヨリ本人徵兵適齡届書ヲ添ヘ轉籍地ノ市町村長ニ通知スヘシ但シ原籍地東京市、京都市、大坂市ナルトキハ區長ヨリ又轉籍地同三市ナルトキハ區長ニ通知スヘシ

第二十七條 壯丁名簿進達後條例第三十一條ノ處分前名簿ニ關スル異動ヲ生シタル者若クハ他ノ市町村ヨリ入籍シタル者アルトキハ町村長ハ直ニ之ヲ島司郡長ニ報告シ抽籤前ハ島司郡長其ノ名簿ヲ訂正加除シ抽籤後ニ在テハ之ヲ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ通知スヘシ(明治三十五年陸軍省令第七號ヲ以テ本項ヲ改ム)

市ニ在テ壯丁名簿調製後抽籤前本條ニ當ル者アルトキハ市長(東京市京都市大坂市ニ在テハ

區長)其ノ名簿ヲ訂正加除シ抽籤後條例第三十一條ノ處分前ニ在テハ之ヲ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ通知スヘシ

第二十八條 現役兵入營前及補充兵(補充兵證書付與後其ノ年十一月三十日以前ノ者)ノ名簿ニ關スル異動(轉入簿ヲ除ク)ヲ生シタルトキハ町村長之ヲ島司郡長ニ報告シ島司郡長ハ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ通知スヘシ

市ニ在テ前項ノ異動ハ市長之ヲ聯隊區司令官ニ通知スヘシ但東京市京都市大阪市ニ在リテハ區長ヨリ聯隊區司令官及市長ニ通知スヘシ

第二十九條 壯丁名簿受領後(市ニ在テハ調製後)身體檢前徵募區外ニ轉籍スル者アルトキハ島司郡市長ヨリ壯丁名簿ノ名簿ヲ添ヘ轉籍地ノ島司又ハ郡市長ニ通知スヘシ但シ原籍地東京市京都市、大阪市ナルトキハ區長ヨリ又轉籍地同三市ナルトキハ區長ニ通知スヘシ(明治三十五年陸軍省令第七號ヲ以テ本項ヲ改メ更ニ次項ヲ追加ス)

身體檢査ヲ終リタル徵募區ニ轉籍シタル者アルトキハ成ルルハ其年便宜ノ徵兵署ニ呼出シ條例第五十三條ノ例ニ依リ身體檢査及抽籤ヲ行フモノトス

第三十條 身體檢査後條例第三十一條ノ處分前他ノ徵募區ニ轉籍スルモ總テ舊徵募區ニ於テ之ヲ處分スルモノトス(同上法令ヲ以テ本條ヲ改ム)

第三十一條 抽籤後徵集延期徵集猶豫若クハ入營延期翌年同ト爲リタル者ノ名簿ニ關スル異動ヲ生スル者アルトキハ町村長之ヲ島司郡長ニ報告シ島司郡長ハ其ノ名簿ヲ訂正加除スヘシ但市ニ在テハ市長(東京市、大阪市、京都市ニ在テハ區長)之ヲ訂正加除スヘシ

其ノ徵募區外又ハ檢査區外ニ轉籍スル者ハ島司郡市長ヨリ前項ノ名簿ヲ添ヘ轉籍地ノ島司又

ハ郡市長ニ通知スヘシ但シ原籍地東京市、京都市、大阪市ナルトキハ區長ヨリ又轉籍地同三市ナルトキハ區長ニ通知スヘシ

第三十二條 聯隊區司令官又ハ警備隊司令官條例第四十九條現役兵入營前及補充兵轉籍ノ通報ヲ受ケタルトキハ之ヲ島司郡市長ニ通知シ島司郡市長ハ町村長ニ送スヘシ但シ東京市、京都市、大阪市ニ在テハ區長ニモ通知スヘシ

第三十三條 徵兵令第十三條第五項及條例第六十四條ニ當ル者アルトキハ町村長ハ在籍ニ基キ壯丁名簿ヲ作り島司又ハ郡長ニ差出シ市ニ在テハ市長其ノ名簿ヲ作ルヘシ但シ東京市、京都市、大阪市ニ在テハ區長ニモ通知スヘシ

徵兵令第二十五條ニ依リ適齡屆ヲ爲スヘキ期間ニ於テ戶主未定若ハ失踪等ノ場合ニ在リテモ亦前項ニ依リ取扱フモノトス(同上法令ヲ以テ本項ヲ加フ)

第三十四條 現役兵入營ノ期ニ先タチ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ハ現役兵入營地若クハ集合地ニ到ル日數ヲ量リ召集ノ場所及日時ヲ定メ島司郡市長及町村長ヲ經テ之ヲ各自ニ送スヘシ但シ東京市、京都市、大阪市ニ在テハ尙ホ區長ヲ經由スヘシ

聯隊區外又ハ警備隊區外ニ轉籍シタル者ニ在テハ舊住地聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ヨリ其ノ召集ノ場所及日時ヲ新住地聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ通知シ新住地聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ハ前項ノ例ニ依リ之ヲ各自ニ送スヘシ

第三十五條 條例第四十三條及第六十五條ニ依ル集合地ハ左ノ如シ(明治三十六年陸軍省令第七號ヲ以テ條中改正)

麻布、横濱、高崎、長野、佐倉、 水戸、本郷、宇都宮聯隊區ハ	近衛兵 集合地 東京	海軍兵 集合地 横須賀	第七師團 宇都宮
仙臺、福島聯隊區ハ	同 白河	同 白河	同 仙臺
新發田、柏崎聯隊區ハ	同 直江津	同 直江津	同 仙臺
弘前、盛岡、秋田、山形聯隊區ハ	同 仙臺	同 仙臺	同 青森
名古屋、津、豊橋、静岡聯隊區ハ	同 沼津	同 四日市	
富山聯隊區ハ	同 直江津	同 敦賀	
金澤、鯖江、岐阜聯隊區ハ	同 名古屋	同 敦賀	
大阪、和歌山、大津、京都聯隊區ハ	同 京都	同 神戸	
福知山、神戸、姫路、鳥取聯隊區ハ	同 神戸	同 姫路	
廣島、尾道、山口、濱田聯隊區ハ	同 尾道	同 吳	
丸龜、徳島、松山聯隊區ハ	同 丸龜	同 丸龜	
高知聯隊區ハ	同 神戸	同 神戸	
熊本、大村、鹿兒島、宮崎、小倉、 大分、福岡、久留米聯隊區ハ	同 門司	同 佐世保	
札幌、函館、旭川、釧路聯隊區ハ	同 青森	同 青森	
對馬警備隊區ハ	同 門司		

第三十六條 東京衛戍及大阪衛戍ニ入營セシムル現役兵ハ條例第四十三條但書ニ依リ引率員ヲ附シ之ヲシテ營該隊長ニ交附セシム對馬要塞砲兵隊ニ入營セシムル現役兵亦同シ

第三十七條 近衛師團第七師團及海軍現役兵入營ノ期ニ先々チ近衛師團第七師團司令部及鎮守

府ニ於テ入營兵集合地ヨリ入營地ニ到ル日數ヲ量リ集合地到着ノ日割ヲ定メ豫メ之ヲ各聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ通知スヘシ(明治三十五年陸軍省令會第七號ヲ以テ本項ヲ改メ更次ノ一項ヲ進加ス)

第七師團ニ在リテハ十二月入營スヘキ他ノ師管ヨリ徵集ノ人員ヲ十日間以内ニ於テ二回若ハ

三回ニ分チ入營セシムルコトヲ得但シ其ノ期日ハ陸軍大臣ニ報告スヘシ

第三十八條 條例第四十四條ノ入營延期願濟ノ者其ノ他事故不參ノ者アルトキハ入營兵引率員

(聯隊區司令部所在ノ入營地ニ在テハ聯隊區司令官)ヨリ各隊長又ハ海軍入營兵受領員ニ其ノ

由通知スヘシ

第三十九條 條例第四十六條ニ依リ第一補充兵若クハ海軍補充兵ヲ以テ現役兵ノ缺員ヲ補フニ

ハ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ於テ其ノ取扱ヲ爲スヘシ但他ノ聯隊區又ハ警備隊區ニ轉

籍シタル者ニシテ入營セサル者ノ補缺ハ轉籍地聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ノ通知ヲ得テ

其ノ取扱ヲ爲スヘシ

條例第四十六條第三項ニ依リ現役兵ノ闕員ヲ補フ場合ニハ師團長ハ陸軍大臣ノ認可ヲ受クヘ

シ(明治三十六年陸軍省令第七號ヲ以テ本項ヲ追加ス)

現役兵入營後ノ補缺ハ各隊長又ハ鎮守府兵事官ヨリ當該聯隊區司令官ニ通知スルモノトス

(同上法令ヲ以テ本項ヲ改ム)

第四十條 入營地又ハ集合地派遣ノ聯隊區司令部員又ハ警備隊司令部員ハ現役兵交附ノ際ニ

於テ永久兵役ニ堪ヘ難キ者ト認メタル者アルトキハ一時入營ヲ差止メ其ノ診斷證書ヲ添ヘ聯

隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ具申スヘシ

第四十一條 現役兵第一補充兵及現役兵ニ繰上ケタル海軍補充兵ハ島司郡長（東京市、京都市、大阪市ニ在テハ區長）ヨリ各自ノ戶籍寫ヲ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ送附シ聯隊區司令官ハ第一補充兵ニシテ現役兵ニ繰上ケサル者ヲ除クノ外之ヲ各隊長又ハ鎮守府兵事官ニ送附スヘシ（明治三十五年陸軍省令第七號ヲ以テ本條ヲ改ム）

第四十二條 條例第四十九條又本則第二十八條ニ當ル現役兵入營前ノ異動ハ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官（條例第四十九條ノ異動ハ轉籍地ノ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官）ヨリ各隊長又ハ鎮守府兵事官ニ通知スヘシ（同上）

第四十三條 現役兵入營前徵集延期若クハ入營延期翌年回ト爲リタル者又ハ兵役免除ト爲リタル者ノ名簿ハ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ヨリ島司郡市長ニ送付スヘシ但東京市京都市大阪市ニ在テハ尙ホ市長ヨリ郡長ニ送付スヘシ

前項ノ名簿中入營延期翌年回トナリタル者ノ名簿ハ島司郡市長（東京市、京都市、大阪市ニ在テハ區長）之ヲ徵集延期名簿ニ編入スヘシ

第四十四條 補充兵ニシテ夫々教育ヲ終ラサル者他ノ徵募區ニ轉籍（抽籤後其ノ年十二月三十一日迄ニ係ルモノヲ包含ス）シタルトキハ新舊住地徵募區同種補充兵最高ノ編入番號ヲ率トシ比例ヲ以テ相當番號ノ上位ニ列セシムヘシ（同上）

第四十五條 前條ノ轉籍者アルトキハ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ヨリ島司郡市長ニ通知スヘシ但シ東京市、京都市、大阪市ニ在テハ尙ホ區長ニ通知スヘシ

其ノ轉籍聯隊區外又ハ警備隊區外ニ係ルトキハ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官其ノ名簿ヲ添ヘ舊住地徵募區ノ同種補充兵最高ノ編入番號ヲ轉籍地ノ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ通

知スヘシ（同上法令ヲ以テ本項ヲ改ム）

第四十六條 現役兵入營前及補充兵ニシテ轉籍シタル者ノ現役兵證書、補充兵證書ハ總テ轉籍地ノ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ於テ訂正スヘシ

第四十七條 現役兵證書、補充兵證書ヲ失ヒ又ハ損傷シタル者ハ更ニ下渡ヲ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ請求シ徵兵延期證書、徵集猶豫證書及兵役免除證書ヲ失ヒ又ハ損傷シタル者ハ更ニ下渡ヲ島司郡市長（東京市、京都市、大阪市ニ在テハ區長）ニ請求スヘシ

第四十八條 條例第五十條ノ召集ノ命アルトキ之ヲ通報スヘキ者ハ成年以上ノ男子ニ限ル

第四十九條 條例第五十三條及第六十三條ニ依リ寄留地徵募區ニ於テ身體検査ヲ受クルコトヲ許可シタル旨通知ヲ受ケタル島司郡市長ハ其ノ壯丁名簿若ハ前年ノ假決名簿ヲ直ニ寄留地ノ島司郡市長ニ附送スヘシ（同上法令ヲ以テ本條ヲ改ム）

身體検査若ハ抽籤終ルトキハ前項ノ名簿ニ検査ノ結果及寄留地ノ番號ヲ記入シ之ニ寄留地同兵種最高ノ番號ヲ添ヘ直ニ聯隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ヨリ本籍地ノ聯隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ニ送附スヘシ

第五十條 前條ノ名簿條例第三十一條ノ處分迄ニ到達セサルトキハ其ノ年ノ検査及抽籤ノ成績ニ依リ翌年假決若ハ終決ノ處分ヲ爲スヘシ（同上）

第五十一條 條例第五十一條ノ願書ハ附錄第八様式ニ依リ身元證書ハ附錄第九様式ニ依リ合格證書ハ附錄第十様式ニ依リ之ヲ作ルヘシ

第五十二條 他ノ徵募區ニ於テ身體検査及抽籤ヲ爲シタル者ノ徵集順序ヲ定ムル爲ニハ本籍地寄留地兩徵募區同兵種ノ最高番號ヲ率トシ比例ヲ以テ本籍地同等番號ノ正位ニ列スルモノト

ス(同上法令ヲ以テ本條ヲ追加ス)

第五十三條 志願兵出願者ニシテ採用ニ決シタルトキハ現役兵及補充兵ニ決定スルモ入營ノ前後ヲ問ハス志願ニ應セシム但シ現役兵ニシテ該志願ニ應セサル者ハ條例第四十五條第二項ノ例ニ依リ翌年之ヲ徵集スルモノトス(同上)

聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ハ志願兵採用若ハ志願ニ應セサルコトノ通知ヲ當該官衙學校長ヨリ受ケタル後前項ニ關スル取扱ヲ爲スモノトス

第五十四條 (同上法令ヲ以テ本條ヲ新置シ三十二年陸軍省令第七號ヲ以テ更ニ之ヲ削ル)

第五十五號 島司郡市長(東京市、京都市、大阪市ニ在リテハ區長)ハ一年志願兵出願者(二十歳未満ノ者ヲ除ク)ノ人名及學術試驗ノ要否ヲ調査シ條例第二十一條ノ諸名簿ニ添附スヘシ(同上法令ヲ以テ本條ヲ置ク)

第五十六條 聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ハ成ルヘク條例第五十三條及第六十三條ニ依リ他ノ徵募區ニ於テ身體検査ヲ受ケタル者ノ名簿ヲ受領シタル後條例第三十一條ノ處分ヲ爲スヘシ(同上)

第五十七條 近衛師團及第七師團司令部ハ條例第十八條ノ配賦ニ基キ現役兵ノ入營スヘキ隊號ヲ定メ之ヲ第二十三條ノ現役兵證書調製ニ差支ナキ様當該師團司令部ニ通報スヘシ但シ第七師團ニ在リテハ第三十七條第二項ノ入營期日ヲモ通報スルモノトス(同上)

附 則

第五十八條 第二條中明治二十八年勅令第二百二十六號第三條ニ當ル者ノ人名書ハ明治二十九年ニ於テハ明治二十八年陸軍省令第三十號第三項ニ依リ作りタル名簿ヲ以テ之ニ換フヘシ(同

上法令ヲ以テ本條ノ元第五十二條ナリシヲ第五十八條ニ改ム)

第五十九條 本則中町村長トアルハ町村制ヲ施行セサル地方ニ在テハ戶長又ハ之ニ準スヘキモノトス(同上法令ヲ以テ本條ノ元第五十三條ナリシヲ第五十九條ト改ム)

(様式ハ凡テ之ヲ略ス)

本令ヲ改正セル明治三十五年陸軍省令第七號附則

第三條及第八條ハ本年ニ限リ舊第三條及第八條ニ依ル

徵兵事務條例施行細則中北海道沖繩縣及東京府管下大島八丈島小笠原島ノ各徵募區ニ施行シ難キ諸件ニ關スル件 (明治三十三年十月陸軍省令第三十號)

徵兵事務條例施行細則中北海道沖繩縣及東京府管下大島八丈島小笠原島ノ各徵募區ニ施行シ難キ諸件ハ當分左ノ諸條ニ依ル

第一條 明治二十八年勅令第二百二十六號第三條第一項ニ當ル者ハ徵兵事務條例施行細則第二條ニ依ラス壯丁名簿ヲ作ルヘシ

第二條 明治三十年勅令第二百五十八號第二項ニ依リ徵集免除ニ屬スル者及同第三項ニ依リ徵集猶豫ニ屬スル者ハ身體検査ヲ行ハス

第三條 明治二十八年勅令第二百二十六號第三條第一項及明治三十年勅令第二百五十八號ニ依リ徵集免除徵集猶豫ニ屬スル者ニハ徵兵事務條例施行細則第九條ノ例ニ依リ徵集猶豫證書ヲ付

與シ又ハ徵集免除ノコトヲ違スヘシ
其ノ徵集免除又ハ徵集猶豫願ヲ計可セサル者ニハ徵兵事務條例施行細則第十條ノ例ニ依リ裁
決書ヲ付與スヘシ

第四條 明治二十八年勅令第二百二十六號第三條第二項ノ資格ヲ失ヒタル者アルトキハ該隊長又
ハ後備兵村監視ヨリ本籍地ノ市町村長ニ通知スヘシ但シ其ノ資格ヲ失ヒタル者ノ内屯田下士
兵卒ノ戶籍内ニ在ルモ兵村ノ業務ニ從事セサル者ニ付テハ其ノ事由ヲ詳記スヘシ

第五條 前條ノ通知ヲ受ケタル市町村長ハ異動壯丁名簿ヲ作り之ニ通知書ヲ添附シ町村長ハ其
ノ年ノ壯丁名簿ト共ニ島司郡長ニ差出シ島司郡長ハ聯隊區徵兵署ニ提出スヘシ但シ町村長前
條ノ通知ヲ受ケタルトキ壯丁名簿進達後抽籤前ニ在テハ翌年ノ壯丁名簿ト共ニ差出スヘシ

第六條 明治二十八年勅令第二百二十六號第三條及明治三十年勅令第二百五十八號第三項ニ依リ
徵集猶豫ニ屬シタル者ハ町村長ニ於テ其ノ處分ヲ受ケタル翌年ヨリ徵集猶豫期限滿ツル迄毎
年其ノ生業ノ狀況ヲ調査シ徵兵署開設迄ニ聯隊區徵兵官ニ報告スヘシ

第七條 沖繩警備隊區ニ於テ要員ヲ充スコト能ハサルトキハ警備隊區司令官ヨリ第六師團長ニ
第六師團長ヨリハ之ヲ陸軍大臣ニ具狀スヘシ

第八條 徵兵事務條例補則第九條第三項ニ依リ補缺ヲ要スルトキハ該隊長又ハ鎮守府兵事官ヨ
リ之ヲ師團長ニ申請シ師團長ハ師管内該兵科第一補充兵ノ總員ヲ調査シ聯隊區ニ配賦シ聯隊
區司令官ハ聯隊區内該兵科第一補充兵ノ總員ヲ調査シ之ヲ徵募區ニ配賦スヘシ(明治三十五
年二月陸軍省令第八號ヲ以テ『海兵團長』ヲ『鎮守府兵事官』ニ改ム)

第九條 徵兵事務條例施行細則第二十五條ニ依ル第六師管徵兵表其一中沖繩警備隊區ヨリ第十
三師團ニ徵集スル現役兵ノ人員ハ之ヲ朱書シ第六師團ニ徵集スル者ト區分スヘシ

第十條 沖繩縣ノ島司郡區長ハ現役兵第一補充兵及現役兵ニ繰上ケタル海軍補充兵ノ戶籍寫ヲ
警備隊區司令官ニ送附シ警備隊區司令官ハ第一補充兵ニシテ現役兵ニ繰上ケサル者ヲ除クノ
外之ヲ各隊長又ハ鎮守府兵事官ニ送附スヘシ(同上)

第十一條 徵兵事務條例補則第十一條ノ引率吏員ハ現役兵交付ノ際徵兵事務條例第四十四條ノ
入營延期願濟ノ者其ノ他事故不參ノ者ノ人名及事由ヲ各隊長若ハ鎮守府兵事官ニ通知シ又引
率ノ際永久兵役ニ堪ヘ難キ者ト認ムル者アルトキハ其ノ診斷證書ヲ添ヘ警備隊區司令官ニ通
報スヘシ(同上)

第十二條 徵兵事務條例施行細則中警備隊司令官ノ職務ハ沖繩警備隊區ニ在テハ警備隊區司令
官、郡長郡書記ノ職務ハ北海道ニ在テハ北海道廳支廳長同支廳ノ屬、市長市書記ノ職務ハ北
海道及沖繩縣ニ在テハ區長區書記、町村長ノ職務ハ北海道沖繩縣及大島八丈島小笠原島ニ在
テハ町村長ニ準スヘキ者之ヲ行フ

附 則

明治三十一年陸軍省令第三號ハ之ヲ廢止ス

〔參照〕 明治三十一年(三月)陸軍省令第三號ハ徵兵事務條例施行細則中北海道沖繩縣及小
笠原島ニ施行シ難キ諸件取扱方ノ件ナリ

徵兵令第二十二條ノ餘人ヲ以テ代フ可ラサル官吏

認可ノ件 (明治二十二年二月閣令第六號)

明治二十二年法律第一號徵兵令第二十二條ニ當ル餘人ヲ以テ代フ可カラサル職務ヲ奉スル官吏ハ豫メ其官廳ヨリ内閣ニ具狀シ認可ヲ請フヘシ

徵兵事務條例中徵兵醫官ニ關スル件

(明治二十八年一月勅令第二號)

朕徵兵事務條例中旅管徵兵醫官大隊區徵兵醫官警備隊區徵兵醫官ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

戰時又ハ時變ニ際シテ徵兵事務條例第十五條ノ規程ニ依ラス旅管徵兵醫官ハ陸軍一等軍醫ヲ以テ之ニ充テ大隊區徵兵醫官又ハ警備隊區徵兵醫官ノ職務ハ雇員ヲシテ之ニ從事セシムルコトヲ得但雇員ハ醫術開業免狀ヲ所持スル者ニ限ル

雇員ヲシテ大隊區徵兵醫官又ハ警備隊區徵兵醫官ノ職務ニ復事セシムルトキハ徵兵體格ノ等位ノ適否ハ旅官徵兵醫官之ヲ判定ス

旅管徵兵醫官及大隊區警備隊區徵兵醫官ニ係ル特

例制定ニ付其取扱方ノ件 (明治二十八年一月陸軍訓令乙第一號)

明治廿八年勅令第二號ヲ以テ旅管徵兵醫官及大隊區警備隊區徵兵醫官ニ係ル特例制定ニ付其取扱左ノ通定ム

寄留地ニ於テ身體検査ヲ受クヘク願出ル者ノ取扱

ニ關スル件 (明治三十年四月陸軍省訓令甲第三號)

聯隊區内又ハ警備隊區内他ノ徵募區ニ寄留シ徵兵事務條例第五十三條ニ依リ其地ニ於テ身體検査ヲ受クルコトヲ願出ル者アルトキハ島司郡市長ヨリ之ヲ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ協議シ徵募上故障ナキ者ニ限り許可セシムヘシ

公使領事ヲ置カサル外國ニ留學ノ者徵集猶豫願書

差出方 (明治二十八年一月陸軍省令第一號)

明治二十六年陸軍省令第一號ヲ左ノ通改定ス

一 徵兵令第二十一條第二項ニ依リ徵集猶豫ヲ出願セントスル者ニシテ其願書ニ公使又ハ領事ノ證明書ヲ添ヘ三月一日迄ニ差出シ難キ事情アルモノハ海外族券ヲ受取リタル官廳ノ承認書ヲ以テ公使又ハ領事ノ證明書ニ換ヘ同日迄ニ差出シ置キ追テ該證明書ヲ差出スコトヲ得

- 一 旅管徵兵醫官體格ノ等位ヲ判定スルニハ検査名簿ニ就キ施行セシムヘシ
- 二 大隊區徵兵醫官又ハ警備隊區徵兵醫官ノ職務ニ從事スル雇員ハ師團司令官ニ於テ之ヲ命ス
- 三 前項ノ雇員ニハ検査著手前豫メ旅管徵兵醫官所在地ニ召集シ身體検査ニ關スル手續及諸例規ヲ講習セシムヘシ